愛知県埋蔵文化財センター調査報告書　第160集

西松山峠窯跡
（にしまつやまとうげかまあと）

２００９

財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

序

愛知県瀬戸市は現在日本を代表する窯業生産地ですが、その歴史は古く古代の灰釉陶器生産に端を発します。そして中世には国内唯一の施釉陶器である古瀬戸を生産し、鎌倉を中心として全国に販路を広げる一方、流通がほぼ東海地方に限られる無釉陶器である山茶碗も生産していました。古瀬戸と山茶碗は釉薬の有無の他にも、粘土の質、成形方法、焼成方法、流通範囲など相違点が多く、生産者集団は別と考えられています。しかし１つの窯跡から古瀬戸と山茶碗の両方が出土することがあり、両者は密接な関係を保ちながら生産をしていたと考えられます。

当財団は国道１５５号改良工事に伴う事前調査として、愛知県より委託を受けて西松山峠窯跡の発掘調査を実施しました。窯跡の所在する水野地区は早くから開発が進んだため、残存する窯跡が少ない地域です。調査の結果、山茶碗のみを焼成した窯と考えられていたものが、古瀬戸も焼成していた窯であったことがわかり、この地区の窯業生産の実態を解明する上で大きな成果を上げることができました。

今回これらの成果をまとめた報告書を刊行することになりました。本書が歴史資料として広く活用されるとともに、埋蔵文化財に関するご理解を深める一助となれば幸いに存じます。

なお文末で恐縮ではありますが、発掘調査の実施に当たりまして、地元の方々を初め関係者及び関係機関のご協力とご指導をいただきましたことに深く感謝申し上げる次第であります。

平成２１年３月

財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
理　事　長　　林　　良　三

例言

１．本書は愛知県瀬戸市北松山町に所在する西松山峠窯跡の発掘調査報告書である。

２．発掘調査は国道１５５号改良工事に伴う事前調査として、愛知県建設部道路建設課から愛知県教育委員会を通じて委託を受けた財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターが実施した。

３．調査期間は平成１８年６月から８月まで、調査面積は７５０㎡である。

４．発掘調査の担当者は、小澤一弘（主査、現調査研究専門員）、永井邦仁（調査研究員、現調査研究主任）、宇佐見守（調査研究員、現調査研究主事）である。

５．発掘調査において、株式会社二友組より調査業務全般の支援を受けた。

６．遺物整理および本書作成に関わる整理作業は平成１９年４月から７月まで実施し、永井智子・山田有美子（整理補助員）の協力を得た。（五十音順・敬称略）

なお、整理作業の効率化をはかるため、次の作業を外部委託した。

出土遺物の実測・デジタルトレース（国際航業株式会社）

出土遺物の写真撮影（有限会社写真工房・遊）

炭化材の樹種同定・放射性炭素年代測定（株式会社パレオ・ラボ）

７．本書の執筆と編集は宇佐見が担当したが、第４章のみ野村敏江（株式会社パレオ・ラボ）、パレオ・ラボＡＭＳ年代測定グループが分担執筆した。

８．調査および本書作成にあたっては、埋蔵文化財運営協議会委員、埋蔵文化財専門委員ならびに次の方々、関係機関のご協力、ご指導を得た。

愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室、愛知県埋蔵文化財調査センター、

愛知県建設部道路建設課、瀬戸市教育委員会、財団法人瀬戸市文化振興財団

（順不同・敬称略）

９．調査および本書で使用した座標は、国土交通省告示に定められた国土座標（平面直角座標）第Ⅶ系に基づくものであり、海抜標高はＴ.Ｐ.（東京湾平均海面高度）による。

10．本書で使用した土壌色名は農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』に準じた。

11．遺構番号は原則として発掘調査時に用いた番号を用いた。したがって、土坑（SK）・溝（SD）などの記号にも厳密な統一性はない。

12．発掘調査時の記録（実測図・写真など）は愛知県埋蔵文化財センターで保管し、出土遺物は愛知県埋蔵文化財調査センターで保管している。

目次

挿図目次

表目次

写真図版目次

第１章　経過

第１節　調査の経緯

国道１５５号は、常滑市を起点として名古屋市郊外を環状に巡り弥富市に至る一般国道である。瀬戸市では上之山町から北上し、市街地に入ると向きを西に変え、公立陶生病院付近で再び北上し、名古屋市守山区上志段味に至るルートを通る。特に遺跡のある北松山町周辺では、瀬戸市街地と水野地区を結ぶ主要道路として古くから利用され、明治１８年の地籍図にも描かれている。

この道路の拡幅工事が計画され、当遺跡のある丘陵が削平されることになり、記録保存を目的とした発掘調査をおこなうことになった。そこで、愛知県建設部道路建設課より愛知県教育委員会を通じて委託を受けた㈶愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターが調査を実施した。調査期間は平成１８年６月から８月にかけて、調査面積は７５０㎡である。

また、本書作成にかかる整理作業は、平成１８・１９年度に実施した。１次整理はコンテナ５０箱分の出土遺物の洗浄を発掘調査と併行して実施した。２次整理は出土遺物の分類・接合・復元・実測、遺構図面の整理、各種調査データのパソコン入力を平成１９年４月から７月にかけて実施した。

第２節　調査の方法と経過

調査区のある丘陵斜面には多数の平場が確認でき、中に埋甕のある平場が存在することから、かつては畑として利用されていたと思われる。しかし、調査前は竹混じりの雑木林となっており、平場の段面に山茶碗や焼台などが観察できる状態であった。

樹木を伐採すると、山茶碗以外に古瀬戸の散布が確認され、従来鎌倉時代の山茶碗専焼窯と考えられていたこの窯が、古瀬戸も焼成していた可能性が出てきた。さらに山茶碗も設定していた調査範囲を超えて散布しているのが確認されたため、調査区の表土剥ぎを行う前に、調査区外北側に重機でトレンチを掘削し、遺構の有無を確認した。結果、調査区外に遺構が展開しないことを確認し、調査区の表土剥ぎに着手した。

調査は調査区内に国土座標第Ⅶ系による５ｍグリッドを設定し実施した。出土遺物は出土地点の平場とグリッドがわかるように取り上げた。

左　調査前風景（伐採前、南より）

右　調査前風景（伐採後、南東より）

調査日誌（抄）

6月　7日（水）	晴	調査区地形測量
6月16日（金）	晴	事務所設置
6月19日（月）	晴	調査区フェンス設置
6月20日（火）	晴	午前　調査区外北側に重機によりトレンチ掘削
		午後　調査区表土剥ぎ開始
6月21日（水）	晴	表土剥ぎ平場12を除き終了
6月22日（木）	曇のち雨	午前　トレンチ01掘削
		午後　雨のため作業中止
6月27日（火）	曇	本日から作業員開始
		トレンチ01・02掘削、平場04・06・07表土層掘削
6月28日（水）	晴のち曇	ベルトコンベアー設置
6月29日（木）	晴	平場03・04遺構検出、平場05～07表土層掘削
7月　3日（月）	曇	ベルト02土層断面記録
7月　4日（火）	晴	平場03・04遺構掘削、平場06・07平場造成層（SX018）掘削
7月12日（水）	曇	ベルト03土層断面記録、平場09・10平場造成層掘削
7月13日（木）	曇	平場造成層から磁器製の洋食皿が出土
7月14日（金）	晴	平場11・12表土層掘削（平場12北端は重機を併用）
		平場08でベルト03に沿ってトレンチ掘削
7月18日（火）	雨	雨のため作業中止、ベルト03一部崩壊
7月20日（木）	雨時々曇	午前　ベルト断面写真撮影準備
		午後　雨のため作業中止
7月25日（火）	曇のち晴	ベルト断面写真撮影、撮影後トレンチ01再掘削
7月26日（水）	晴	遺構・ベルト02・03掘削、トレンチ01再掘削
7月27日（木）	晴	ベルト03・灰原（SX001・002）掘削
7月28日（金）	晴	ベルト02・03・SX001掘削
		グリッド1D16q重機により表土層掘削
7月29日（土）	晴	ベルト04掘削、トレンチ01・ベルト01土層断面記録
		SX001・019の遺物出土状況写真撮影
7月31日（月）	曇	遺構・ベルト04掘削、空撮に向けて清掃
8月　1日（火）	曇	午前　ラジコンヘリによる空撮
		午後　ベルト01・トレンチ02ベルト掘削、SX001断ち割り
8月　2日（水）	曇	SX001・019掘削、調査区西壁土層断面記録
8月　3日（木）	晴	午前で作業員終了、トレンチ01の一部を重機で断ち割り
8月　7日（月）	晴	調査区フェンス撤去

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

西松山峠窯跡の所在する瀬戸市北松山町は、瀬戸市の中央やや西よりに位置する。遺跡の北西方向には水野団地が、また北東方向には瀬戸市民公園が存在し、瀬戸市内では比較的早くから開発が進んだ地域である。そのようななか、遺跡はかろうじて開発を免れ雑木林となっている標高約１２５ｍの丘陵東向き斜面に立地する。遺跡の東側を国道１５５号が南北に通るが、この丘陵地を抜ける最高地点は切り通しの峠となっており、遺跡と道路との高低差は約３ｍを測る。

図１　瀬戸市の位置

瀬戸市域の丘陵は、矢田川・瀬戸川・水野川により開析されたもので、南から幡山丘陵・菱野丘陵・水野丘陵・穴田丘陵と呼ばれる。遺跡の立地する丘陵は水野川と瀬戸川にはさまれた水野丘陵である。水野丘陵は、東部に瀬戸陶土層が、西部に水野砂礫層が広く分布し、現在でも陶土や珪砂の採掘がさかんである。また、遺跡の周辺には北松山町の他にも西松山町・東松山町など「松」の字がつく地名があり、付近に松林が広がっていたことが想像される。このようなことから、窯業生産に必要な原料や燃料などは比較的手に入れやすかったと考えられる。

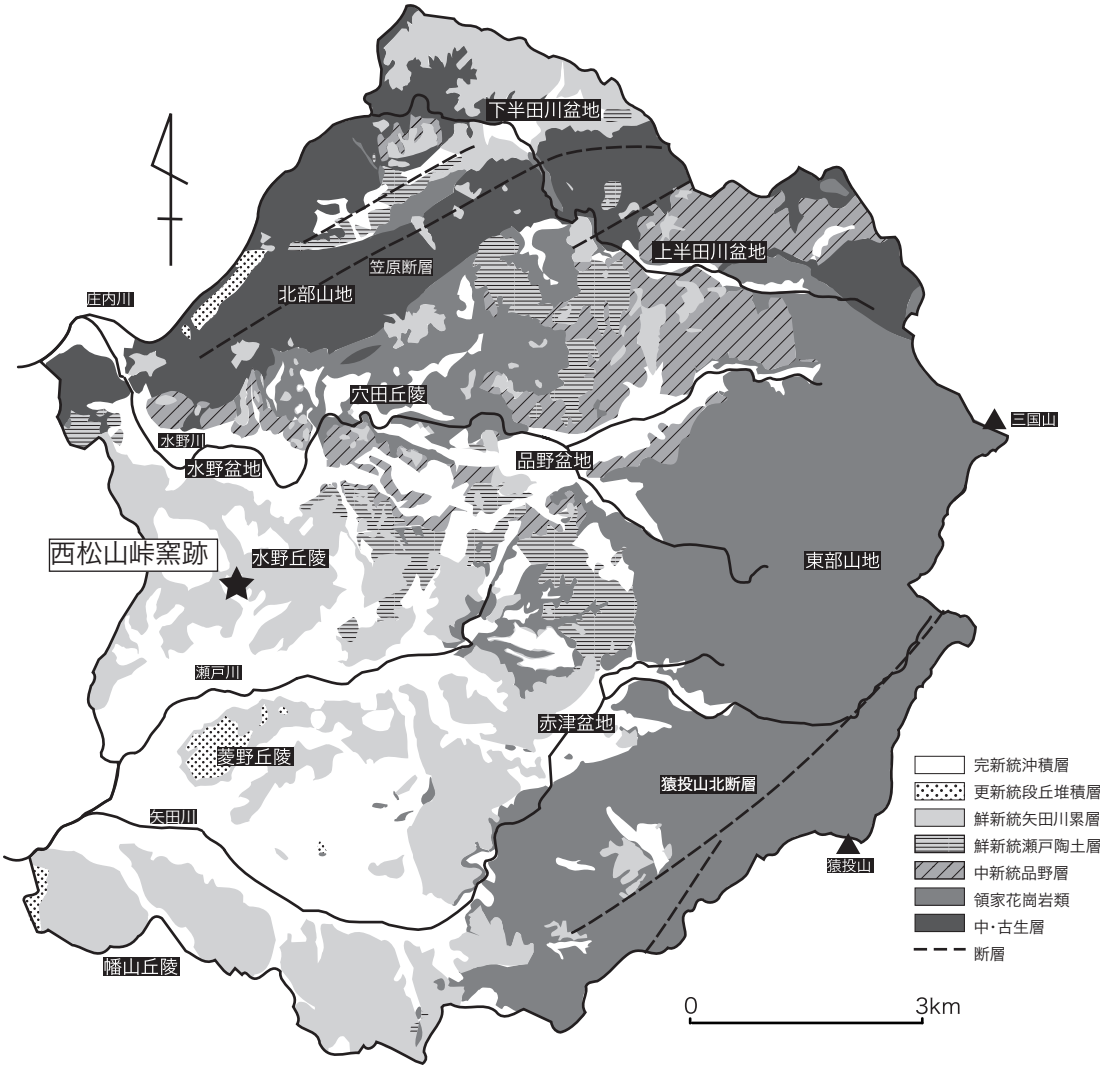


図２　瀬戸市の地形・地質

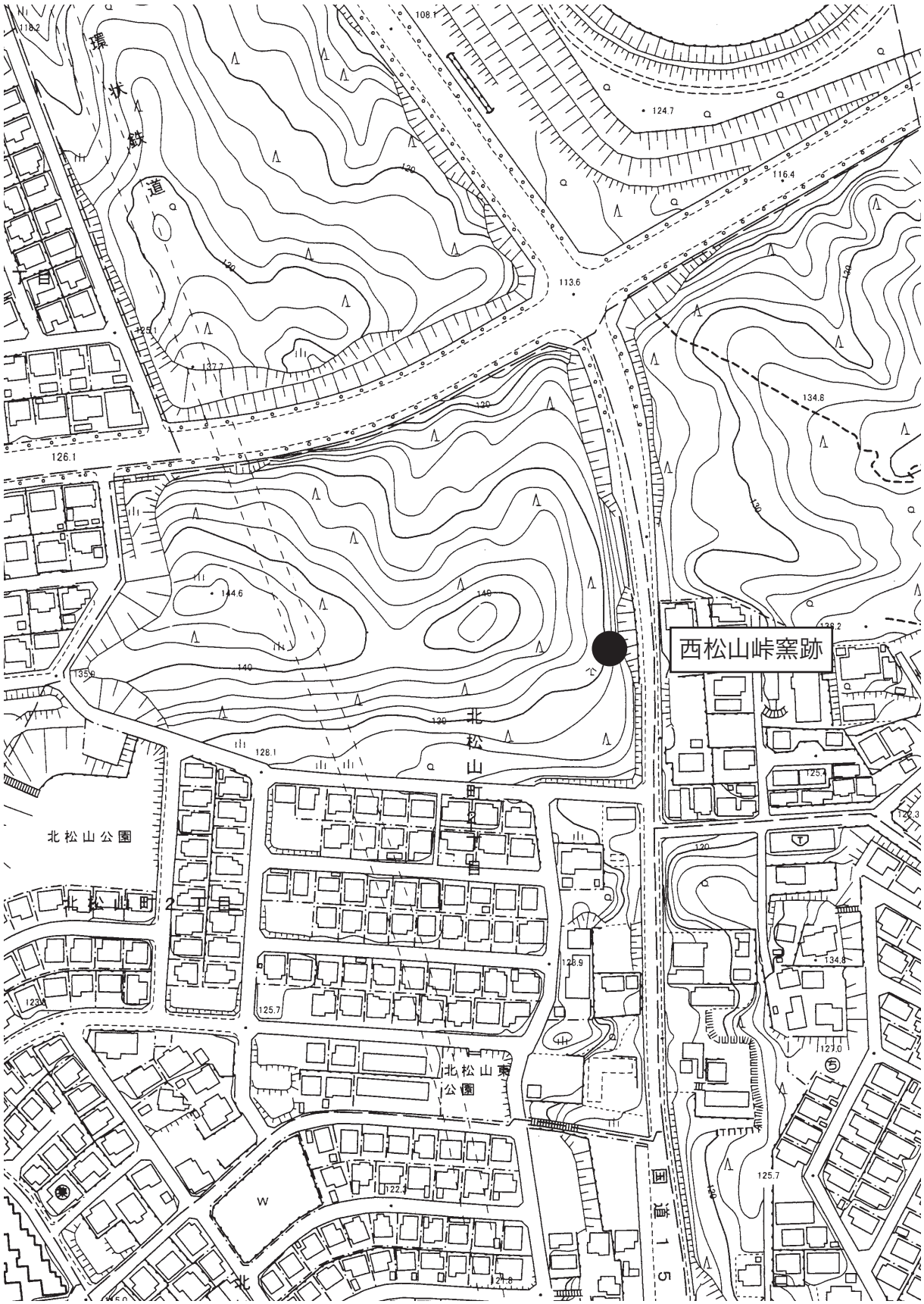


図3　遺跡周辺地形図（S＝1／2,500）

図４　遺跡周辺地形図（明治２４年）（Ｓ＝１／２０，０００）

第２節　周辺の遺跡と歴史的環境

遺跡の所在する水野丘陵は、比較的早くから開発が進んだ地域であり、周辺の遺跡としては、わずかな窯跡が知られるのみである。そこで、ここでは、水野丘陵とその周辺を含めた歴史的環境を時代ごとにみていく。

（1）縄文時代

現在判明している水野地区最古の遺跡として内田町遺跡がある。中期後葉から後期中葉にかけての土器とともに、後期前葉から中葉にかけての落とし穴状遺構や土壙墓の可能性が高い遺構が検出されている。

●古墳　○古墳（滅失）　▲窯跡　△窯跡（滅失）　■城館　×遺跡　　番号は『瀬戸市詳細遺跡地図』と同一

図５　周辺遺跡分布図（Ｓ＝１／２５，０００）

表１　周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代
37	荏坪古墳	古墳
40	四ッ谷２号墳	古墳
41	四ッ谷３号墳	古墳
42	四ッ谷４号墳	古墳
44	四ッ谷６号墳	古墳
45	四ッ谷７号墳	古墳
46	七郎左１号墳	古墳
47	七郎左２号墳	古墳
48	七郎左３号墳	古墳
49	山畑１号墳	古墳
50	山畑２号墳	古墳
54	稲荷南１号墳	古墳
55	稲荷南２号墳	古墳
97	七郎左窯跡	１９世紀
98	山の神１号墳	古墳
99	山の神２号墳	古墳
100	小金山窯跡	１５～１６世紀
101	北脇古墳	古墳
102	水北Ａ窯跡	１５世紀
103	水北Ｂ窯跡	１５世紀
104	昔田１号窯跡	１５～１６世紀
105	昔田２号窯跡	１５～１６世紀
106	昔田３号窯跡	１５世紀
107	昔田１号墳	古墳
108	昔田２号墳	古墳
109	昔田３号墳	古墳
110	穴田１号墳	古墳
111	穴田２号墳	古墳
112	穴田３号墳	古墳
113	穴田４号墳	古墳
114	穴田５号墳	古墳
115	穴田６号墳	古墳
116	穴田７号墳	古墳
117	穴田８号墳	古墳
118	穴田９号墳	古墳
119	穴田１０号墳	古墳
120	穴田１１号墳	古墳
121	種成１号窯跡	１３～１５世紀
122	種成２号窯跡	１３～１５世紀
123	種成３号窯跡	１３世紀
125	数成口１号窯跡	１３世紀
126	数成口２号窯跡	１３世紀
147	暁１号窯跡	１３～１４世紀
148	暁２号窯跡	１３～１４世紀
149	暁３号窯跡	１４世紀
150	暁４号窯跡	１４世紀
151	暁５号窯跡	１４世紀
152	暁１号墳	古墳
153	暁２号墳	古墳
154	暁３号墳	古墳
155	穴田１号窯跡	１７世紀
156	穴田２号窯跡	１７世紀
157	穴田３号窯跡	１７世紀
158	穴田４号窯跡	１７世紀
159	穴田南１号窯跡	１２世紀
160	穴田南２号窯跡	１２世紀
161	穴田南３号窯跡	１２世紀
162	穴田南４号窯跡	１２～１３世紀
163	穴田南５号窯跡	１２～１３世紀
164	上本町Ａ窯跡	１２世紀
165	上本町Ｂ窯跡	近代
166	準工団地１号窯跡	１３世紀
167	準工団地２号窯跡	１３世紀
168	総合グラウンド１号窯跡	１３世紀
169	総合グラウンド２号窯跡	１３世紀
170	総合グラウンド３号窯跡	１３世紀
171	小田妻１号窯跡	１３世紀
172	小田妻２号窯跡	１３世紀
173	小田妻３号窯跡	１３世紀
174	小田妻４号窯跡	１３世紀
175	小田妻５号窯跡	１３世紀
176	小田妻６号窯跡	１２世紀
177	水野団地祭祀遺跡	中世
178	少年院窯跡	１２世紀
179	鴨ヶ沢窯跡	１４世紀
180	苗場窯跡	１３世紀
181	西松山１号窯跡	１３世紀
182	西松山２号窯跡	１３世紀
183	西松山峠窯跡	１３世紀
184	南地蔵窯跡	１３世紀
185	水南中窯跡	１３世紀
186	水南小前窯跡	１３世紀
187	新七窯跡	１８～１９世紀
188	市左衛門窯跡	１８～１９世紀
189	山広窯跡	１９世紀
190	仲切Ａ窯跡	１９世紀
191	定助窯跡	１７～１９世紀
192	窯神Ａ窯跡	１９世紀
193	窯神Ｂ窯跡	１７～１９世紀
194	民吉窯跡	１９世紀
195	クニサ窯跡	１９世紀
196	吉右衛門窯跡	１８～１９世紀
197	川本窯跡	１９世紀
198	杢兵衛南窯跡	１８世紀
199	杢兵衛窯跡	１７～１９世紀
200	深川神社古墳	古墳
617	大平山城跡	中世
619	一色城跡	中世
620	曽野遺跡	中世～近世
626	穴田遺跡	１３世紀
627	種成４号窯跡	１３世紀
630	松澤遺跡	古代
631	穴田南７号窯跡	１２～１３世紀
632	穴田南６号窯跡	１３世紀
701	小田妻７号窯跡	１３世紀
702	小田妻８号窯跡	１３世紀
703	小田妻９号窯跡	１３世紀
837	穴田Ａ窯跡	１３世紀
838	種成５号窯跡	１４世紀
844	幸右衛門窯跡	１８～１９世紀
845	御蔵会所遺跡	１９世紀
893	穴田Ｂ窯跡	１３世紀
894	穴田Ｃ窯跡	１３世紀
895	上本町Ｃ窯跡	中世～近世
896	上本町Ｄ窯跡	１３世紀
897	上本町Ｅ窯跡	１９世紀
904	三沢５号墳	古墳
905	三沢６号墳	古墳
906	三沢７号墳	不明
910	三沢８号墳	古墳
911	三沢４号墳	古墳
925	昔田４号墳	古墳
931	上水野遺跡	古代～近世
932	水北遺跡	古代～近世
933	中水野遺跡	古代～近世
934	上本町遺跡	古代～近世
940	上松山Ａ窯跡	１３世紀
941	十軒町遺跡	古代～近世
942	内田町遺跡	古代～近世
948	深川神社北窯跡	１９世紀

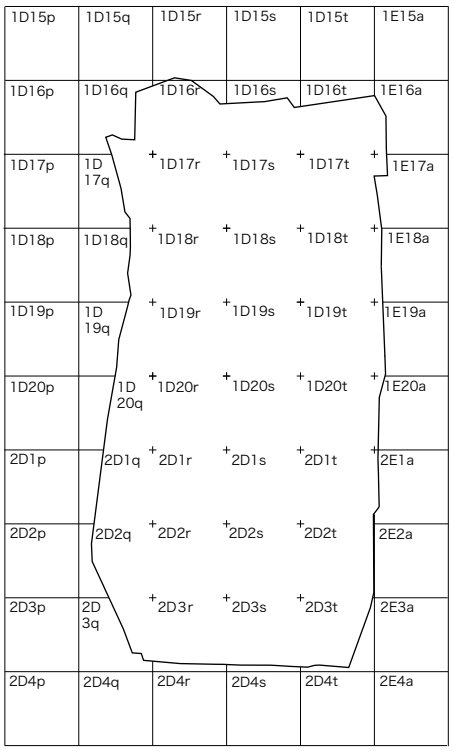


図６　グリッド位置図

工事終了後風景

（2）古墳時代

内田町遺跡で、初頭の方形周溝墓と考えられる溝の一部が検出されている。

現在水野地区には総数 51 基の古墳が確認されている。分布は水野盆地の北から東にかけての丘陵に集中している。多くは後期の円墳で、横穴式石室をともなうものが多い。

（3）古代

古代には尾張国山田郡に属していたと考えられるが、明確な遺跡は確認されていない。しかし、かつて水野盆地には条里地割と思われる区画がみられ、平安時代の遅い時期ないし中世初期に条里地割が形成されたと考えられている。また、式内社として尾張戸神社と金神社がある。

（4）中世

12 世紀末に志談郷の荘官に任じられた水野氏は、遅くとも 13 世紀ごろには水野盆地へ勢力を拡大したとみられている。水野氏の居館といわれているのが大平山城で、寛政 4（1792）年の「中水野村絵図」に「水野佐右衛門尉城跡」と記されている。また、14 世紀初頭以前には熱田社領の水野上御厨が成立していたことが確認されている。水野上御厨の正確な位置は不明だが、田畑以外に非常に広大な山野を囲い込んでいたことが知られている。

発掘調査された集落遺跡として内田町遺跡がある。12 世紀中葉から 15 世紀後葉にかけての 6 棟の掘立柱建物と 10 列の柵列が検出されており、3 期にわたる建物と耕作地の変遷が指摘されている。

水野地区では、12 世紀半ばに山茶碗の生産が開始される。その後、瀬戸窯で古瀬戸の生産が開始されると水野地区でも山茶碗と併焼する形で古瀬戸の生産が開始されるようになる。しかし、他地区と比べると窯跡数は多くなく、山茶碗のみを焼成した窯跡の割合が高い。15 世紀後半に大窯による生産が開始されると、水野地区でも昔田窯跡や小金山窯跡などで大窯による生産がおこなわれた。

（5）近世

16 世紀半ばごろ山田郡は愛知郡と春日井郡に分割され、水野地区は春日井郡に属した。水野上郷・水野中郷・水野下郷に大きく区分されていた水野地区は、天正年間（16 世紀後半）以降、上水野郷・中水野郷・下水野郷とよばれ、さらに江戸時代には、上水野村・中水野村・下水野村となる。当遺跡の地は中水野村に該当する。中水野村は、「寛文覚書」に概高 398 石余、反別は田 25 町余・畑 4 町余、松山 113 町余（下苅年貢納）、松山 44 町（鹿山御留林）、山方 19 町余、雨池 3 か所、井瀬木 2 か所、鹿垣土居 1100 間、家数 31・人数 227、馬 17 とある。

中・上水野村の北一帯の山は水野山と総称され、中世以来の狩場であった。尾張徳川家初代藩主義直はたびたび鹿狩りを行い、2 代藩主光友は宿泊・休憩のために、上水野村に水野御殿を建てた。御殿は、寛文 7（1667）年に愛知郡・春日井郡の山林を取り締まる林方役所の官舎となった。また、天明元（1781）年には、中水野村に愛知郡・春日井郡・美濃国可児郡の各一部を支配する水野代官所が置かれた。

近世の窯業生産遺跡としては、定光寺源敬廟焼香殿の敷瓦を焼成した穴田 1・2 号窯跡がある。窯跡は、林方役所創設の時に役人衆の屋敷地となり、立ち退きを命ぜられたため、水野地区の窯業生産は途絶えてしまう。

（6）近現代

明治 13（1880）年に上水野村・中水野村・下水野村は東春日井郡に所属し、同 22（1889）年に合併して水野村となる。水野村は昭和 26（1951）年に瀬戸市に吸収され現在に至っている。

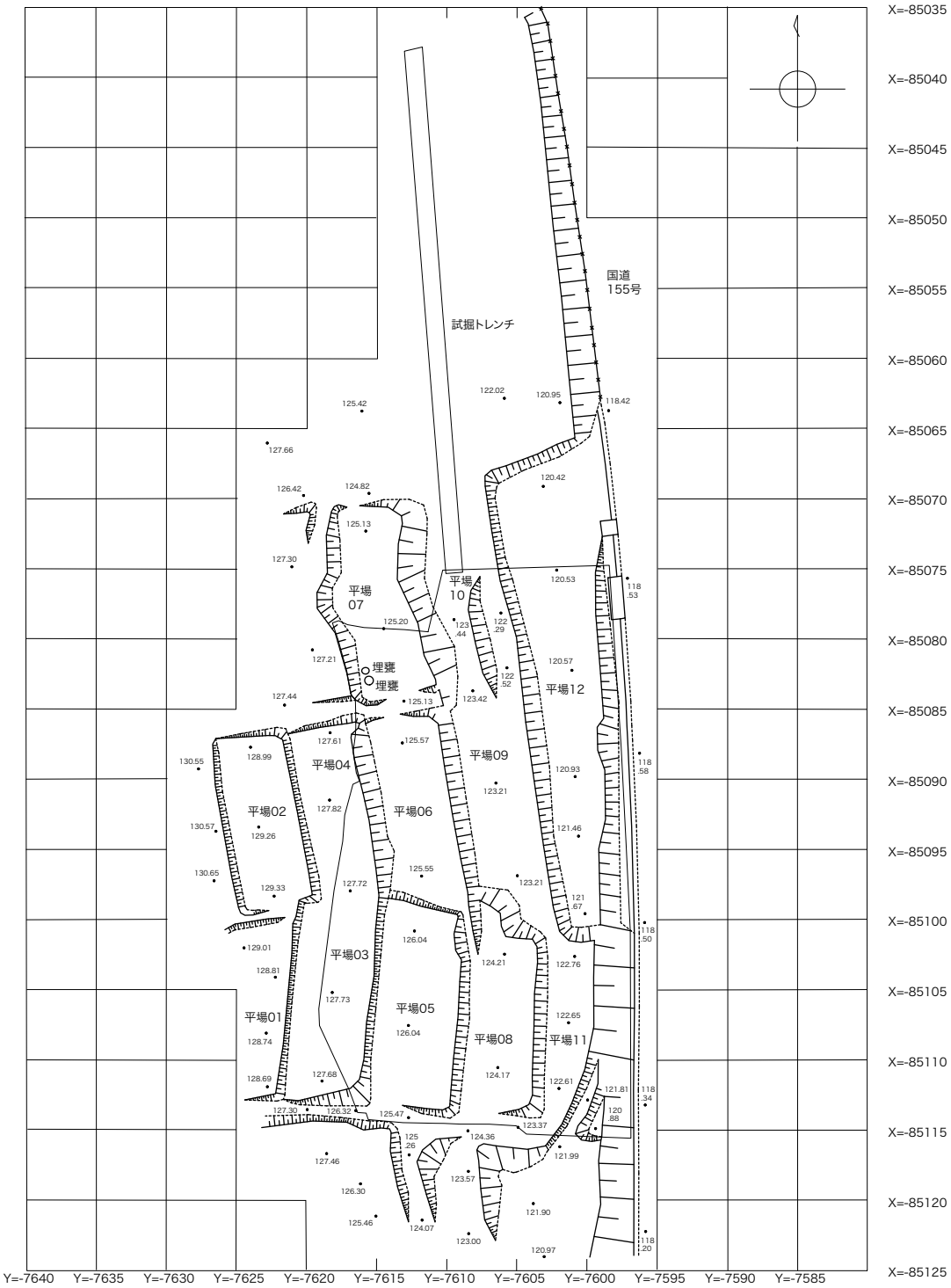


図７　調査前平面図（Ｓ＝１／５００）

第３章　調査の成果

第１節　層序

前章で述べたように、遺跡のある丘陵は平場造成に伴い地形が大きく改変されており、調査前には窯体どころか灰原の位置さえ確認できない状態であった。そこで、重機による表土剥ぎは、遺物が比較的多く散布していた調査区北側の東西方向に１本と、各段の東縁の南北方向に３本、計４本の土層観察用のベルト（ベルト０１～０４）を残して行った。また、表土剥ぎ終了後、土の堆積状況を事前に把握するため東西方向にトレンチ０１・０２を設定し掘削した。

（1）東西方向

調査前には４段の平場に分かれ、最上段（西側）と最下段（東側）との比高差は約７ｍを測る。平場は西側を削平し、その時出た土砂で東側を埋め立てて形成されている。そのため、平場の西側は表土を除去するとすぐに地山となり、遺物の出土はほとんどない。東側は表土の下に、平場造成時に西側から移動した土の層（平場造成層）が堆積している。平場造成層は礫混じりの遺物包含層であり、東に行くほど深くなり、深いところで約５０cm を測る。平場造成層の下は、上から平場造成以前の表土層（旧表土層）、遺物包含層、地山層となる。旧表土層下の遺物包含層は、下段に行くほど厚くなるが、遺物の出土は少なくなり、地山層との境は不明瞭となる。

（2）南北方向

調査前には北に下る２ないし３段の平場に分かれていた。しかし、比高差は１ｍ以下で緩やかである。遺物包含層は調査区中央から北側にみられ、北に行くほど厚くなる。ただし、上層は平場造成時に埋め立てた部分である。また、南側から遺物はほとんど出土していないが、遺構検出面から約１５０cm 下の地山直上で遺物が出土しており、生産終了から平場造成までの間に大幅な地形の変動があったことが想像される。

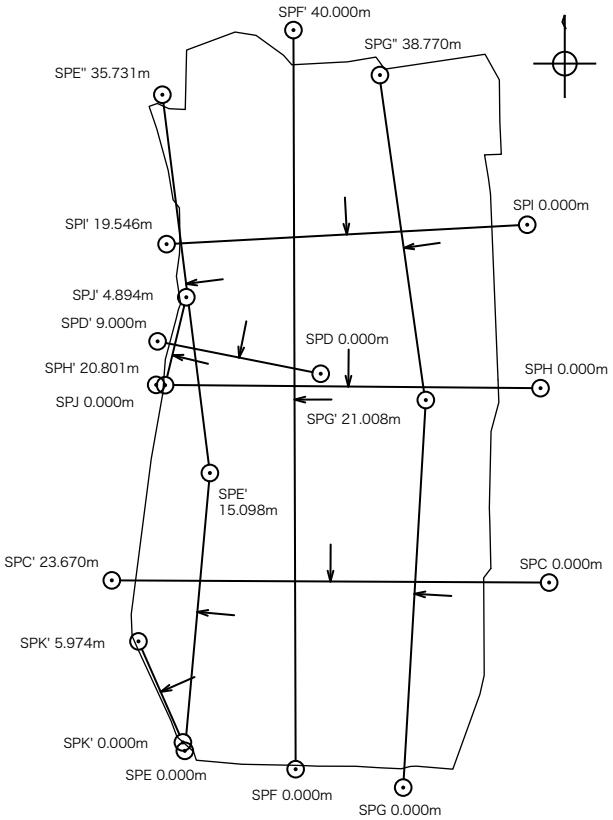
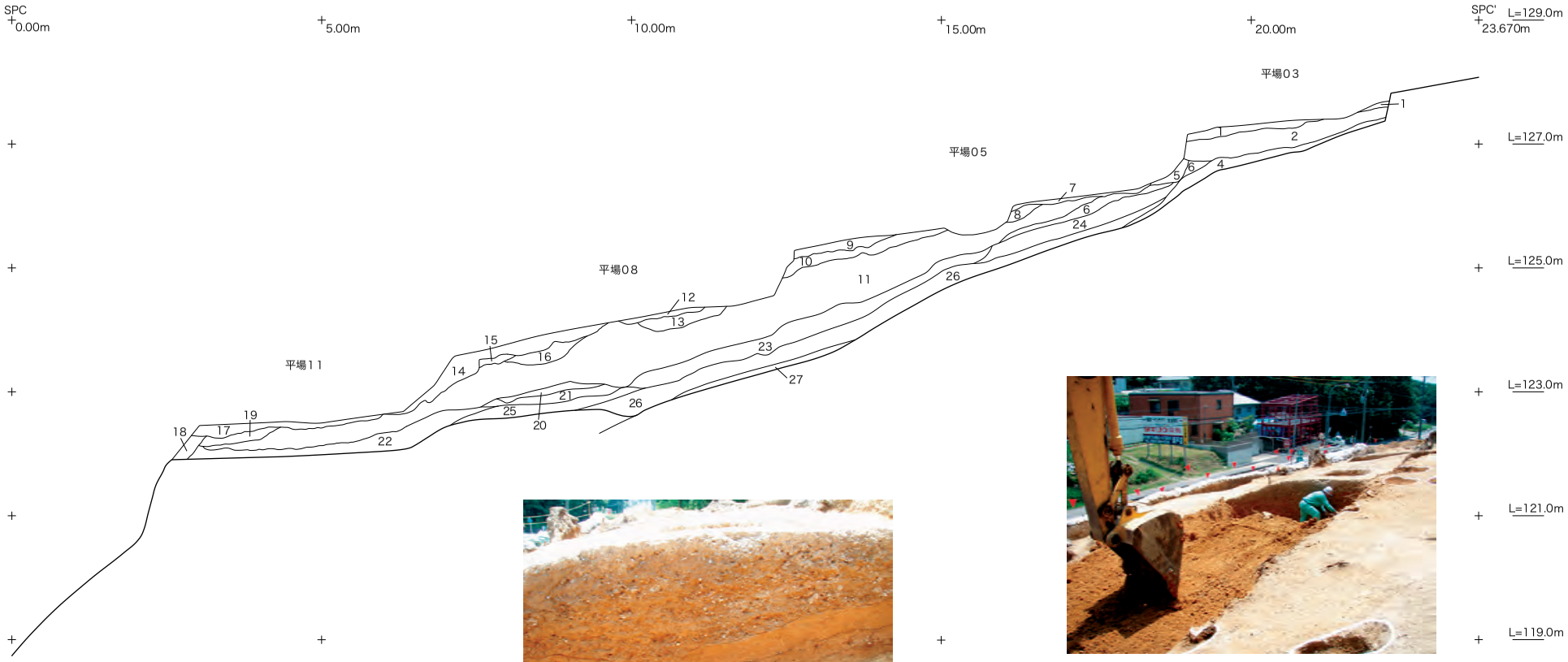


図８　土層断面位置図（Ｓ＝１／４００）



平場 08 断面

深堀作業風景

図９　トレンチ 01 南壁断面図（Ｓ＝１／１００）

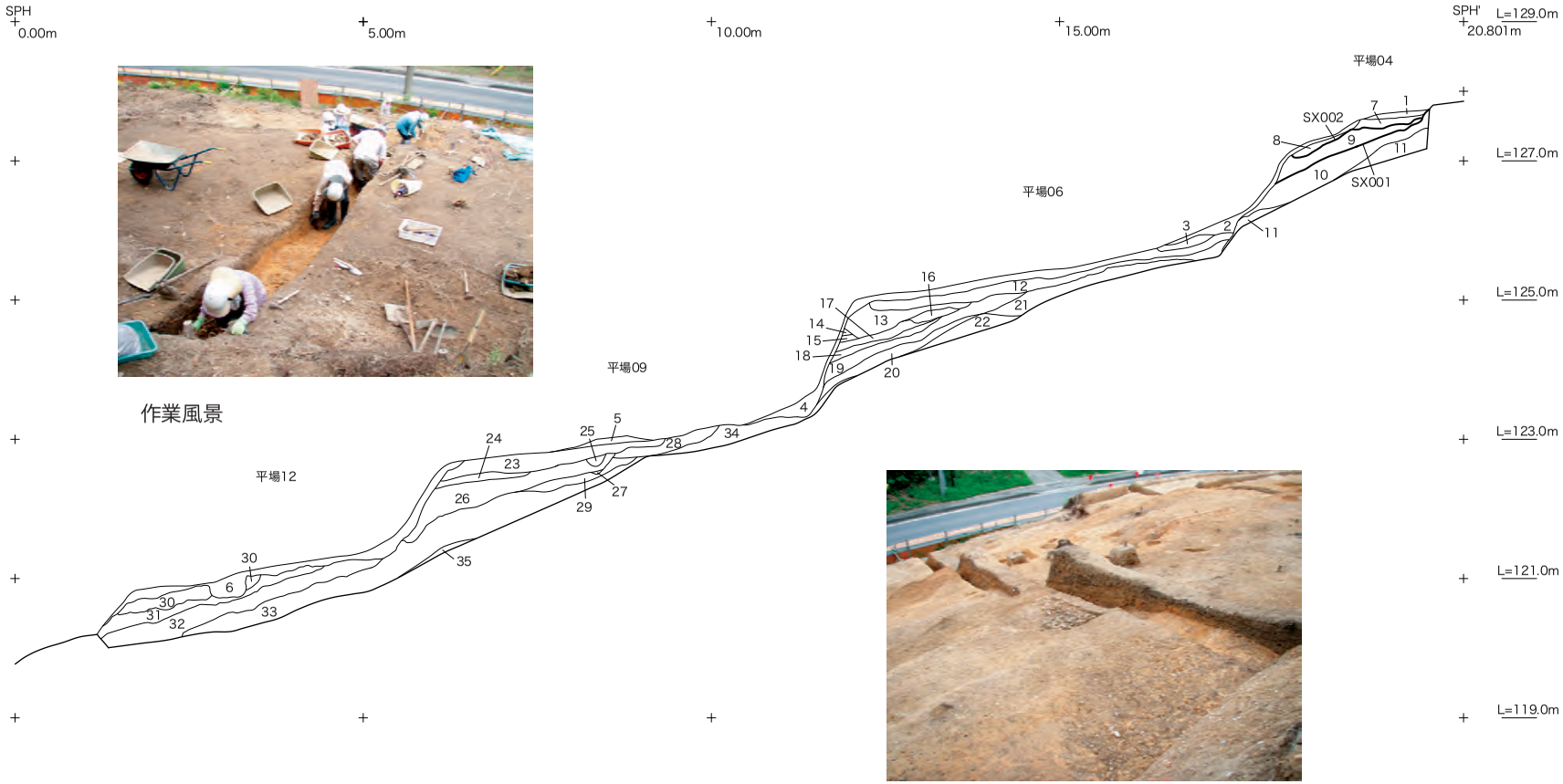


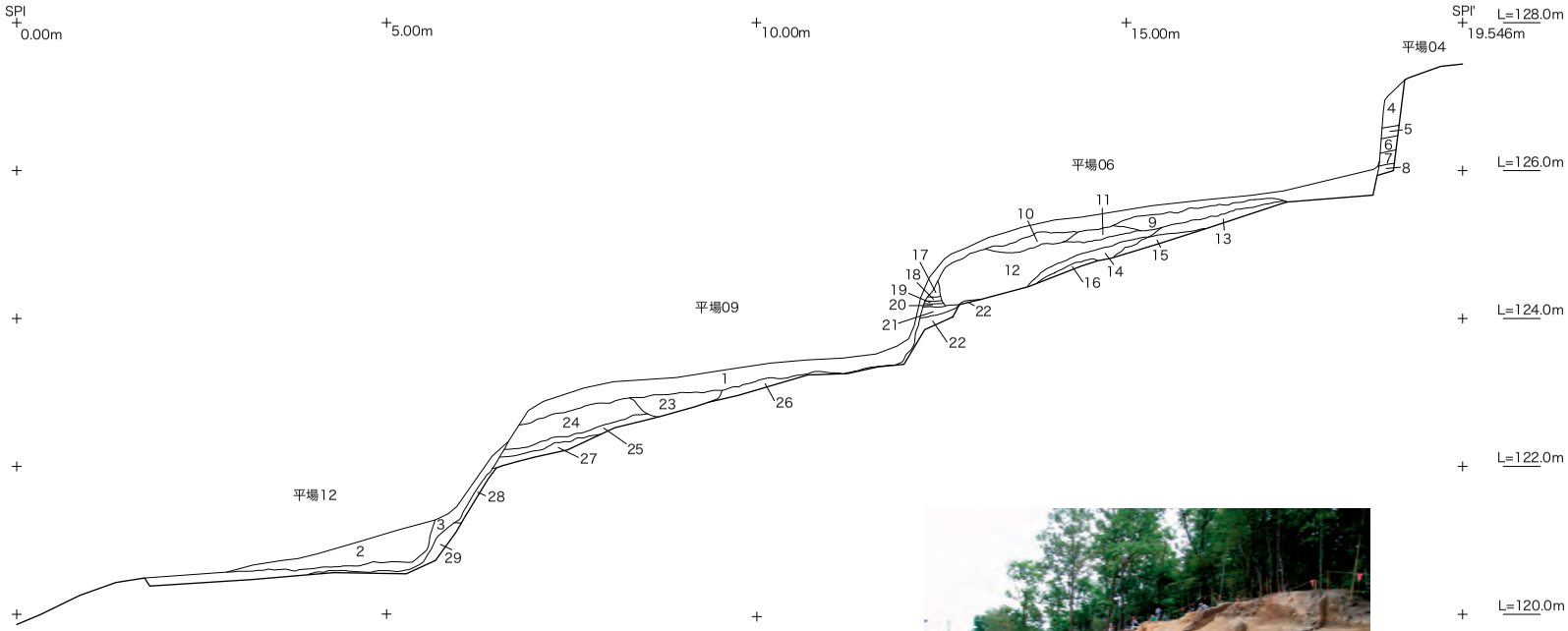
図１０　トレンチ 02 南壁断面図（Ｓ＝１／１００）

表２　トレンチ０１南壁　土層観察表

層番号	土壌色	土色名	土性	混入物等
1	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	表土層直下の層、植物根を多く含む、2.5Y5/2（暗灰黄色）シルト10%程度含む
2	10YR7/6	暗灰黄色	細粒砂	シルトを4分の1程度含む、締りあり、粘性ややあり
3	欠番			
4	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	10YR5/3(にぶい黄褐色）シルト20%含む、直径12cm大の礫を含む、小礫微量
5	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	細粒砂を多く含む、締り軟質
6	7.5YR6/6	橙色	粘土質シルト	細粒砂15%
7	10YR6/6 ～10YR5/6	明黄褐色 ～黄褐色	粘土質シルト	細粒砂15%
8	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	直径8cm以下の円礫少量、直下の11層に比べ礫少ない
9	10YR6/4	にぶい	シルト	10YR5/2(灰黄褐色）シルト10%
10	10YR6/6	明黄褐色	シルト	灰白色粘土を少量含む、細粒砂を少量含む、礫を少量含む（11層に比べ少ない）
11	10YR6/6 ～10YR6/4	明黄褐色 ～にぶい黄橙色	シルト・砂・礫	砂礫層、直径9.0cm以下の円礫15%、酸化鉄「鬼板片」を微量含む、部分的に砂の多い層と礫の多い層が縞状に入る
12	10YR6/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR5/2(灰黄褐色）シルト10%
13	10YR6/6	明黄褐色	シルト	10YR6/4(にぶい黄橙色）シルト少量、灰色粘土質シルト微量含む
14	10YR6/3	にぶい黄橙色	シルト	灰褐色粘土を少量含む、灰白色粘土を微量含む、細粒砂少量
15	7.5YR6/4と10YR 6/6の中間色	にぶい橙色と 明黄橙色との中間色	シルト	10YR5/2（灰黄褐色）表土直下の層、砂礫混じりシルト層、直径11cm以下の小礫を少量含む
16	10YR6/6	明黄褐色	シルト	直径1～4cm大の円礫2%
17	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	表土直下の層、粘性あり、締りあり
18	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	締り軟質
19	10YR6/6	明黄褐色	粘土質シルト	2.5Y3/1(黒褐色）腐食土を少量含む、植物根を含む
20	10YR6/ 6	明黄褐色	シルト・砂	直径2cm以下の円礫を含む（11層に比べて少ない）、細粒砂を10%含む、締りあり、粘性弱
21～27	土壌色以下不明			

表３　トレンチ０２南壁　土層観察表

層番号	土壌色	土色名	土性	混入物等
1	10YR3/2	黒褐色	シルト	表土層、植物根を多く含む、10YR6/ 4（にぶい黄橙色）シルト10%程度含む
2	10YR3/1	黒褐色	シルト	表土層、植物根と腐食植物を多く含む、締り軟質、粘性ややあり
3	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト	表土層、10YR4/2（灰黄褐色）シルト15%、礫少量
4	10YR6/3	にぶい黄橙色	シルト	表土層、10YR4/2(灰黄褐色）シルト20%、小礫微量
5	10YR2/2	黒褐色	シルト	表土層、10YR4/2（灰黄褐色）シルト25%、礫少量、植物根を多く含む、締り軟質
6	10YR2/2	黒褐色	シルト	表土層、10YR4/2(灰黄褐色）シルト20%、植物根を多く含む、小礫微量
7	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト	10YR6/6（明黄褐色）シルト20%、10YR5/2(灰黄褐色）シルト10%程度、小礫微量
8	10YR6/3	にぶい黄橙色	粘土質シルト	10YR5/2(灰黄褐色）シルト10%程度、小礫微量
9	10YR3/2	黒褐色	シルト	山茶碗片を微量含む、10YR4/2(灰黄褐色）シルト20%、砂礫少量
10	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト・細粒砂	直径4cm以下の小礫少量
11	10YR6/6	明黄褐色	粘土質シルト・礫	地山相当層、礫層、10YR4/2（灰黄褐色）シルト10%、直径9.0cm以下の円礫10%
12	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	平場造成層、10YR5/2(灰黄褐色）シルト5%
13	10YR6/6	明黄褐色	シルト	平場造成層、10YR5/2(灰黄褐色）シルト5%
14	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	10YR6/4（にぶい黄橙色）シルト少量、締りやや硬質
15	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト	10YR4/2（灰黄褐色）シルト10%、小礫少量、締りやや硬質
16	10YR3/2	黒褐色	シルト	直径1～4cm大の円礫2%
17	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	旧表土層、10YR6/4（にぶい黄橙色）シルト25%、粘性あり
18	10YR6/6	明黄褐色	粘土質シルト	SX019は19層を切り18層に切られる
19	2.5Y6/3	にぶい黄色	砂質シルト	細粒砂を多く含む、締り軟質
20	10YR6/3	にぶい黄橙色	シルト	直径6cm以下の円礫3%、砂粒を含む、粘性弱
21	10YR6/3	にぶい黄橙色	シルト	細粒砂を含む、円礫少量
22	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト・礫	地山相当層、礫層、10YR5/3（にぶい黄褐色）粘土質シルト少量、直径9cm以下の小礫を少量含む
23	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト	平場造成層、山茶碗片少量含む、焼台片少量含む、10YR5/3（にぶい黄褐色）シルト10%、 10YR5/2(灰黄褐色）シルト15%、直径6cm以下の円礫少量
24	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	旧表土層、10YR6/3（にぶい黄橙色）シルト20%、粘性あり
25	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	10YR6/3（にぶい黄橙色）シルト20%、粘性あり
26	10YR6/6	明黄褐色	粘土質シルト	斜面堆積層、山茶碗片を微量含む、2.5Y6/4(にぶい黄橙色）シルト20%、円礫微量
27	10YR6/3	にぶい黄橙色	シルト・細粒砂	10YR5/2(灰黄褐色）シルト15%
28	10YR6/4	にぶい黄橙色	粘土質シルト	10YR4/2（灰黄褐色）シルト5%、直径7cm以下の円礫5%、締りやや硬質
29	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト	2.5Y5/3（黄褐色）シルト10%、円礫微量
30	10YR6/4	にぶい黄橙色	粘土質シルト	平場造成層、10YR5/2（灰黄褐色）シルト15%、直径4cm以下の円礫微量
31	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	円礫微量、粘性あり、締りあり
32	2.5Y5/3	黄褐色	シルト	斜面堆積層、細粒砂・中粒砂を全体に含む、直径3cm以下の円礫微量、締り軟質、粘性やや弱い
33	10YR6/4	にぶい黄橙色	粘土質シルト	斜面堆積層、10YR5/2(灰黄褐色）シルトを少量含む、粘性あり、締りやや硬質
34	10YR6/6	明黄褐色	粘土質シルト・礫	地山相当層、礫層、10YR4/2（灰黄褐色）シルト10%、直径8cm以下の円礫5%
35	7.5YR5/6	明褐色	粘土質シルト	地山相当層、10YR4/2（灰黄褐色）シルト10%、直径5.0cm以下の円礫3%、5YR5/6（明赤褐色）シルトブロック微量、締り硬質



平場０９・１２

平場０４・０６・０９

図１１　ベルト 01 東西土層断面図（Ｓ＝１／１００）

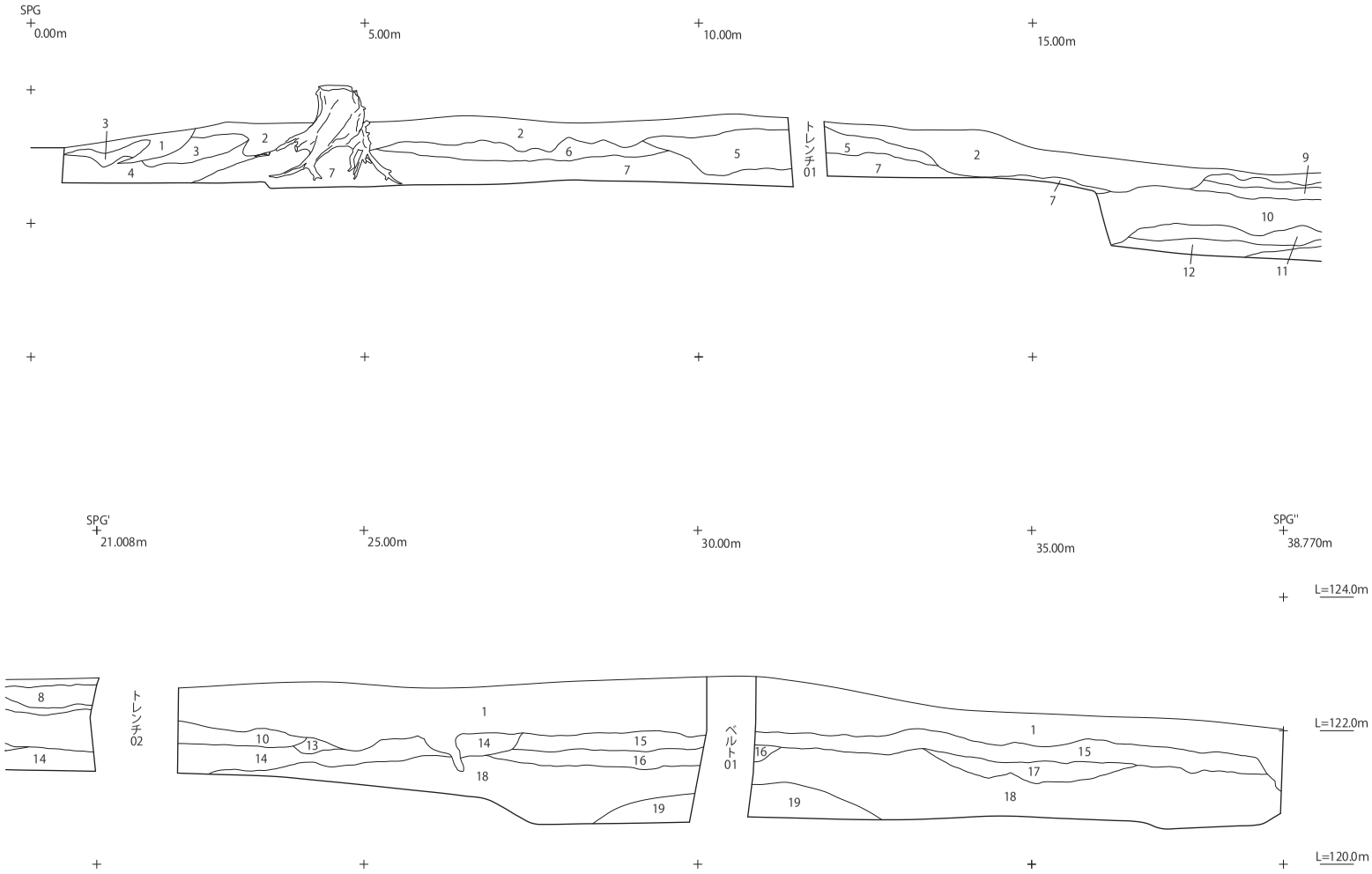


図１２　ベルト０４南北土層断面図（Ｓ＝１／１００）

表４　ベルト０１東西土層断面　土層観察表

層番号	土壌色	土色名	土性	混入物等
1	10YR3/2	黒褐色	シルト	現表土層、樹木の根を多量に含む、腐食植物を多く含む、円礫少量、10YR6/3（にぶい黄橙色）シルト少量
2	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	現表土層、10YR4/2（灰黄褐色）シルト15%、円礫少量、植物根を多く含む、ガラス片を含む
3	５YR4/2	灰黄褐色	シルト	現表土層、10YR3/2（黒褐色）シルト30%、植物根を多く含む
4	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト	平場造成層、10YR4/2（灰黄褐色）シルト10%、10YR6/6（明黄褐色）シルト15%、小礫少量
5	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	10YR6/4(にぶい黄橙色）シルト10%、小礫微量
6	10YR6/4	明黄褐色	シルト	10YR4/2（灰黄褐色）シルト10%、小礫微量
7	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	焼台片10%程度含む、炭化物微量含む、10YR6/3（にぶい黄橙色）シルト少量、円礫微量、粘性あり、締り軟質
8	2.5Y6/3	にぶい黄色	砂質シルト	10YR5/2(灰黄褐色）粘土質シルト少量
9	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	平場造成層、10YR6/4(にぶい黄橙色）粘土質シルト少量、小礫微量
10	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	平場造成層、10YR6/4(にぶい黄橙色）粘土質シルト少量、小礫微量
11	10YR6/6	明黄褐色	シルト	10YR4/3(にぶい黄褐色）シルト15%、小礫微量
12	10YR6/6	明黄褐色	シルト	平場造成層、10YR6/4（にぶい黄橙色）シルトと10YR5/2(灰黄褐色）シルト等との混合土、焼台片を微量含む、山茶碗片を微量含む、円礫を少量含む、締りやや軟質
13	2.5Y5/3	黄褐色	シルト	斜面堆積層、10YR5/2(灰黄褐色)シルト少量、小礫微量
14	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	10YR5/3(にぶい黄褐色)シルト15%、直径3cm以下の5YR5/6（明赤褐色）シルトブロック微量
15	10YR6/6	明黄褐色	シルト	地山相当層、直径3cm以下の円礫微量、締りやや軟質
16	10YR6/6	明黄褐色	シルト	地山相当層、直径3cm以下の円礫微量、10YR4/2(灰黄褐色）シルト微量
17	2.5Y5/3	黄褐色	シルト	10YR6/4（にぶい黄橙色）シルト5%、小礫微量
18	10YR6/6	明黄褐色	シルト	2.5Y6/3（にぶい黄色）シルト10%、直径18cm以下の礫微量、10YR5/3（にぶい黄褐色）シルト微量
19	2.5Y5/3	黄褐色	シルト	10YR6/4（にぶい黄橙色）シルト7%、細粒砂含む、小礫微量
20	10YR6/6	明黄褐色	シルト	10YR5/2(灰黄褐色）シルト少量、10YR5/3(にぶい黄褐色)シルト少量
21	2.5Y5/3	黄褐色	シルト	旧表土層、直径6cm以下の円礫微量、焼台片を微量含む
22	10YR6/6 ～10YR6/4	明黄褐色 ～にぶい黄橙色	シルト	山茶碗片と焼台片を微量含む、炭化物を微量含む、小礫を微量含む
23	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト	炭化物を微量含む、小礫を微量含む、10YR5/2(灰黄褐色）シルト少量
24	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト	平場造成層、10YR4/2(灰黄褐色）シルト5%、10YR6/6（明黄褐色）シルト2%、直径5cm以下の円礫2%、締りあり
25	2.5YR5/3	黄褐色	シルト	旧表土層、2.5Y5/2（暗灰黄色）シルト20%、直径5cm以下の円礫3%
26	10YR6/6	明黄褐色	粘土質シルト	地山相当層、直径5cm以下の円礫７%
27	2.5Y6/3	にぶい黄色	砂質シルト	斜面堆積層、直径3cm以下の円礫3%、砂粒を多く含む
28	7.5YR5/6	明褐色	シルト	地山層、粘土質シルトを含む、中粒砂・細粒砂を含む、直径8cm以下の円礫少量、締り硬質
29	5YR5/6	明赤褐色	粘土質シルト	地山層、10YR6/6（明黄褐色）粘土質シルトを少量含む、締り硬質、粘性弱

表５　ベルト０４南北土層断面　土層観察表

層番号	土壌色	土色名	土性	混入物等
1	10YR3/1	黒褐色	シルト	植物攪乱、腐食植物を多く含む、植物根を多く含む、10YR4/2（灰黄褐色）シルト20%、締り軟質
2	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト	現表土層、腐食植物を多く含む、10YR5/2（灰黄褐色）シルトを含む
3	10YR6/6	明黄褐色	シルト	斜面堆積層、小礫少量
4	10YR6/6	明黄褐色	シルト	斜面堆積層、10YR8/2(灰白色）粘土2%、円礫少量
5	10YR6/4 ・10YR6/6	にぶい黄橙色 ・明黄褐色	シルト	平場造成層、混合土、10YR5/3（にぶい黄橙色）シルト10%
6	10YR6/6	明黄褐色	シルト	斜面堆積層、10YR6/4（にぶい黄橙色）粘土質シルトを含む、円礫微量
7	10YR6/6	明黄褐色	シルト	礫層、直径8cm以下の円礫を多く含む、6層に比較して締りやや硬質
8	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト	平場造成層、10YR4/2(灰黄褐色）シルト5%、粘性あり
9	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	10YR5/2(灰黄褐色）シルト10%
10	10YR6/6	明黄褐色	シルト	斜面堆積層、細粒砂を含む、円礫少量、締りやや硬質、粘性あり
11	10YR6/6	明黄褐色	シルト	直径7cm以下の円礫20%
12	10YR6/6	明黄褐色	シルト・細粒砂	直径5cm以下の円礫3%
13	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト	10YR4/2(灰黄褐色）シルト30%
14	2.5Y6/4～ 10YR6/4	にぶい黄色～ にぶい黄褐色	シルト	砂粒を多く含む、円礫を微量含む
15	10YR5/4	にぶい黄橙色	シルト	直径4cm以下の円礫2%
16	10YR5/6	黄褐色	シルト	10YR5/4(にぶい黄褐色）シルト20%、直径7cm以下の円礫4%
17	10YR6/6	明黄褐色	砂質シルト	10YR6/3（にぶい黄橙色）シルト10%
18	10YR6/6	明黄褐色	粘土質シルト	地山層、礫層、2.5YR5/6（明褐色）シルト15%、直径11cm以下の円礫多数、締り硬質、粘性弱
19	10YR6/6	明黄褐色	粘土質シルト	2.5Y8/2(灰白色）粘土を微量含む、5YR4/6(赤褐色）細粒砂10%

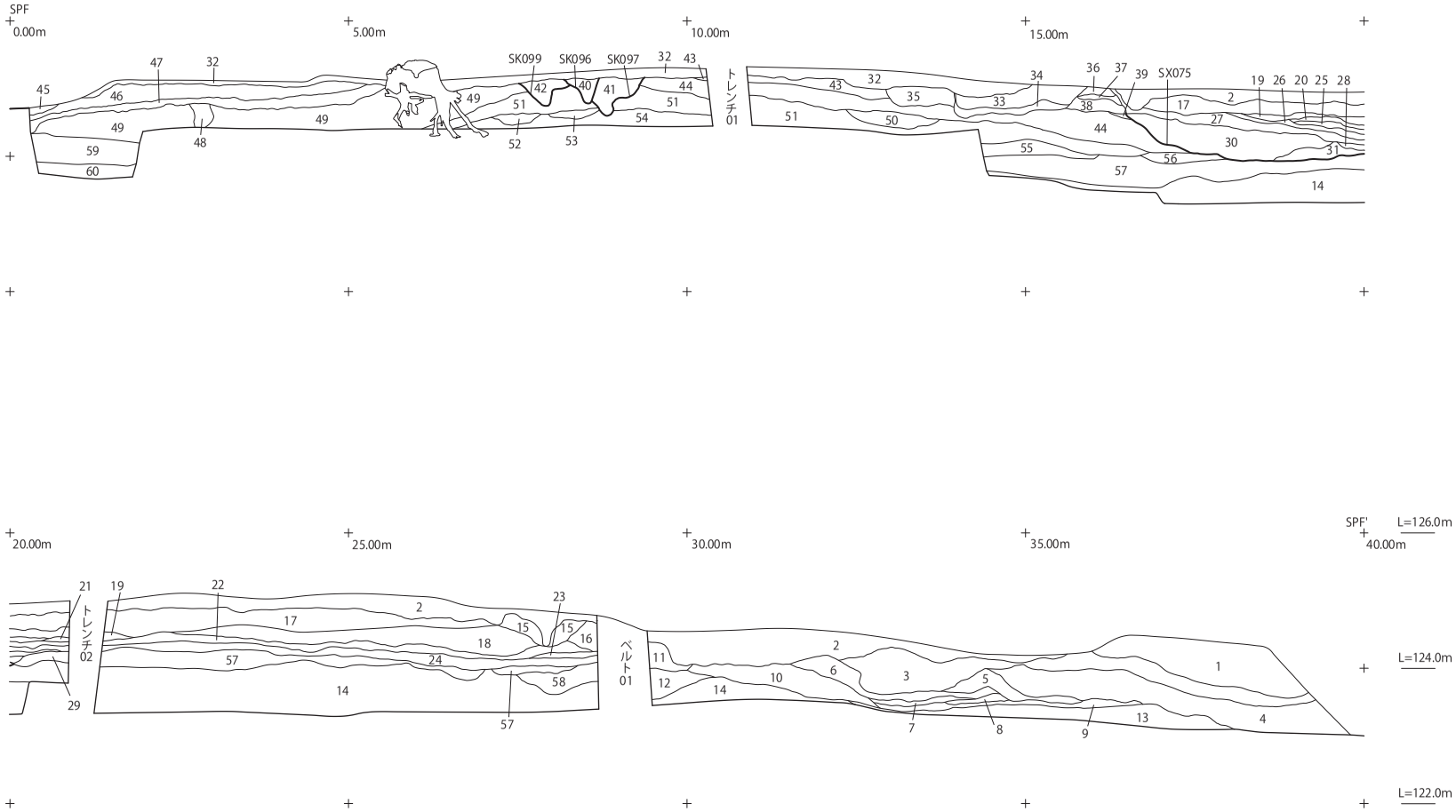


図１３　ベルト０３南北土層断面図（Ｓ＝１／１００）

表６　ベルト０３南北土層断面　土層観察表

層番号	土壌色	土色名	土性	混入物等
1	10YR3/2	黒褐色	シルト	現代の造成層、混合土、腐食植物を多く含む、10YR4/2(灰黄褐色)シルト10%
2	10YR3/2	黒褐色	シルト	現表土層、腐植土・腐食植物を多く含む、植物根を多く含む
3	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	平場造成層、山茶碗片を微量含む、焼台片を微量含む、10YR4/2(灰黄褐色)シルト粒・ブロック25%、直径8cm以下の円礫少量
4	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	10YR5/3(にぶい黄褐色)シルト20%含む、直径12cm大の礫を含む、小礫微量
5	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	10YR5/3(にぶい黄褐色)シルト10%、直径8cm以下の円礫を微量含む、細粒砂を含む
6	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	旧表土層、10YR5/3(にぶい黄褐色)シルト5%、円礫を微量含む
7	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト	シルトブロック集積層、小礫少量、10YR4/2(灰黄褐色)シルト10%
8	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	小礫微量、10YR4/2(灰黄褐色)シルト20%、粘性あり
9	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	10YR5/2(灰黄褐色)シルト10%
10	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト・細粒砂	小礫少量
11	10YR6/4、10YR5/2	にぶい黄褐色、灰黄褐色	シルト	２種類のシルトが縞状に入る
12	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト	砂粒を少量含む、粘土質シルトを少量含む、直径4cm以下の円礫微量
13	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト・細粒砂	小礫微量
14	10YR6/6	明黄褐色	シルト・砂・礫	砂礫混じりシルト層、直径11cm以下の小礫を少量含む、基盤層
15	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	10YR5/2(灰黄褐色)シルトの集中箇所が散在する
16	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	10YR5/2(灰黄褐色)シルト少量、小礫微量
17	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	平場造成層、直径9cm以下の礫を3%含む、10YR5/2(灰黄褐色)シルト20%
18	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	直径9cm以下の礫を3%含む、10YR4/2(灰黄褐色)シルト20%
19	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	10YR5/3(にぶい黄褐色)シルト少量含む
20	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	10YR5/2(灰黄褐色)シルト少量含む
21	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	細粒砂を少量含む
22	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	10YR5/3(にぶい黄褐色)シルト少量含む
23	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト	10YR5/2(灰黄褐色)シルト20%
24	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	10YR5/2(灰黄褐色)シルト20%
25	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	10YR5/4(にぶい黄褐色)シルト7%
26	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト	細粒砂質
27	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	旧表土層、10YR6/4(にぶい黄橙色)シルト微量、粘性あり
28	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	細粒砂を含む、遺構の可能性あり、SX075を切る
29	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト	小礫微量、粘性あり
30	10YR6/6	明黄褐色	粘土質シルト	斜面堆積層、10YR5/2(灰黄褐色)シルト少量、細粒砂を含む、締りやや硬質、粘性あり、SX075の上層
31	10YR6/6	明黄褐色	粘土質シルト	焼台片を少量含む、10YR5/2(灰黄褐色)シルト微量、細粒砂を含む、締りやや硬質、粘性あり、SX075の下層
32	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト	表土層、10YR4/1(褐灰色)シルト15%
33	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト・細粒砂	直径4cm以下の礫を微量含む
34	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト・細粒砂	直径6cm以下の礫3%含む
35	10YR6/4	にぶい黄橙色	粘土質シルト	直径3cm以下の礫を微量含む
36	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	10YR5/4(にぶい黄褐色)シルト10%
37	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	砂礫微量
38	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト	砂礫微量
39	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	砂礫微量
40	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	10YR4/2(灰黄褐色)細粒砂40%
41	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	10YR4/2(灰黄褐色)細粒砂40%
42	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	10YR4/2(灰黄褐色)細粒砂15%
43	10YR6/6	明黄褐色	細粒砂・シルト	10YR4/2(灰黄褐色)細粒砂15%
44	10YR6/6	明黄褐色	細粒砂・シルト	中粒砂を少量含む、礫微量、締りやや硬質
45	10YR3/2	黒褐色	シルト	小道部分の表土層、腐食植物を多く含む、植物根を多く含む
46	10YR6/6	明黄褐色	シルト	斜面堆積層、中世以降に形成、直径7cm以下の円礫微量、10YR5/2(灰黄褐色)シルト微量
47	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	旧表土層、10YR6/4(にぶい黄橙色)シルト25%
48	10YR6/4	にぶい黄橙色	砂・礫	砂礫層、直径4cm以下の礫40%
49	10YR6/6	明黄褐色	シルト	斜面堆積層、中世以降に形成、直径7cm以下の円礫微量、10YR5/2(灰黄褐色)シルト微量
50	10YR6/4	にぶい黄橙色	砂・礫	砂礫層、直径7cm以下の礫30%
51	10YR6/6	明黄褐色	細粒砂・シルト	
52	10YR6/4	にぶい黄橙色	砂・礫	砂礫層、直径5cm以下の礫30%
53	10YR6/4	にぶい黄橙色	砂・礫	砂礫層、直径4cm以下の礫40%
54	10YR6/4～10YR6/6	にぶい黄橙色～明黄褐色	細粒砂	灰白色粘土粒・ブロック散在、褐色粒微量、粘土質シルトを含む、やや粘性あり
55	10YR6/6	明黄褐色	シルト	斜面堆積層、直径7cm以下の円礫2%
56	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト・細粒砂	10YR5/2(灰黄褐色)シルト少量、円礫微量
57	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト	砂礫微量
58	2.5Y5/3	黄褐色	シルト・細粒砂	直径5cm以下の円礫微量
59	10YR7/4	黄灰色	砂質シルト	砂粒を含む、直径6cm以下の円礫を5%含む、締り硬質、やや粘性あり
60	10YR6/6	明黄褐色	粘土質シルト	砂粒を含む、直径6cm以下の円礫を5%含む、締り硬質、やや粘性あり

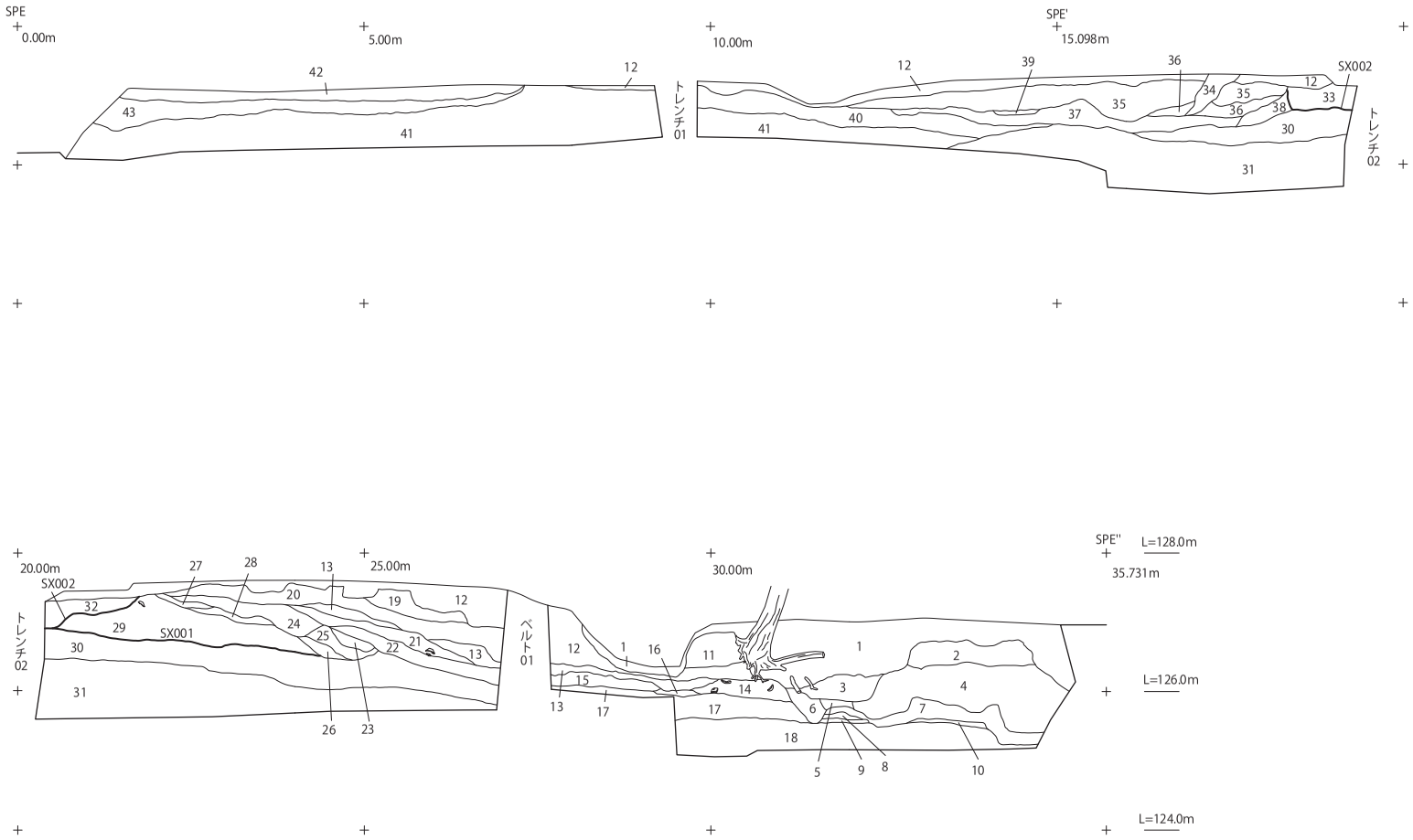


図１４　ベルト０２南北土層断面図（Ｓ＝１／１００）

表７　ベルト０２南北土層断面　土層観察表

層番号	土壌色	土色名	土 性	混入物等
1	10YR3/2	黒褐色	シルト	現表土層、樹木の根を多量に含む
2	7.5YR6/4	にぶい橙色	粘土質シルト	10YR6/4(にぶい黄橙色）シルト10%、小礫微量
3	５YR6/4	にぶい橙色	粘土質シルト	直径6cm以下の礫少量
4	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	7.5YR6/4（にぶい橙色）シルト8%、炭化物1%
5	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	10YR6/4(にぶい黄橙色）シルト10%、小礫微量
6	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	小礫微量
7	５YR6/4	にぶい橙色	粘土質シルトブロック	10YR4/2（灰黄褐色）シルト20%
8	５YR6/4	にぶい橙色	粘土質シルト	10YR5/2(灰黄褐色）粘土質シルト少量
9	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	10YR6/4(にぶい黄橙色）粘土質シルト少量、旧表土直下の層か
10	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	10YR6/4(にぶい黄橙色）粘土質シルト少量、旧表土直下の層か
11	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	10YR6/4(にぶい黄橙色）シルト5%、小礫微量
12	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	表土層直下の層、細粒砂を含む、腐植土を少量含む、礫を少量含む、締りやや軟質
13	7.5YR6/4 ～10YR6/4	にぶい橙色 ～にぶい黄橙色	粘土質シルト	10YR5/2(灰黄褐色)シルト7%、小礫微量
14	7.5YR6/4 ～10YR6/4	にぶい橙色 ～にぶい黄橙色	粘土質シルト	山茶碗片を微量含む、焼台片を少量含む、10YR5/2(灰黄褐色)シルト20%
15	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	山茶碗片と焼台片を少量含む、炭化物を微量含む、焼成粘土塊を微量含む、10YR6/2（灰黄褐色）灰を含む
16	10YR6/2	灰黄褐色	粘土質シルト	細粒砂含む、10YR6/4（にぶい黄橙色）粘土質シルト15%
17	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト	粘土質シルト・細粒砂を含む、小礫微量、10YR5/3（にぶい黄褐色）粘土質シルト10%
18	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト	2.5Y6/3（にぶい黄色）シルト10%、直径18cm以下の礫微量、10YR5/3（にぶい黄褐色）シルト微量
19	10YR6/4 ～10YR6/6	にぶい黄橙色 ～明黄褐色	シルト	細粒砂含む、小礫微量
20	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト	10YR5/2(灰黄褐色）シルト少量、10YR5/3(にぶい黄褐色)シルト少量
21	10YR6/3	にぶい黄橙色	粘土質シルト	山茶碗片を含む、炭化物を微量含む、焼成粘土塊を微量含む
22	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	山茶碗片と焼台片を微量含む、炭化物を微量含む、小礫を微量含む
23	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	炭化物を微量含む、小礫を微量含む、10YR5/2(灰黄褐色）シルト少量
24	10YR6/3	にぶい黄橙色	粘土質シルト	10YR5/1(褐灰色）粘土質シルト10%、焼台片を微量含む、炭化物を微量含む、10YR5/2(灰黄褐色）シルト15%
25	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	焼台片を微量含む、赤焼台を含む、焼成粘土塊を含む、炭化物微量
26	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	小礫微量
27	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR4/2（灰黄褐色）粘土質シルト10%、小礫微量
28	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	10YR4/2（灰黄褐色）粘土質シルト20%、小礫微量
29	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	焼台片集積層、焼台直径7cm～15cm、炭化物粒を含む
30	2.5Y7/3	浅黄色	粘土質シルト	細粒砂10%
31	10YR6/6	明黄褐色	粘土質シルト	直径1～12cm大の礫８%、10YR6/8（明黄褐色）細粒砂ブロック微量
32	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	植物根を多数含む、小礫少量、締り軟質
33	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	焼台片を少量含む、山茶碗片を微量含む、締り軟質
34	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	植物根跡、10YR5/2（灰黄褐色）シルト20%
35	10YR6/3	にぶい黄橙色	シルト	10YR5/2(灰黄褐色）シルト30%、粘土質シルト・細粒砂を少量含む、粘性あり
36	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト	10YR5/2(灰黄褐色）シルト少量、礫微量
37	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	礫微量
38	10YR6/2	灰黄褐色	シルト	10YR5/3（にぶい黄褐色）シルト少量、小礫微量、粘性あり
39	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト	10YR5/2(灰黄褐色）粘土質シルト少量
40	10YR6/6	明黄褐色	シルト	粘土質シルト・細粒砂を含む、小礫微量、10YR5/3（にぶい黄褐色）粘土質シルト5%
41	10YR6/6	明黄褐色	シルト	直径0.5～4cm大の円礫7%、締りあり
42	10YR6/6	明黄褐色	シルト	直径5cm以下の円礫1%
43	10YR5/2	灰黄褐色	砂・礫	砂礫層、直径12cm以下の円礫30%、10YR5/1（褐灰色）シルト少量

ベルト 03 清掃風景

ベルト 02 清掃風景

第２節　遺構

調査の結果、小穴・土坑・溝など総数１０５の遺構を検出した。しかし、小穴は規則的に配列された様子はみられず、小穴や土坑の多くは自然木痕と考えられる。溝も埋土に近代の陶器片を含むもの（ＳＤ１０１）があることから、多くは近代以降の自然地形と考えられる。調査区内から窯業生産に関わる明確な遺構としては、灰原の一部である焼台集積遺構（ＳＸ００１）を検出したのみで、窯体や作業場などは検出されなかった。

（1）ＳＸ００１

調査区西端中央、最上段である平場０４で検出した焼台集積遺構である。遺構の東端は平場造成時に削平され残存せず、西端は調査区外に続き確認できず、南端はＳＸ００２と重なり不明瞭であるため、端部が確認できるのは北端のみである。残存部分は長軸２６５cm、短軸１９０cm、深さ６５cmを測る。埋土は３層に分かれ、上層のにぶい黄橙色シルト層と中層のにぶい黄褐色シルト層は山茶碗片と焼台片を大量に含む。下層の黒褐色シルト層は炭化物粒を含む灰層で、山茶碗片や焼台片の量は多くない。灰層下にみられるにぶい黄色砂質シルト層は無遺物層であるため、遺構の埋土ではなく、含まれる黒褐色シルトは上層の染み込みと考えられる。出土遺物が山茶碗と小皿のみで古瀬戸を含まないことと、焼台が青灰色のもののみで赤褐色のものを含まないことから、山茶碗焼成時に形成された灰原の一部と考える。なお、遺構から出土した炭化材の樹種同定と放射性炭素年代測定を実施している（第４章　理科学的分析）。

（2）ＳＸ００２

調査区西端中央、最上段である平場０４で検出した焼台集積遺構である。遺構の東端は平場造成時に削平され残存していない。残存部分は長軸３２３．４cm、短軸１８０．５cm、深さ６４cmを測る。埋土は暗褐色シルトで、山茶碗片と焼台片を大量に含む。トレンチ０２付近でＳＸ００１と重なるが、ＳＸ００１の上層に位置する。表土直下で検出したため、平場造成層の可能性も考えたが、ＳＸ００１と同様に出土遺物が山茶碗と小皿のみで古瀬戸を含まないことと、焼台が青灰色のもののみで赤褐色のものを含まないことから、山茶碗焼成時に形成された灰原の一部と考える。なお、山茶碗の底部から剥離した高台片が大量に出土していることから、この付近で焼成後、山茶碗から高台を分離する作業を行っていたと思われる。

（3）ＳＸ０１８

平場０６・０７の調査を進めて行くと、平場造成層の下から灰黄褐色粘土質シルト層が現れた。平場造成前の表土層であるが、灰原の可能性があるため、ＳＸ０１８と名づけて遺物を取り上げた。出土遺物は、山茶碗・小皿の他に、陶丸や古瀬戸の四耳壺・瓶子・卸皿などがある。

（4）ＳＸ０１９

平場０６の中央、ＳＸ０１８の下層で検出した土坑である。トレンチ０２により南端は不明であるが、長軸残存２２６cm、短軸１９５．８cm、深さ６９．２cmを測る。埋土は３層に分かれるが、遺物が出土するのは上層の明黄褐色シルト層のみである。埋土の状態から土坑は窯業生産開始以前の風倒木などによりできた自然の凹みで、窯業生産が開始された時には、下２層はすでに埋まり浅い凹みになっており、そこに廃棄された焼成失敗品が堆積したものと考えられる。出土遺物は、山茶碗・小皿、陶丸、古瀬戸の四耳壺・瓶子・卸皿などがある。出土した焼台の中に赤褐色の焼台が含まれることから、出土した古瀬戸製品は搬入品ではなく、この地で焼成されたものである。

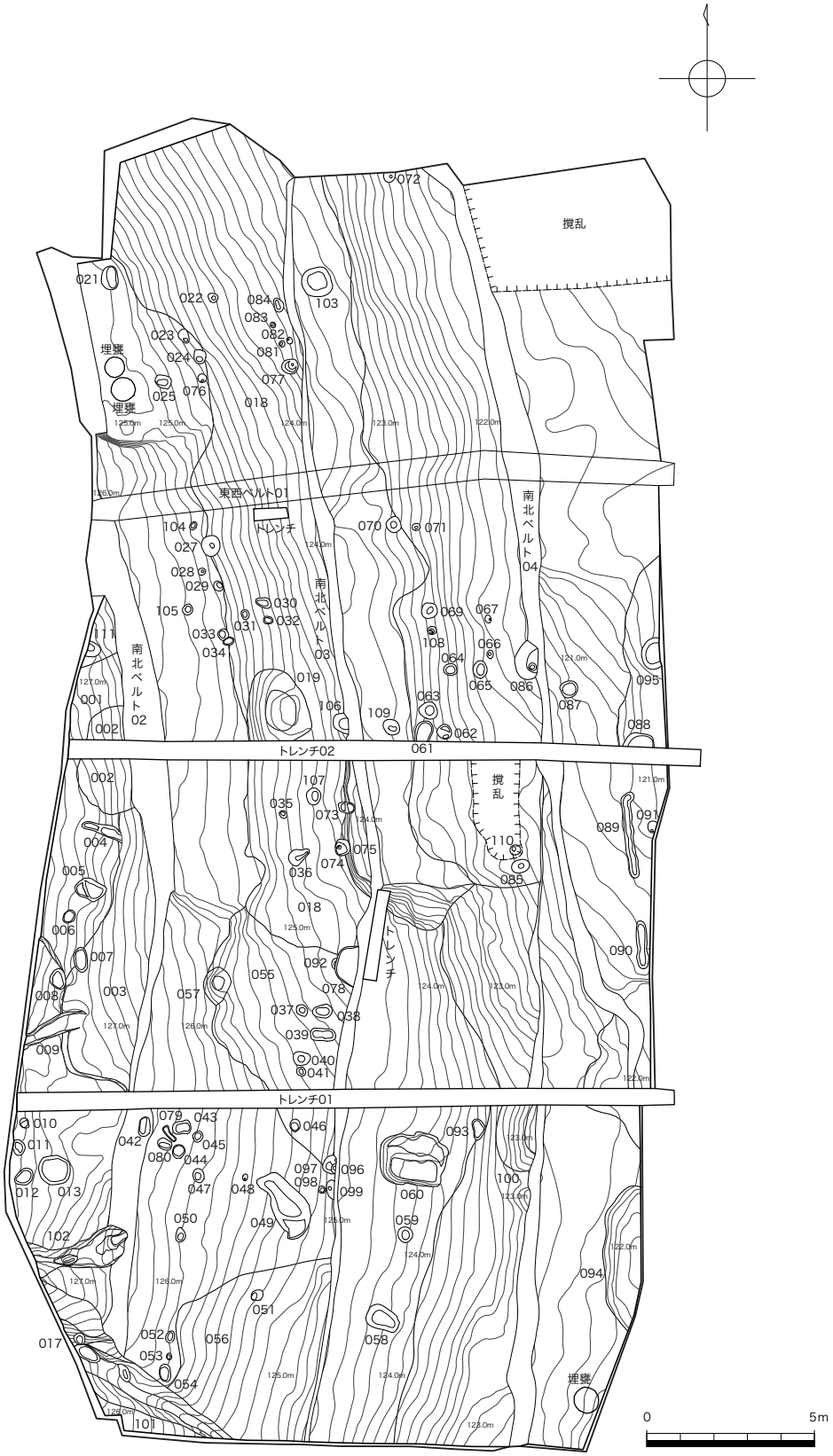


図１５　遺構平面図（Ｓ＝１／２００）

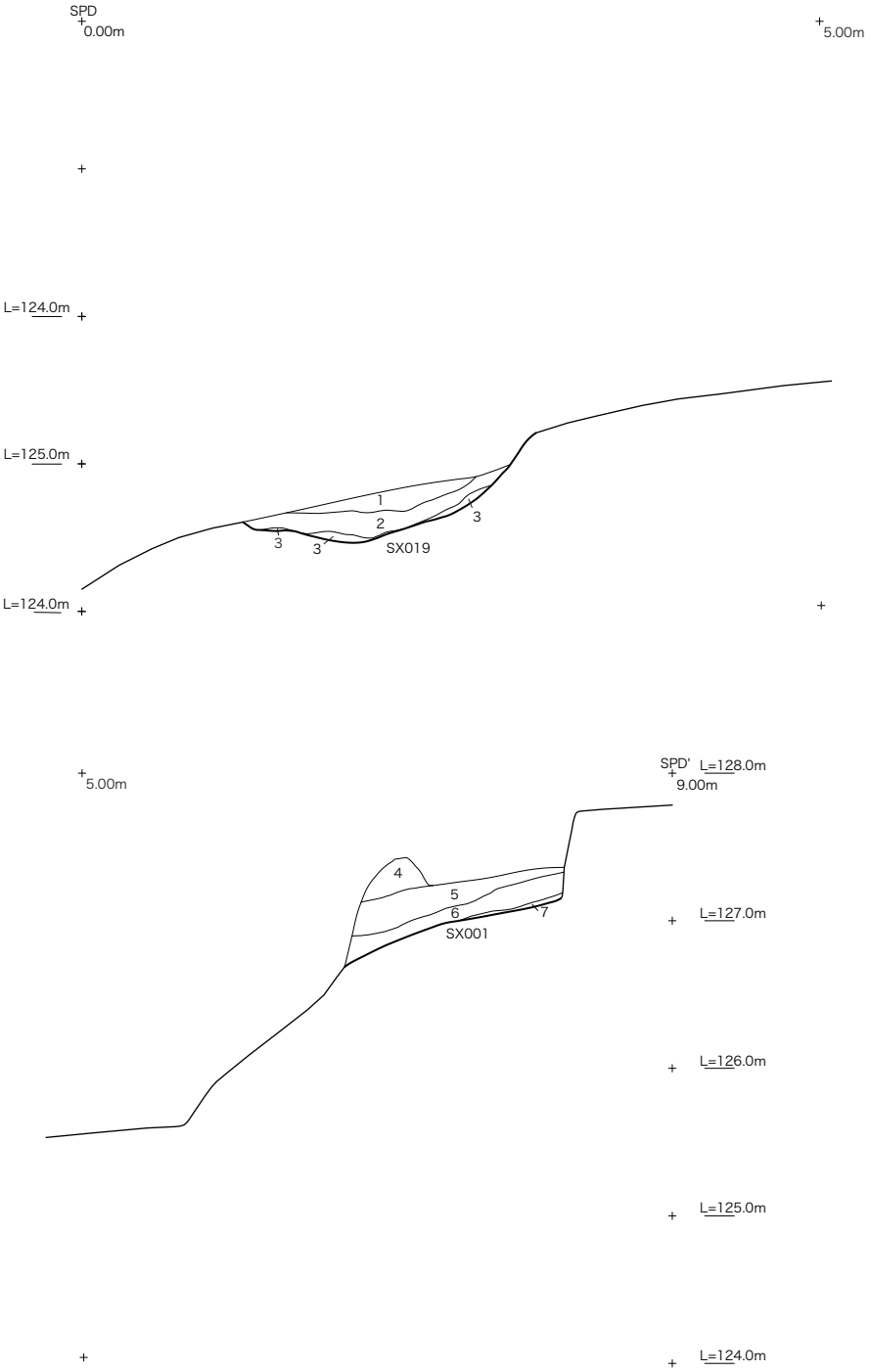


図１６　ＳＸ００１・ＳＸ０１９東西土層断面図（Ｓ＝１／５０）

表８　ＳＸ００１・ＳＸ０１９東西土層断面　土層観察表

層番号	土壌色	土色名	土性	混入物等
1	10YR6/6	明黄褐色	シルト	焼台片・山茶碗片を多く含む、赤焼台を微量含む、直径7cm以下の円礫を少量含む
2	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト	砂粒を10%程度含む、直径4cm以下の円礫を含む、10YR3/1（にぶい黄橙色）シルトを10%含む
3	10YR6/4	にぶい黄橙色	砂質シルト	直径6cm以下の円礫を微量含む
4	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト	山茶碗片を多く含む、焼台片を多量含む、炭化物なし、締り軟質、遺物の隙間に植物根が多く入る
5	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト・焼台片	焼台片集積層、10YR4/2（灰黄褐色）シルト10%、締り軟質、焼台片の隙間に植物根が多く入る
6	10YR2/2	黒褐色	シルト	灰層、焼台片を少量含む、山茶碗片を含む、炭化物粒を含む、焼土粒を微量含む、径3ｃｍ以下礫若干あり、10YR4/3（にぶい黄褐色）シルトを微量含む、粘性あり、締りやや軟質
7	2.5Y6/4	にぶい黄色	砂質シルト	細粒砂質、10YR2/2（黒褐色）シルト微量含む、10YR6/6（明黄褐色）シルトブロックを微量含む、直径4cm以下の円礫を微量含む

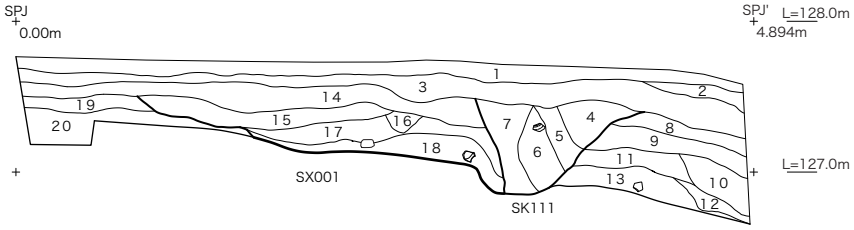


図１７　西壁南北土層（１）断面図（Ｓ＝１／５０）

表９　西壁南北土層（１）断面　土層観察表

層番号	土壌色	土色名	土性	混入物等
1	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	表土層直下の層、細粒砂を含む、腐植土を少量含む、礫を少量含む、締りやや軟質（ベルト02の12と連続）
2	10YR6/4 ～10YR6/6	にぶい黄橙色 ～明黄褐色	シルト	細粒砂含む、小礫微量（ベルト02の19と連続）
3	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト	10YR5/2(灰黄褐色）シルト少量、10YR5/3(にぶい黄褐色)シルト少量（ベルト02の20と連続）
4	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	山茶碗片を微量含む、10YR6/3（にぶい黄橙色）シルト15%、円礫を少量含む、SK111の覆度
5	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	10YR6/3（にぶい黄橙色）シルト10%、円礫を少量含む、炭化物あり、SK111の覆度
6	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	山茶碗片を微量含む、焼台片を微量含む、10YR6/3（にぶい黄橙色）シルト40%、円礫を少量含む、SK111の覆度
7	10YR6/4	にぶい橙色	シルト	砂粒を含む、10YR4/2（灰黄褐色）粘土質シルト5%、10YR6/4（にぶい黄橙色）シルト10%、円礫を少量含む、SK111の覆度
8	7.5YR6/4 ～10YR6/4	にぶい橙色 ～にぶい黄橙色	粘土質シルト	10YR5/2(灰黄褐色)シルト7%、小礫微量（ベルト02の13と連続）
9	10YR6/3	にぶい黄橙色	粘土質シルト	山茶碗片を含む、炭化物を微量含む、焼成粘土塊を微量含む（ベルト02の21と連続）
10	10YR6/3	にぶい黄橙色	粘土質シルト	10YR5/1(褐灰色）粘土質シルト10%、焼台片を微量含む、炭化物を微量含む、10YR5/2(灰黄褐色）シルト15%（ベルト02の24と連続）
11	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	10YR6/3（にぶい黄橙色）シルト15%、円礫を少量含む
12	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	10YR6/3（にぶい黄橙色）シルト微量、円礫を微量含む
13	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	山茶碗片を微量含む、7.5YR5/4（にぶい褐色）シルト微量、10YR5/2（灰黄褐色）シルト10%、円礫を微量含む
14	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト	山茶碗片を少量含む、焼台片を少量含む、直径8cm以下の円礫を少量含む、締り軟質、炭化物若干含む
15	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	上面に焼台片を多く含む、10YR4/2（灰黄褐色）シルト10%、締り軟質、直径6cm以下の円礫を微量含む
16	7.5YR5/3	にぶい褐色	シルト	焼成粘土塊を含む、10YR4/2（灰黄褐色）シルト10%、焼台片微量、締り軟質
17	10YR2/2	黒褐色	シルト	灰層、焼台片を少量含む、山茶碗片を微量含む、炭化物粒を含む、焼土粒を微量含む、10YR4/3（にぶい黄褐色）シルトを微量含む、粘性あり、締りやや軟質
18	2.5Y6/4	にぶい黄色	砂質シルト	自然釉の掛かった山茶碗塊を含む、10YR2/2（黒褐色）シルト微量含む、10YR6/6（明黄褐色）シルトブロックを微量含む、直径4cm以下の円礫を微量含む
19	2.5Y6/4	にぶい黄色	砂質シルト	斜面堆積層、砂粒を含む、直径4cm以下の円礫を微量含む、粘性弱
20	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト・礫	地山、直径7cm以下の円礫を多く含む、砂粒を少量含む、締り硬質、粘性弱

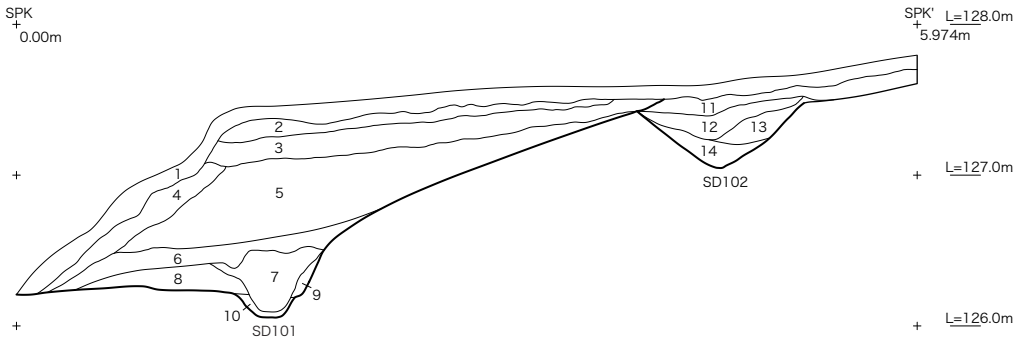


図１８　西壁南北土層（２）断面図（Ｓ＝１／５０）

表１０　西壁南北土層（２）断面　土層観察表

層番号	土壌色	土色名	土性	混入物等
1	10YR3/2	黒褐色	シルト	現表土層、10YR5/3(にぶい黄褐色）シルト15%、腐食植物を多く含む、円礫を微量含む
2	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	表土層直下の層、10YR3/2(黒褐色）シルト30%、腐食植物を少量含む、円礫を微量含む、SD101覆土
3	10YR6/4	にぶい黄橙色	砂質シルト	10YR6/3（にぶい黄橙色）砂質シルト少量、直径6cm以下の円礫を微量含む、締りあり、粘性弱、SD101覆土
4	10YR6/3	にぶい黄橙色	砂質シルト	10YR6/4（にぶい黄橙色）砂質シルト少量、直径6cm以下の円礫を微量含む、締り軟質、粘性弱、SD101覆土
5	10YR6/6	明黄褐色	礫	礫層、平場造成層、直径1cm前後～8cm以下の円礫主体、砂粒を少量含む、10YR5/2（灰黄褐色）シルト3%、締りあり、粘性なし、SD101覆土
6	2.5Y6/3	にぶい黄色	砂質シルト	直径4cm以下の円礫を微量含む、10YR4/2（灰黄褐色）シルト少量、SD101覆土
7	7.5YR6/3	にぶい褐色	細粒砂	旧流路、締り軟質、粘性弱、SD101覆土
8	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	砂粒を10%程度含む、直径4cm以下の円礫を含む、10YR4/2（灰黄褐色）シルト10%、SD101覆土
9	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	砂粒を少量含む、直径4cm以下の円礫を含む、10YR4/2（灰黄褐色）シルト15%、SD101覆土
10	10YR5/6	明黄褐色	粘土質シルト・礫	地山層、礫層、直径7cm以下の円礫を10%含む、SD101覆土
11	10YR6/6	明黄褐色	シルト	表土層直下の層、10YR6/3（にぶい黄橙色）シルト15%、10YR5/2(灰黄褐色）シルト5%、腐食植物を少量含む、円礫を微量含む
12	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	10YR6/4(にぶい黄橙色）シルト10%、円礫を微量含む、SD102覆土
13	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト	10YR4/2（灰黄褐色）シルト40%、直径4cm以下の円礫を微量含む、SD102覆土
14	10YR4/2	灰黄褐色	礫	礫層、直径11cm以下の円礫50%、10YR6/6（明黄褐色）シルトブロック少量、SD102覆土

表１１　遺構一覧表

遺構No.	略号	種別	平場	グリッド	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	平面形	断面形	覆土色調	覆土土性	混入物・備考	時期
001	SX	土坑（灰原）	04	1D19q	残存265.0	残存190.0	65.0	不明	皿形	10YR5/3（にぶい黄褐色）	シルト・焼台片	焼台集積地点、焼台直径７～15cm、山茶碗片を多く含む、炭化物を微量含む	中世
002	SX	土坑	04	1D19q～1D20q	残存323.4	残存180.5	64.0	半月形	皿形	10YR3/3（暗褐色）	シルト	山茶碗片を多く含む、焼台片を多く含む、小礫少量	中世
003	SX	平場造成層	03～04	1D20q～2D1q	残存852.5	残存191.0	89.0	不整形	不整形	上層：10YR4/2（灰黄褐色）下層：10YR6/6（明黄褐色）	上層：シルト下層：礫・シルト	砂礫を含む、下層の締り硬質	
004	SD	溝状遺構	04	1D20q	残存182	38.1	21.0	溝状	不整U字形	10YR4/2（灰黄褐色）	粘土質シルト	山茶碗片出土、小礫少量、10YR3/2(黒褐色）シルト微量	
005	SK	土坑	04	1D20g	93.5	85.2	16.5	不整台形	不整皿形	10YR4/2（灰黄褐色）	粘土質シルト	染付（人工コバルト）磁器片出土、10YR6/6(明黄褐色）シルト５%、植物根を多く含む	近代
006	SK	小穴	03	1D20q	42.4	30.5	13.0	楕円形	不整U字形	10YR4/2（灰黄褐色）	粘土質シルト	砂礫少量、10YR5/5(にぶい黄褐色）粘土質シルト10%	
007	SK	小穴	03	1D20g～2D1g	69.9	37.7	14.0	楕円形	皿形	10YR3/2（黒褐色）	粘土質シルト	10YR6/6(明黄褐色）シルト５%	
008	SK	小穴	03	2D1q	67.2	50.5	11.1	不整楕円形	皿形	10YR4/2（灰黄褐色）	粘土質シルト	砂礫５%、7.5YR4/8(橙色）細粒砂ブロック微量	
009	SD	溝状遺構	03	2D1q	212.5	58.8	20.3	溝状	U字形	10YR5/3（にぶい黄褐色）	シルト	山茶碗片出土、10YR4/2(灰黄褐色）粘土質シルト10%、直径6cm以下の小礫少量	
010	SK	小穴	03	2D1q	36.3	31.0	25.9	不整円形	U字形	10YR5/3（にぶい黄褐色）	シルト	炭化物出土、10YR6/6（明黄褐色）シルト25%	近世
011	SK	小穴	03	2D2q	46.6	40.5	8.1	不整円形	不整皿形	10YR5/4（にぶい黄褐色）	シルト	10YR4/2(灰黄褐色）粘土質シルト10%、小礫少量	
012	SK	小穴	03	2D2q	57.9	49.0	15.0	楕円形	浅いU字形	10YR6/6（明黄褐色）	シルト	10YR6/4(にぶい黄橙色）粘土質シルト20%	
013	SK	土坑	03	2D2q	95.6	86.4	17.0	楕円形	皿形	10YR6/6（明黄褐色）	粘土質シルト	10YR5/4（にぶい黄褐色）シルト15%、小礫少量	
014												欠番	
015												欠番	
016												欠番	
017	SK	小穴	03	2D3q	36.0	32.5	8.5	不整楕円形	浅いU字形	10YR4/2（灰黄褐色）	シルト	SD101を切る、小礫微量	
018	SX	旧表土層	06～07	1D16q・1D16 r～1D20r・1D20s	残存2498.5	残存530.0	195.5	不整形	不整形	10YR5/4（にぶい黄褐色）	シルト	山茶碗片・古瀬戸片・焼台片を多く含む、直径9cm以下の礫を含む、10YR5/2(灰黄褐色）シルト20%	
019	SX	土坑	06	1D19r	残存226.0	195.8	69.2	楕円形	浅いU字形	上層：10YR6/6（明黄褐色）下層：10YR6/4（にぶい黄橙色）	上層・下層：シルト	上層に山茶碗片・古瀬戸片・焼台片を多く含む、直径７ｃm以下の円礫少量	中世
020												欠番	
021	SK	土坑	07	1D16q	69.5	50.1	16.3	不整楕円形	皿形	2.5Y5/2（暗灰黄色）	シルト	山茶碗片出土、2.5Y3/2(黒褐色）シルト5%	
022	SK	小穴	07	1D17r	29.5	24.8	14.0	楕円形	浅いU字形	2.5YR5/3（黄褐色）	シルト	2.5Y7/3(浅黄色）シルト10%、5YR5/6(明赤褐色）粘土質シルトブロック微量、SX018下に検出	
023	SK	小穴	07	1D17r	48.8	31.0	21.4	楕円形	V字形	2.5YR5/3（黄褐色）	シルト	2.5Y7/3(浅黄色）シルト15%、5YR5/6(明赤褐色）粘土質シルトブロック微量、SX018下に検出	
024	SK	小穴	07	1D17r	26.1	20.4	17.5	楕円形	U字形	2.5YR5/3（黄褐色）	シルト	山茶碗片出土、2.5Y7/3(浅黄色）シルト20%	
025	SK	小穴	07	1D17r	45.2	31.7	16.2	楕円形	U字形	2.5YR5/2（灰黄褐色）	シルト	2.5Y7/3(浅黄色）シルト10%	
026												欠番	
027	SK	小穴	06	1D18r	80.8	62.8	24.0	不整菱形	浅いU字形	10YR4/2（灰黄褐色）	シルト	炭化物微量、小礫含む	
028	SK	小穴	06	1D18r	21.5	19.9	23.5	円形	U字形	10YR4/2（灰黄褐色）	シルト	炭化物微量、小礫含む、5YR4/6(赤褐色）シルト微量	
029	SK	小穴	06	1D18r	26.5	23.1	6.1	楕円形	皿形	10YR/3（にぶい黄褐色）	シルト	小礫含む	

遺構No.	略号	種別	平場	グリッド	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	平面形	断面形	覆土色調	覆土土性	混入物・備考	時期
030	SK	小穴	06	1D18r	37.9	28.5	9.8	不整楕円形	不整皿形	10YR5/3（にぶい黄褐色）	シルト	小礫含む	
031	SK	小穴	06	1D18r	26.2	23.5	3.2	円形	皿形	10YR5/3（にぶい黄褐色）	シルト	赤焼台片出土	
032	SK	小穴	06	1D19r	28.3	22.2	5.6	楕円形	皿形	10YR5/3（にぶい黄褐色）	シルト		
033	SK	小穴	06	1D19r	46.9	39.3	10.3	円形	浅いU字形	10YR4/2（灰黄褐色）	シルト	SK034に切られる、炭化物・焼土粒微量、直径2.5ｃm以下の礫少量、10YR6/4(にぶい黄橙色）シルト少量	
034	SK	小穴	06	1D19r	36.1	25.0	5.6	楕円形	皿形	10YR4/2（灰黄褐色）	シルト	SK033を切る、炭化物・焼土粒微量、直径２ｃm以下の礫少量	
035	SK	小穴	06	1D20r	22.2	21.0	23.5	円形	U字形	10YR5/2（灰黄褐色）	シルト	10YR5/3(にぶい黄橙色）シルト少量	
036	SK	小穴	06	1D20r	53.2	50.1	21.5	不整形	U字形	10YR5/3（にぶい黄褐色）	シルト	山茶碗片出土、10YR6/6(明黄褐色）細粒砂少量、直径５ｃm以下の礫微量	
037	SK	小穴	05	2D1s	34.2	30.5	8.4	楕円形	皿形	10YR6/4（にぶい黄橙色）	シルト	灰白色粘土粒１％	
038	SK	小穴	05	2D1s	59.6	43.0	8.5	卵形	浅いU字形	10YR6/4（にぶい黄橙色）	シルト	10YR6/4(明黄褐色）細粒砂10%	
039	SK	小穴	05	2D1s	残存47	30.9	12.0	隅丸長方形	浅いU字形	10YR6/4（にぶい黄橙色）	シルト	10YR6/4(明黄褐色）細粒砂15%	
040	SK	小穴	05	2D1s	39.4	34.3	9.8	円形	浅いU字形	10YR6/4（にぶい黄橙色）	シルト	灰白色粘土粒２%散在	
041	SK	小穴	05	2D1r	30.5	20.0	3.9	楕円形	皿形	10YR6/4（にぶい黄橙色）	シルト	灰白色粘土粒２%散在	
042	SK	小穴	05	2D1q・2D2q～2D1r・2D2r	56.5	35.0	24.5	楕円形	U字形	10YR4/2（灰黄褐色）	シルト	10YR6/6（明黄褐色）シルト３０%、小礫少量	
043	SK	土坑	05	2D1r～2D2r	84.2	68.5	17.1	不整楕円形	浅いU字形	10YR5/4（にぶい黄褐色）	細粒砂	直径0.5～7cm大の礫７%、2.5Y5/3(黄褐色）シルト７%	
044	SK	土坑	05	2D2r	42.2	36.4	11.3	不整溝状	不整U字形	10YR5/4（にぶい黄褐色）	細粒砂	直径４～6cm大の礫５%、2.5Y5/3(黄褐色）シルト５%	
045	SK	小穴	05	2D2r	30.2	28.0	10.9	円形	U字形	10YR5/4（にぶい黄褐色）	細粒砂	2.5Y5/3(黄褐色）シルト少量、2.5Y4/2(暗灰黄色）シルト微量	
046	SK	小穴	05	2D1r～2D2r	30.4	26.4	28.0	楕円形	U字形	2.5Y5/4（黄褐色）	シルト	10YR6/6(明黄褐色）細粒砂20%、鉄斑を微量含む、黒褐色炭化物（根跡？）	
047	SK	土坑	05	2D2r	46.8	41.9	16.5	不整溝状	不整U字形	10YR6/6（明黄褐色）	細粒砂	直径0.3～4.5cm大の礫３%	
048	SK	小穴	05	2D2r	38.0	34.5	19.9	不整形	U字形	10YR6/4（にぶい黄褐色）	シルト	10YR6/6(明黄褐色）細粒砂20%	
049	SK	土坑	05	2D2r～2D2s	207.0	109.5	56.2	不整形	U字形～V字形	10YR6/4（にぶい黄橙色）	シルト	山茶碗片出土、10YR5/3（にぶい黄褐色）シルト10%、10YR6/6（明黄褐色）細粒砂20%、樹木痕	
050	SK	小穴	05	2D2r	38.0	21.2	20.0	楕円形	U字形	10YR5/3（にぶい黄褐色）	シルト	10YR3/2(黒褐色）粘土質シルト少量、直径4cm以下の礫少量	
051	SK	小穴	05	2D2r～2D3r	33.6	31.6	18.1	円形	U字形	10YR5/6(黄褐色）	シルト	10YR4/2(灰黄褐色）シルト少量、締り軟質	
052	SK	小穴	05	2D3r	35.5	27.8	8.2	楕円形	浅いU字形	10YR5/4（にぶい黄褐色）	シルト	直径３ｃm以下の礫少量	
053	SK	小穴	05	2D3r	20.7	19.2	6.6	円形	浅いU字形	10YR5/3（にぶい黄褐色）	粘土質シルト	10YR5/6(黄褐色）粘土質シルト30%、直径３ｃm以下の礫少量	
054	SK	小穴	05	2D3r	52.0	44.3	14.5	楕円形	不整皿形	10YR4/2（灰黄褐色）	粘土質シルト	10YR5/6(黄褐色）粘土質シルト25%、直径9cm以下の円礫５%	
055	SX	旧表土層	05	1D20r・1D20s～2D2r・2D2s	805.5	455.0	116.0	不整形	不整形	10YR6/4（にぶい黄橙色）～10YR6/6(明黄褐色）	シルト	上層に10YR4/3(にぶい黄褐色）シルトを多く含む、直径7cm以下の小礫少量	
056	SX	旧表土層	05	2D2r・2D2s～2D3r・2D3s	612.6	457.4	129.6	不整形	不整形	10YR6/4（にぶい黄橙色）～10YR6/6(明黄褐色）	シルト	直径８ｃm以下の礫を少量含む	
057	SK	小穴	05	2D1r	115.8	78.6	38.9	不整楕円形	U字形	10YR6/4（にぶい黄橙色）～10YR6/6(明黄褐色）	シルト	小礫少量、SX055との切り合い不明	
058	SK	土坑	08	2D3s	94.5	65.0	9.2	隅丸長方形	U字形	10YR6/4（にぶい黄褐色）	シルト	10YR5/2～4/2（灰黄褐色）シルト20%、直径2cm以下の礫微量	

遺構No.	略号	種別	平場	グリッド	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	平面形	断面形	覆土色調	覆土土性	混入物・備考	時期
059	SK	小穴	08	2D2s	53.8	31.9	18.0	不整楕円形	浅いU字形	10YR5/4（にぶい黄褐色）	シルト	10YR6/6(明黄褐色）細粒砂 20%、灰白色粘土粒微量	
060	SK	土坑	08	2D2s	211.9	176.5	54.6	不整楕円形	不整皿形	上層：10YR6/6(明黄褐色)下層：10YR4/2(灰黄褐色)	上層：細粒砂下層：シルト	10YR4/2(灰黄褐色）細粒砂微量、直径 6cm 以下の礫多数、樹木痕	
061	SK	小穴	09	1D19s	残存63.0	53.1	11.5	楕円形	皿形	10YR5/4（にぶい黄褐色）	シルト	直径４ｃm以下の円礫 10%	
062	SK	小穴	09	1D19s	49.0	14.5	29.3	円形	有段U字形	10YR5/4（にぶい黄褐色）	シルト	直径６ｃm以下の円礫 3%	
063	SK	小穴	09	1D19s	52.1	44.5	10.9	楕円形	浅いU字形	10YR5/6(黄褐色）	シルト	直径６ｃm以下の円礫 5%、10YR6/6(明黄褐色）シルト 40%	
064	SK	小穴	09	1D19s	43.2	33.9	10.8	楕円形	浅いU字形	10YR4/2（灰黄褐色）	シルト	10YR6/6(明黄褐色）シルト 30%	
065	SK	小穴	09	1D19s～1D19t	52.5	41.0	13.1	楕円形	浅いU字形	10YR5/2（灰黄褐色）	シルト	7.5YR5/6(明黄褐色）シルト 20%、小礫含む	
066	SK	小穴	09	1D19t	22.2	16.4	20.5	楕円形	U字形	2.5Y5/3(黄褐色）	シルト	山茶碗片出土、10YR6/6(明黄褐色）シルト 30%	
067	SK	小穴	09	1D18t	15.5	15.1	27.0	円形	U字形	2.5Y4/3(オリーブ褐色）	シルト	土人形片出土、小礫少量	近代
068												欠番	
069	SK	小穴	09	1D18s	45.4	45.2	19.5	円形	U字形	10YR4/2(灰黄褐色）と 10YR6/6(明黄褐色）	シルト	直径５ｃm以下の円礫 2%	
070	SK	小穴	09	1D18s	49.5	48.0	29.6	不整楕円形	U字形	上層：10YR4/2(灰黄褐色）下層：10YR6/6(明黄褐色）	上層・下層：シルト	山茶碗片・土製品出土、直径４ｃm以下の円礫 2%	近代
071	SK	小穴	09	1D18s	25.6	22.0	7.2	円形	浅いU字形	10YR4/2(灰黄褐色）	シルト		
072	SK	小穴	10	1D16s	38.7	35.5	28.8	楕円形	U字形	10YR4/2(灰黄褐色）	シルト	北側は調査区外へ延びる、平場造成層との切り合い不明	
073	SK	小穴	06	1D20s	52.8	12.0	13.0	楕円形	皿形	10YR4/2(灰黄褐色）	シルト	SX075 を切る	
074	SK	小穴	06	1D20s	47.1	45.5	9.5	円形	有段U字形	10YR4/2(灰黄褐色）	シルト	山茶碗片出土、SX075 を切る	
075	ＳＸ	斜面堆積層（灰原？）	06	1D19s・1D20s	417.4	71.3	60.6	不整形	不整形	10YR6/6(明黄褐色）	シルト	山茶碗片を含む、焼台片を少量含む、SK072・SK073 に切られる	
076	SK	小穴	07	1D17r	26.5	25.8	17.8	円形	U字形	10YR4/2(灰黄褐色）	シルト	小礫少量	
077	SK	小穴	07	1D17r	49.1	44.1	49.5	円形	有段U字形	10YR4/2(灰黄褐色）	シルト	山茶碗片出土、小礫少量、2.5Y4/2(暗灰黄色）シルト少量	
078	SK	土坑	05	2D1s	124.0	残存71.0	21.5	隅丸長方形	皿形	10YR6/4（にぶい黄橙色）	シルト・細粒砂	直径６ｃm以下の礫を少量含む、SK092 を切る	
079	SK	小穴	05	2D2r	53.4	13.7	8.9	不整溝状	浅いU字形	10YR5/4（にぶい黄褐色）	細粒砂	直径 7cm 以下の礫 7%、2.5Y5/3(黄褐色）シルト 3%	
080	SK	小穴	05	2D2r	44.1	32.0	19.5	楕円形	不整U字形	10YR5/4（にぶい黄褐色）	細粒砂	直径 6cm 以下の礫 10%、2.5Y5/3(黄褐色）シルト 3%	
081	SK	小穴	07	1D17r	19.0	15.0	6.5	円形	U字形	2.5Y5/3(黄褐色）	シルト	2.5Y6/4(にぶい黄色）シルト粒 2%、5YR5/6(明黄褐色）シルト微量	
082	SK	小穴	07	1D17r	16.5	16.2	7.7	円形	U字形	2.5Y5/3(黄褐色）	シルト	山茶碗片出土、小礫微量、5YR5/6(明黄褐色）シルトブロック含む	
083	SK	小穴	07	1D17r	17.1	16.2	4.8	円形	浅いU字形	2.5Y5/3(黄褐色）	シルト	10YR6/6（明黄褐色）シルト 20%	
084	SK	小穴	07	1D17r	27.0	24.5	3.6	円形	皿形	2.5Y5/3(黄褐色）	シルト	直径５ｃm以下の円礫少量、10YR6/6(明黄褐色）シルト 20%	
085	SK	小穴	09	1D20t	22.0	15.8	45.0	楕円形	U字形	10YR6/6(明黄褐色）	シルト	10YR5/3（にぶい黄褐色）シルト 20%、白磁片を含む	近代
086	SK	土坑	09	1D19t	44.4	28.0	44.0	楕円形	不整U字形	10YR5/3（にぶい黄褐色）	シルト	10YR4/2（灰黄褐色）シルト 5%	
087	SK	小穴	12	1D19t	21.8	20.4	16.0	円形	皿形	2.5Y5/3(黄褐色）	粘土質シルト	土師器片・瓦片・金属器出土、小礫微量	近代
088	SK	土坑	12	1D19t～1E19a	残存94.5	残存42.5	37.0	楕円形	U字形	10YR5/3（にぶい黄褐色）	シルト	平場造成層に切られる、10YR6/6（明黄褐色）シルト 20%	

遺構No.	略号	種別	平場	グリッド	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	平面形	断面形	覆土色調	覆土土性	混入物・備考	時期
089	SK	溝状遺構	12	1D19t～1E20a	257.0	31.0	8.3	溝状	U字形	10YR5/4(にぶい黄褐色)	シルト	ビニール片出土、底面未調整・凹凸あり	近代
090	SK	溝状遺構	12	1D20t	97.5	33.0	17.4	溝状	U字形	10YR5/4(にぶい黄褐色)	シルト	底面未調整・凹凸あり	近代
091	SK	小穴	12	1E20a	34.0	27.3	38.5	楕円形	U字形	10YR4/2(灰黄褐色)	シルト	10YR3/2(黒褐色)シルト少量、10YR6/4(にぶい黄橙色)シルト10%	
092	SK	小穴	06	2D1s	40.9	32.2	25.2	楕円形	U字形	10YR6/6(明黄褐色)	粘土質シルト	10YR5/4(にぶい黄褐色)粘土質シルトが筋状に入る、SK078に切られる	
093	SK	小穴	08	2D1s・2D1t～2D2s・2D2t	63.9	40.4	12.3	不整三角形	浅いU字形	10YR6/4(にぶい黄橙色)	シルト	10YR4/2(灰黄褐色)シルト20%、小礫微量	
094	SK	平場造成層	11	2D2t～2D3t	残存431.5	残存115.0	46.9	不整半月形	不整形	10YR6/4(にぶい黄橙色)	粘土質シルト	山茶碗片出土、10YR5/2(灰黄褐色)粘土質シルト30%、10YR6/6(明黄褐色)シルト5%、根攪乱多い	
095	SK	小穴	12	1D19t～1E19a	95.0	残存70.0	13.0	楕円形	浅いU字形	10YR5/4(にぶい黄褐色)	粘土質シルト	10YR4/2(灰黄褐色)シルト5%、整地層に切られる	
096	SK	小穴	05	2D2s	20.2	残存19.1	24.3	円形	U字形	10YR4/2(灰黄褐色)	シルト	10YR4/2(灰黄褐色)細粒砂40%、SK097を切る	
097	SK	小穴	05	2D2s	54.2	残存35.5	52.5	不整楕円形	有段V字形	10YR4/2(灰黄褐色)	シルト	10YR4/2(灰黄褐色)細粒砂40%、SK096に切られる	
098	SK	小穴	05	2D2s	21.1	20.5	7.5	円形	U字形	10YR5/4(にぶい黄褐色)	シルト	10YR5/2(灰黄褐色)粘土質シルト10%	
099	SK	小穴	05	2D2s	55.3	27.0	43.5	楕円形	有段V字形	10YR4/2(灰黄褐色)	シルト	灰色粘土微量、10YR4/2(灰黄褐色)細粒砂15%	
100	SK	土坑	08	2D1t～2D2t	211.5	167.8	47.5	楕円形	不整皿形	10YR6/4(にぶい黄橙色)	シルト	10YR4/2(灰黄褐色)シルト15%、粘性あり、樹木痕	
101	SD	溝	03・05	2D2q・2D3q・2D3r	残存751.0	残存最大幅232.5	46.0(西壁付近)	溝状	V字形～U字形	上層:10YR6/6(明黄褐色)、中層:2.5Y6/3(にぶい黄色)、下層:7.5YR6/3(にぶい褐色)	上層:礫中層:シルト下層:細粒砂	山茶碗片出土、SD102を切る、下層から近代の陶器片出土	近代
102	SD	溝	03	2D2q	残存282.0	残存最大幅232.5	20.2	溝状	U字形	上層:10YR4/2(灰黄褐色)、中層:10YR6/4(にぶい黄橙色)、下層:10YR6/6(明黄褐色)	上層・中層・下層:シルト	SD101に切られる	
103	SK	小穴	10	1D16r・1D16s～1D17r・1D17s	37.8	37.5	18.0	不整隅丸方形	浅いU字形	10YR3/2(黒褐色)	シルト	10YR6/4(にぶい黄橙色)シルト30%、小礫少量	
104	SK	小穴	06	1D18r	26.4	19.5	15.9	楕円形	U字形	10YR4/2(灰黄褐色)	シルト	炭化物粒微量	
105	SK	小穴	06	1D18r	34.0	27.5	10.0	不整円形	浅いU字形	10YR4/2(灰黄褐色)	シルト		
106	SK	小穴	06	1D19r	残存70.5	残存49.7	35.0	楕円形	U字形	10YR5/4(にぶい黄褐色)	シルト	10YR5/4(にぶい黄褐色)シルト10%	
107	SK	小穴	06	1D19r・1D19s～1D20r・1D20s	50.3	42.5	21.0	楕円形	U字形	10YR4/2(灰黄褐色)	シルト	小礫少量	
108	SK	小穴	09	1D18s	25.7	20.2	31.0	楕円形	有段U字形	10YR4/2(灰黄褐色)	シルト	直径3cm以下の小礫微量	
109	SK	小穴	09	1D19s	51.0	45.5	19.0	楕円形	U字形	10YR4/2(灰黄褐色)	シルト	10YR5/4(にぶい黄褐色)シルト20%、直径6cm以下の小礫少量	
110	SK	小穴	09	1D20t	35.4	27.6	14.0	円形	U字形	10YR4/2(灰黄褐色)	シルト	小礫少量、攪乱底に検出	
111	SK	小穴	04	1D19q	残存50.6	残存48.5	24.0	楕円形	U字形	①10YR5/2(灰黄褐色)、②10YR4/2(灰黄褐色)、③10YR4/2(灰黄褐色)、④10YR6/4(にぶい橙色)	①～④シルト	山茶碗片を微量含む、焼台片を微量含む、円礫を少量含む、SX001を切る、西側は調査区外に延びる	

第３節　遺物

今回の調査で出土した遺物の大半は中世の窯業生産に関連したものである。それらは焼成失敗品として廃棄された製品、焼成時に使用された窯道具、床や壁など窯体の一部に分けられる。さらに製品は施釉の有無により、無釉陶器（山茶碗・小碗・小皿・陶丸）と施釉陶器（古瀬戸）に分けられる。土師質の鍋など工人が使用目的で持ち込んだ道具類は出土していない。

なお、これ以外には近現代の陶磁器などが出土している。

遺物の整理にあたり遺物の大多数を占める山茶碗の中に、重ね焼きでは自然釉がかからない底部外面に釉がかかるものや、胎土が黄白色をした焼成不良品が目立った。底部外面に自然釉がかかるものは蓋としての二次利用が、胎土が黄白色をしたものは同時焼成の可能性が考えられるため、遺物の分類は焼成具合に重点を置いて実施した。

表１２　出土遺物個体数表

器種	山茶碗	小碗	小皿	陶丸	四耳壷	瓶子	水注	壷瓶類	卸皿	灰釉皿	合計
破片数	16131	1	117	28	128	181	10	113	54	8	16771
重量（g）	214505	24	2297	148	6076	4263	226	3280	806	212	231837
底部 1/2 以上	1047	0	40	27	1	3	0	0	3	1	1122

重量に溶着資料は含めず、陶丸は 1/2 残存数でカウントした。また器種を明確にできない四耳壷・瓶子・水注は壷瓶類とした。

（1）無釉陶器

釉薬をかけないで焼成した製品としては、山茶碗・小碗・小皿・陶丸がある。

焼成具合による分類の基準は次の通りである。

A　焼成具合は良好で、胎土は灰白色をしている。自然釉が厚くかかる。

B　焼成具合は良好で、胎土は灰白色をしている。自然釉が薄くかかるものがある。

C　焼成具合はやや不良で、胎土は黄白色をしている。

D　焼成具合は不良で、胎土は黄白色または白色をしている。

a　山茶碗（図 19 ～ 25、30　1 ～ 195、296 ～ 298　写真図版 7、9、14　305 ～ 310）

総破片数 16131 点、総重量 214505g、底部 1/2 以上残存数 1047 点を数える。図化した 195 点の法量は、器高 4.1 ～ 6.8cm、口径 11.2 ～ 14.8cm、底径 4.4 ～ 7.1cm を測りばらつきが大きい。

胎土は砂や小石を含み粗く、焼成が良好なものの表面には長石粒の吹き出しがみられる。体部は直線的に立ち上がり、体部外面から口縁部にかけてわずかに外反するものが多い。口縁部は四角く仕上げたものと口縁頂部が尖り断面が三角形をしているものがある。底部と体部内面との境は角張り、底部内面中央に指圧痕がみられる。底部外面には糸切り痕がみられるが、高台を装着した時の指ナデで消され、高台の剥離した部分を除き不鮮明である。底部外面には他に板目状圧痕が残るものが多い。

底部が完存し、溶着せず高台の様子を観察することができる 357 点の高台の残存状況を示したのが表１ 4 である。高台が完存するものは 11 点（3.1％）にすぎず、高台が一部残存するものが 255 点（71.4％）と多数を占める。無高台のもの 91 点のうち､54 点（15.1％）に高台の剥離痕がみられ、剥離痕がなく無高台で焼成したものは 37 点（10.4％）である。高台はほぼ正円に装着されているが、装着位置が縁辺よりやや内側のものが多い。端部は籾殻痕が残り、つぶれて丸くなっている。高台を装着した時の指ナデは高台の内面のみで外面に施したものはわずかである。SX002 から剥離した高台片が 651 片出土しており、高台の輪ドチ化が進んでいたことがわかる。

山茶碗が重なった状態で出土したものがあり、重ねて焼成したことがわかる。確認できたのは 13 段が最高である（308）。193 は体部外面に自然釉がかかり、体部内面に剥離痕がみられることから、陶丸焼成時に蓋として利用したと思われる。194 は底部内面に円形に指ナデ痕が残り、195 は無高台で底部が突出するものであるが、それぞれ 1 点出土したのみである。

表１３　山茶碗個体数表

分類	破片数（%）	重量 g（%）	底部 1/2 以上残存数（%）
A	3278(20.3)	67236(31.3)	345(33.0)
B	4532(28.1)	67685(31.6)	341(32.6)
C	5870(36.4)	60971(28.4)	260(24.8)
D	2451(15.2)	18613(8.7)	101(9.6)
合計	16131(100.0)	214505(100.0)	1047(100.0)

表１４　山茶碗高台残存別個体数表

分類	完存	3/4 以上	3/4 ～ 1/4	1/4 以下	痕跡のみ	痕跡なし	不明	合計
A	5	19	45	25	12	16	67	189
B	6	21	50	30	18	9	1	135
C	0	7	24	26	16	7	0	80
D	0	0	2	6	8	5	0	21
合計	11	47	121	87	54	37	68	425

b　小碗（図 25　196）

出土したのは 1 点のみである。山茶碗と同様の胎土と器形をしているが、法量が器高 4.2cm、口径 9.8cm、底径 4.1cm と山茶碗より小振りなため別器種とした。体部の器壁は薄く、直線的に立ち上がる。口縁部は四角く仕上げてある。底部外面には糸切り痕と高台剥離痕がみられる。

c　小皿（図 25、30　197 ～ 234、295　写真図版 8）

山茶碗と同様の胎土で、山茶碗とセットになる器種である。総破片数 117 点、総重量 2297g、底部 1/2 以上残存数 40 点を数える。図化できた 40 点の法量は、器高 1.4 ～ 2.1cm、口径 7.2 ～ 8.4cm、底径 4.2 ～ 6.1cm を測る。

上　高台が一部剥離した山茶碗（56）

右　SX002 から出土した高台片（一部）(313)

底部外面には糸切り痕がみられ、加えて板目状圧痕が残るものが多い。底部内面中央には指ナデがみられるが、なでた程度でほとんど凹んでいないものもある。

口縁部や体部外面の形状等から４つに分類が可能である。

Ⅰ　体部外面から口縁部にかけてわずかに外反する。口縁部は丸く仕上げているが厚手である。器高は低く、底径は広いものが多い。焼成具合Ｃの割合が高い。

Ⅱ　体部外面から口縁部にかけてわずかに外反する。口縁部は四角く仕上げ薄手である。Ⅰと比べ器高は高く、底径は狭いものが多い。出土量が一番多い。

Ⅲ　体部外面から口縁部にかけてわずかに外反する。口縁頂部が尖り断面が三角形をしていて薄手である。器高、底径ともⅡと同様である。焼成具合Ｂの割合が高い。

Ⅳ　体部外面から口縁部にかけて外反せず丸く仕上げる。口縁部は四角く仕上げ薄手である。器高、底径ともⅡと同様である。焼成具合Ａの割合が高い。

小皿２枚が溶着したもの（295）が出土しているが、山茶碗や焼台と溶着したものは確認できなかった。山茶碗と比べ出土量が少ないことと、小皿焼成用の焼台が出土していないことから、小皿は重ねた山茶碗の最上段にさらに重ねて焼成したものと思われる。232 は口縁の約４分の１が欠けており、長石粒の吹き出しなどを取り除く道具として使用したものと思われる。

表１５　小皿個体数表（１）

分類	破片数（%）	重量ｇ（%）	底部 1/2 以上残存数（%）
A	35(29.9)	724(31.5)	14(35.0)
B	44(37.6)	912(39.7)	15(37.5)
C	33(28.2)	609(26.5)	10(25.0)
D	5(4.3)	52(2.3)	1(2.5)
合計	117(100.0)	2297(100.0)	40(100.0)

表１６　小皿個体数表（２）

分類	個数（%）
Ⅰ	9(22.5)
Ⅱ	20(50.0)
Ⅲ	8(20.0)
Ⅳ	3(7.5)
合計	40(100.0)

ｄ　陶丸（図 25、30　235 ～ 244、299 ～ 304　写真図版 9）

山茶碗と同様の胎土である。手づくねで成形しているため不整形な球状をしている。総破片数 28 点、総重量 150g（溶着資料を除く）、1/2 以上残存数 27 点である。大きさは長径 2.5 ㎝前後の大と長径 2.2 ㎝前後の小に分けることができる（表 18）。小の多くは古瀬戸四耳壺片に溶着した状態で出土している（299 ～ 303）。焼成具合は良好のものがほとんどであるが、236・238・240 のように不良のものもある。陶丸が溶着したり、陶丸の剥離痕が残る山茶碗片や古瀬戸片が出土しており、これらの破片を皿や蓋にして焼成している。焼成に古瀬戸片を利用しているが、山茶碗と同時に焼成されたと思われる。

表１７　陶丸個体数表

分類	破片数（%）	重量ｇ（%）	1/2 以上残存数（%）
A	16(57.1)	24 ※	16(59.3)
B	9(32.1)	92	8(29.6)
C	1(3.6)	12	1(3.7)
D	2(7.1)	22	2(7.4)
合計	28(99.9)	150	27(100.0)

※溶着資料の重量は含まず

表１８　陶丸長径別個体数表

長径 cm	個数
2	1
2.1	4
2.2	6
2.3	2
2.4	5
2.5	4
2.6	3
不明	2
合計	27

（2）施釉陶器

釉薬を施して焼成した製品で、古瀬戸とよばれるものである。釉はすべて灰釉で刷毛塗りしている。四耳壺、瓶子、水注、卸皿、灰釉皿が出土した。

焼成具合による分類の基準は次の通りである。

A　焼成具合は焼き過ぎで、胎土は灰白色をしている。溶着がみられる。

B　焼成具合は良好で、胎土は灰白色をしている。灰釉がかかる。

C　焼成具合は良好で、胎土は灰白色をしている。釉が剥離している。

D　焼成具合はやや不良で、胎土は赤褐色をしている。釉を塗った痕跡がみられる。

E　焼成具合はやや不良で、胎土は黄白色をしている。釉を塗った痕跡がみられる。

F　焼成具合はやや不良で、胎土は黄白色をしている。釉を塗った痕跡がみられない。

なお、四耳壺・瓶子・水注の区別ができない破片が多く、器種ごとの正確な破片数等を出すことはできなかった。また、施釉陶器の出土数は無釉陶器と比べて極端に少ないため、可能な限り図化した。

a　四耳壺（図 26、30　245 ～ 258、299・302　写真図版 9、11）

総破片数 128 点、総重量 6076g（陶丸付着の 6 点を除く）、底部 1/2 以上残存数 1 点、図化した 16 点のうち全体像が分かるのは 1 点のみである。

胎土は小石をわずかに含むものもあるが全体的には緻密である。外面全体に灰釉が薄く刷毛塗りされ、釉の流れた痕跡が外面全体と内面一部にみられる。焼け歪みや破面に釉の付着した破片が多くきれいに接合できなかった。これは内面または外面に陶丸が付着するもの（299、302）があることから、陶丸焼成時に破片を容器として利用したためだと考える。粘土紐輪積み成形で、内面に横ナデや指圧痕がみられる。特に指圧痕は頸部と肩部の接合部分に顕著にみられる。また胴部内面にヘラによる描き上げ痕がみられるもの（247）がある。底部外面には高台が付き、胴部外面下方には回転ヘラ削り調整がみられる。

頸部の形状は下方から口縁部に向かって外傾する。口縁部は玉縁状をしており、折り曲げた先が内側に閉じるもの（246、250）と外側に開くものに分かれる。外側に開くものは 1 回だけ折り曲げたもの（245、249、251）とさらに内側に折り曲げたもの（248、252）に分かれる。肩部には耳が 4 ヶ所付いている。耳は 3 ～ 5 本の小突線を施した紐状粘土を貼付けており、小突線は貼付け前に施している。耳をはさんで上下に櫛描きによる平行沈線が巡る（245、254 ～ 258）が、平行沈線がないもの（246、247）も存在する。沈線の数は 4 ・ 5 本のものが多い。上下で本数が違っているものが多く規則性はあまりない。

b　瓶子（図 26 ～ 28　259 ～ 271　写真図版 10、14）

総破片数 181 点、総重量 4263g（焼台が付着した 89 点を除く）、底部 1/2 以上残存数 3 点、頸部が残るのは 1 点のみ（259）で口縁部が出土しなかったため全体像が分かるものはない。胴部下方がくびれる締腰形（260 ～ 266）と直線的な梅瓶形（267 ～ 270）の 2 種類に分類できる。すべて平底で、肩部から胴部上方にかけて平行沈線が 2 条巡る。胎土、釉調、成形技法などは四耳壺と同様である。肩部に山茶碗の口縁部が付着したもの（261）や、底部外面に青灰色をした焼台が付着したもの（260、261、263、268）が出土しており、山茶碗焼成時の二次利用が考えられる。

c　水注（図 28　277 ～ 281　写真図版 11）

総破片数 10 点、総重量 226g、底部 1/2 以上残存数 0 点、口縁部 1 点、注口部 2 点、把手部 3 点を数える。胎土、釉調、成形技法などは四耳壺と同様である。口縁部の出土は 277 のみであるが、

頸部から口縁部に向かって外傾する。278 は注口部上方に 4 本の平行沈線が 1 条巡る。注口部と胴部との接合部分に指圧痕がみられ、穴は外から内に向かって開けられていることが確認できる。把手の外面には小突線が数本等間隔に配され、内面に胴部との接合痕がみられるもの（281）もある。

d　卸皿（図 28　272 ～ 275　写真図版 12）

総破片数 54 点、総重量 806g、底部 1/2 以上残存数 3 点を数える。図化した 4 点の法量は、器高 3.5 ～ 3.8cm、口径 13.1 ～ 14.6cm、底径 6.6 ～ 8.1cm を測る。胎土は小石をわずかに含むものもあるが全体的に緻密である。底部外面を除き灰釉が薄く刷毛塗りされている。底部外面はわずかに突出し、糸切り痕がみられる。体部内面は底部内面との境が角張り直線的に開く。底部内面から体部内面下方にかけて卸目がみられるが、団子トチの付着した痕跡がみられるもの（272、273、275）もあり、焼成は団子トチを使用した重ね焼きである。体部外面から口縁部にかけてわずかに内湾する。口縁部は四角く仕上げ頂部の中央が凹むもの（272、274、275）と、内側に若干折れ頂部の中央が凹むもの（273）と、丸く仕上げ頂部の中央が凹まないものの 3 つに分かれる。さらに 274、275 には口縁端部を指でつまんで作られた片口がみられる。

e　灰釉皿（図 28　276　写真図版 12）

1 点のみ出土した。底部内面に卸目がみられず、中央に指ナデ痕がみられる以外は、卸皿と同様である。口縁部は内側に若干折れ頂部の中央が凹む。団子トチの付着した痕跡がみられず、内面に降灰による付着物がみられることから、卸皿焼成時に蓋の役割も兼ねて最上段に置かれたと思われる。

（3）窯道具

窯道具は製品を窯体で焼成する際に使用する道具であり、馬爪焼台、分焔棒、団子トチ、蓋が出土している。

a　馬爪焼台（図 29、30　283 ～ 293、写真図版 13）

窖窯の床は傾斜しているため製品を整然と並べ焼成するのには困難が伴う。そこで馬爪焼台（以下焼台と略す）と呼ばれる粘土塊を焼成室の床に規則正しく貼り付け、その上に製品を乗せて焼成した。

焼台は色調から青灰色と赤褐色の 2 種類に分けられる。色の相違は焼成方法の相違によるものといわれ、青灰色のものは還元炎焼成によるもので山茶碗焼成時に、赤褐色のものは酸化炎焼成によるもので古瀬戸焼成時に使用されたと考えられている。

焼台は窯道具であり製品ではない、窯跡から大量に出土する、非常に脆く完形で出土することが少ないなどの理由から、従来は十分に調査されることなく現地で処分されることが多かった。しかし近年、焼台の持つさまざまな情報に注目するようになり、数量や重量を計測した後に廃棄されることが多くなってきた。

本遺跡は調査に入るまでは山茶碗専焼窯と考えられていたが、調査に入るため樹木を伐採したところ古瀬戸が表採され、古瀬戸併焼窯の可能性が高くなった。そこで山茶碗焼成時に使用された青灰色焼台は 1/2 以上残存するものを、古瀬戸焼成時に使用された赤褐色焼台はすべて持ち帰ることにした。しかし、SX001・002・019 から大量の青灰色焼台が出土したため、これらの遺構から出土した焼台は完形ないし完形に近いものだけを持ち帰ることとし、その代わり現地ですべての焼台の数量と重量を計測した。

青灰色焼台は 1/2 以上残存数 260 点を数え、そのうちの 53.8％にあたる 140 点が SX001・002 からの出土である。大きさや上面に見られる遺物痕などから､ほとんどが山茶碗焼成用の焼台である。小皿焼成用の小型の焼台は出土しておらず、小皿は出土量から考えても、山茶碗の上に重ねて焼成したと思われる。他には、瓶子が溶着した青灰色焼台（写真図版 14　260）が出土しているが、肩部に山茶碗の口縁が溶着した瓶子（写真図版 10　261）が出土しており、山茶碗との同時焼成ではなく二次利用である。

赤褐色焼台は 1/2 以上残存するものは 8 点のみで、古瀬戸の出土量から考えても、焼成回数は 1 回程度と思われる。赤褐色焼台はさらに、糸切り痕を持つ平底の遺物痕が残るもの（284）、敷かれた砂利やその痕跡とその上に平底の遺物痕が残るもの（283）、平底の小型製品の遺物痕が残るもの（285）に分かれる。おそらく 284 は卸皿を、283 は瓶子や水注などの平底の大型製品を乗せたものであろう。

表１９　青灰色焼台個体数表

1/2 以上残存数	硬さ				角度°				
	非硬	硬	軟	非軟	10 ～	20 ～	30 ～	40 ～	不明
145	10	84	39	12	24	72	29	6	14

遺物痕半径 cm				焼台直径 cm						
～ 2.7	2.8 ～ 3.2	3.3 ～ 3.7	不明	10 ～	11 ～	12 ～	13 ～	14 ～	15 ～	不明
2	100	28	15	1	22	61	34	14	1	12

SX001、002、019 の一部を除く

硬さ分類の基準

非硬：　表面は遺物痕を除き灰の溶着が激しく、遺物が付着する場合がある（山茶碗高台は別）、中心まで硬く焼けている

硬：　表面は遺物痕を除き灰の溶着があり硬く焼けているが、中心は硬く焼けていない。

軟：　表面に灰の溶着がなく、全体的に「硬」より焼きが甘い。

非軟：　全体的に焼きが甘く、生焼け状態である。

表２０　主要遺構出土青灰色焼台個体数表

遺構番号	平場	グリッド	破片数	重量 kg	完形数	1/2 以上残存数	1/4 以上残存数	備考
SX001	4	1D19q	2205	389.2	5	112	312	
SX002	4	1D19q20q	592	113.5	7	28	93	
SX019	6	1D19r	173	20	0	6	15	赤褐色焼台片 5 分焔棒片 5

数量、重量とも発掘現場での計測値であるため、持ち帰り後の計測結果とは若干の相違がある。

表２１　赤褐色焼台個体数表

総破片数	硬さ				角度°				
	非硬	硬	軟	非軟	10 ～	20 ～	30 ～	40 ～	不明
94	11	81	2	0	9	6	4	1	74

遺物痕半径 cm					焼台直径 cm					
～ 3.4	3.5 ～	4 ～	4.5 ～	不明	～ 10	11 ～	12 ～	13 ～	14 ～	不明
1	11	4	7	71	1	2	1	0	2	88

ｂ　分焔棒（図 30　294　写真図版 14）

焼成時に炎の調整のため分焔柱付近に置かれたと考えられているものである。焼台と同質の粘土を使用し先端が緩やかに尖った円筒形をしたもの（294）と、溶着した焼台や山茶碗の重なりを利用したもの（308）に分けられる。ともに自然釉が厚くかかる。294 は胎土が赤褐色をしており古瀬戸焼成時に、308 は繋ぎに使用している粘土の胎土が青灰色をしており、山茶碗焼成時に使用したものである。

ｃ　団子トチ（図 29　282　写真図版 12）

卸皿を重ね焼きするために使用したものである。１点のみ出土した。直径約 2.3cm、高さ約 0.9cm を測る。手づくねにより成形され上下が押圧により平らになっている。上面には卸皿底部の糸切り痕が明瞭に残る。下面には直径 1 mm 程の砂利が多数埋め込まれているが、これらは釉着防止のために付けられたものと思われる。卸皿の卸目に残る剥離痕から卸皿と卸皿の間に団子トチを 4 個置いて使用したことがわかる。

なお確実な団子トチの使用は古瀬戸前Ⅳ期からと考えられており、今回出土した団子トチは初期の使用例といえる。

ｄ　蓋

出土した無釉陶器を焼成具合からＡ～Ｄの４つに分類したが、Ａに分類した山茶碗の中には外面全体に自然釉がかかるものがある。これらは重ね焼きした山茶碗に自然釉がかかるのを防止するため最上段に伏せて置かれたものとも考えられるが、なかには、内面全体に自然釉がかかるものや、内外面ともに自然釉がかかるものもある。また小皿の中にも内面全体に自然釉がかかるものがあり、重ね焼きした山茶碗や小皿の最上段すべてに蓋をしたわけではない。外面に自然釉が掛かる山茶碗の中には内面に陶丸の剥離痕が見られるものがあることから、陶丸の焼成時に蓋として山茶碗を利用していることは確実である。そして内面全体に自然釉が掛かるものは重ね焼きの最上段に置かれたもの、内外面ともに自然釉が掛かるものは重ね焼きの最上段に置かれたものを蓋として再利用したものであろう。

ｅ　その他

山茶碗や古瀬戸の破片の中には陶丸が溶着したものや陶丸の剥離痕が残るものがある。これらは陶丸焼成時に皿や蓋として利用したものであり、これらも広義の窯道具といえよう。

（４）窯壁

窯業遺跡の調査では、窯体の一部（天井・側壁・床など）が破片となって出土する。通常これらは現地で処分し持ち帰ることはない。しかし、本調査では調査区内から窯体が検出されない可能性が考えられたので（実際、窯体は検出されなかった）、窯体に関する少しでも多くの情報を得るため出土した窯壁はすべて持ち帰ることとした。

窯壁の出土破片数は 145 点でその重量は 14460g を量る。なかでも、SX001 からは破片数 27 点、重量 5825 ｇの窯壁が出土しており、重量で全出土量の 40％を占めている。

出土した窯壁はその特徴から、床、天井または側壁、それらの裏側に続く被熱部分に分けられる。

ａ　床（写真図版 14　311）

311 はグリッド 1D19r の表土層から出土した。表面には自然釉が厚くかかり硬く焼け締まる。多少の凹凸はあるが全体的に滑らかである。釉は灰白色をし、断面に気泡痕が多数見られることから、焼成時にかなりの高温が出た場所のものであろう。裏面には砂利や青灰色をした焼台の細片が多数付着しているが剥離しやすい。また、断面を観察すると硬化面を３面確認することができ、この窯体で３回以上の焼成が行われたことがわかる。

SX001 下層から出土した窯壁の中には、裏面に山茶碗片が付着したものや硬化面が確実に２面あるもの（３面目不明瞭）が存在することから、焼台集積遺構である SX001 は最初の焼成時に形成されたものではないことがわかる。

ｂ　天井または側壁

グリッド 1D19r の平場造成層下焼台層（SX002 か）から出土した。

砂利混じりの粘土が青灰色に硬く焼け締まり、表面には明青灰色の自然釉が薄くかかり凹凸が激しい。床との違いは明確だが、天井と側壁の区別は判然としない。色調から山茶碗焼成時のものであろう。なお、天井または側壁の出土量は床と比べると少ない。

ｃ　裏面に続く被熱部分（写真図版 14　312）

SX001 下層から出土した被熱により変色した土塊である。窯体に近い方から、青灰色、明青灰色、橙色、赤褐色と変色している。青灰色部分は多少硬化しているが、それ以外の硬化はほとんどない。色調から山茶碗焼成時のものであろう。

表２２　主要遺構出土窯壁個体数表

遺構	平場	グリッド	破片数	重量ｇ
SX001	4	1D19q	27	5825
SX002	4	1D19q20q	17	600
SX019	6	1D19r	12	645

左　整理作業風景（遺物接合）

右　整理作業風景（遺物実測）

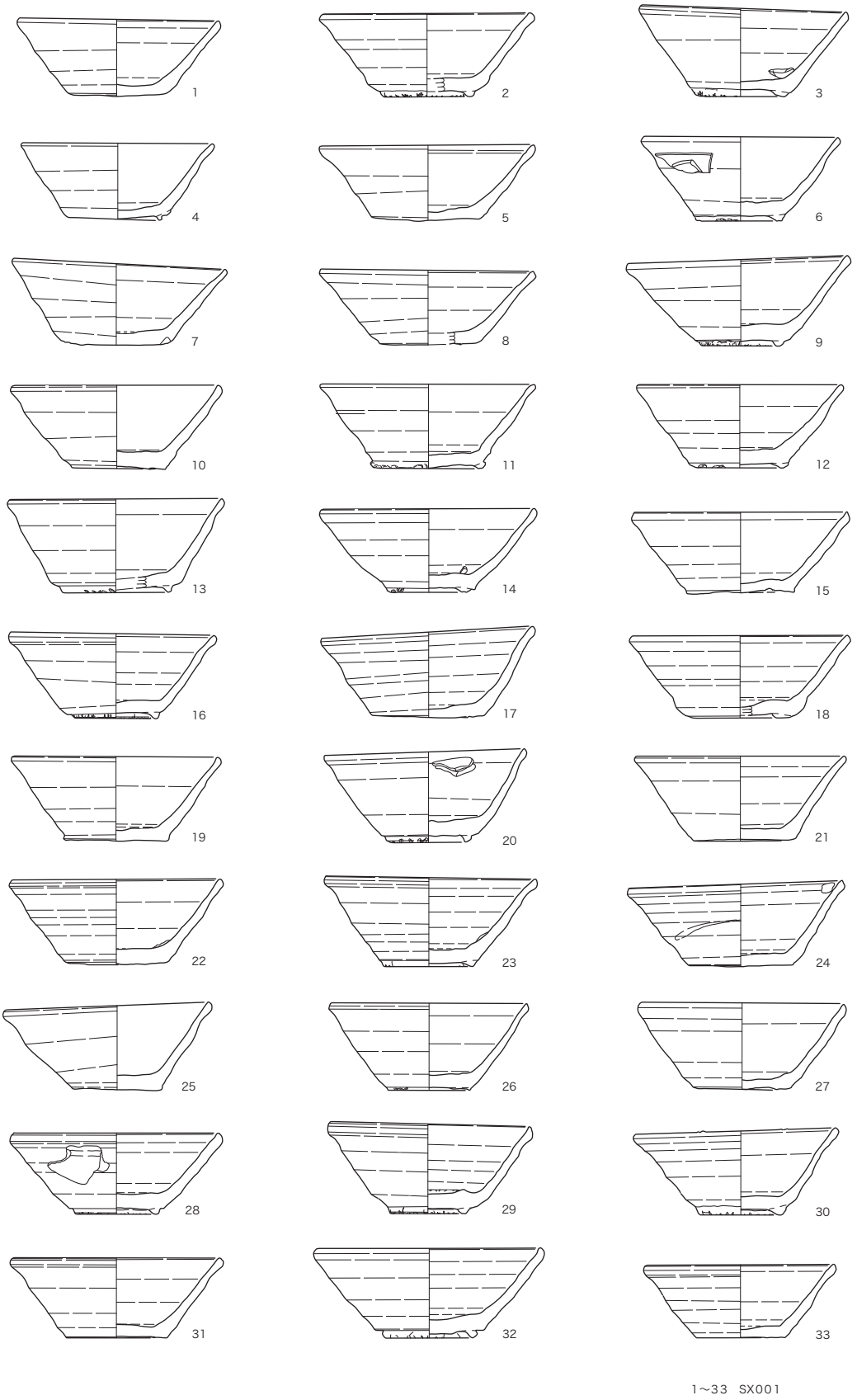


図19　出土遺物実測図(山茶碗)(S＝1／4)

0　10cm

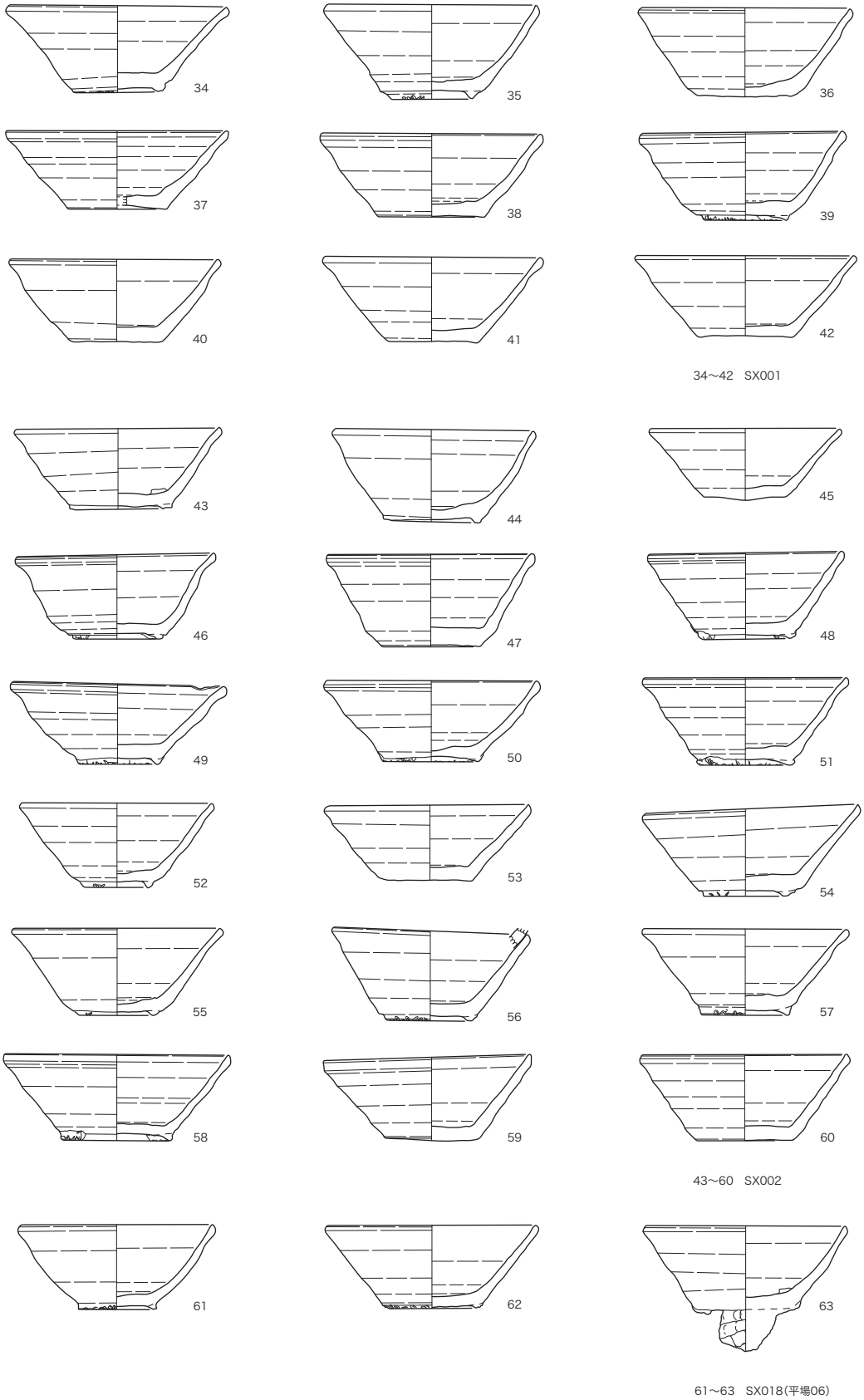


図20　出土遺物実測図(山茶碗)(S＝1／4)

0　10cm

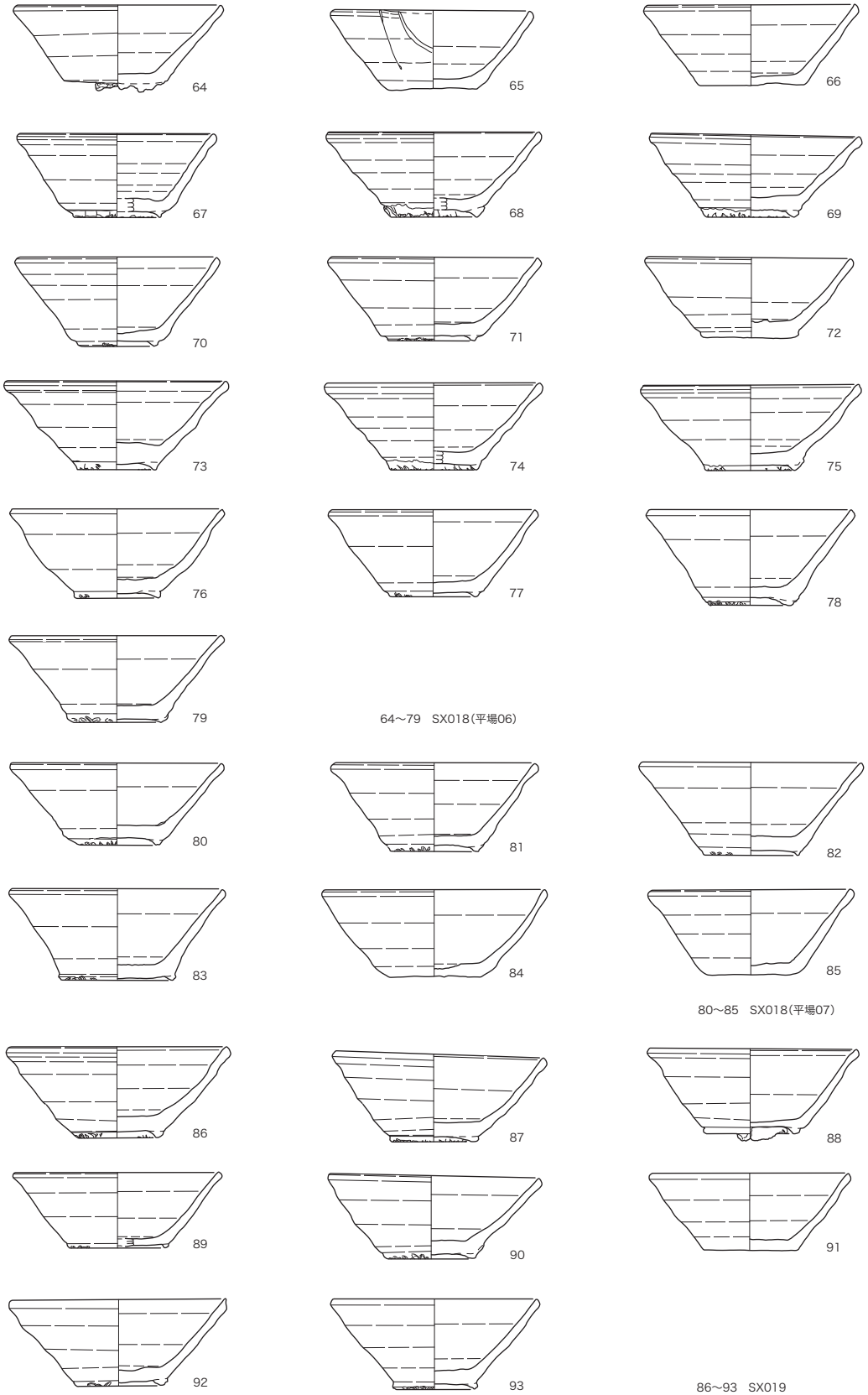


図21　出土遺物実測図(山茶碗)(S＝1／4)

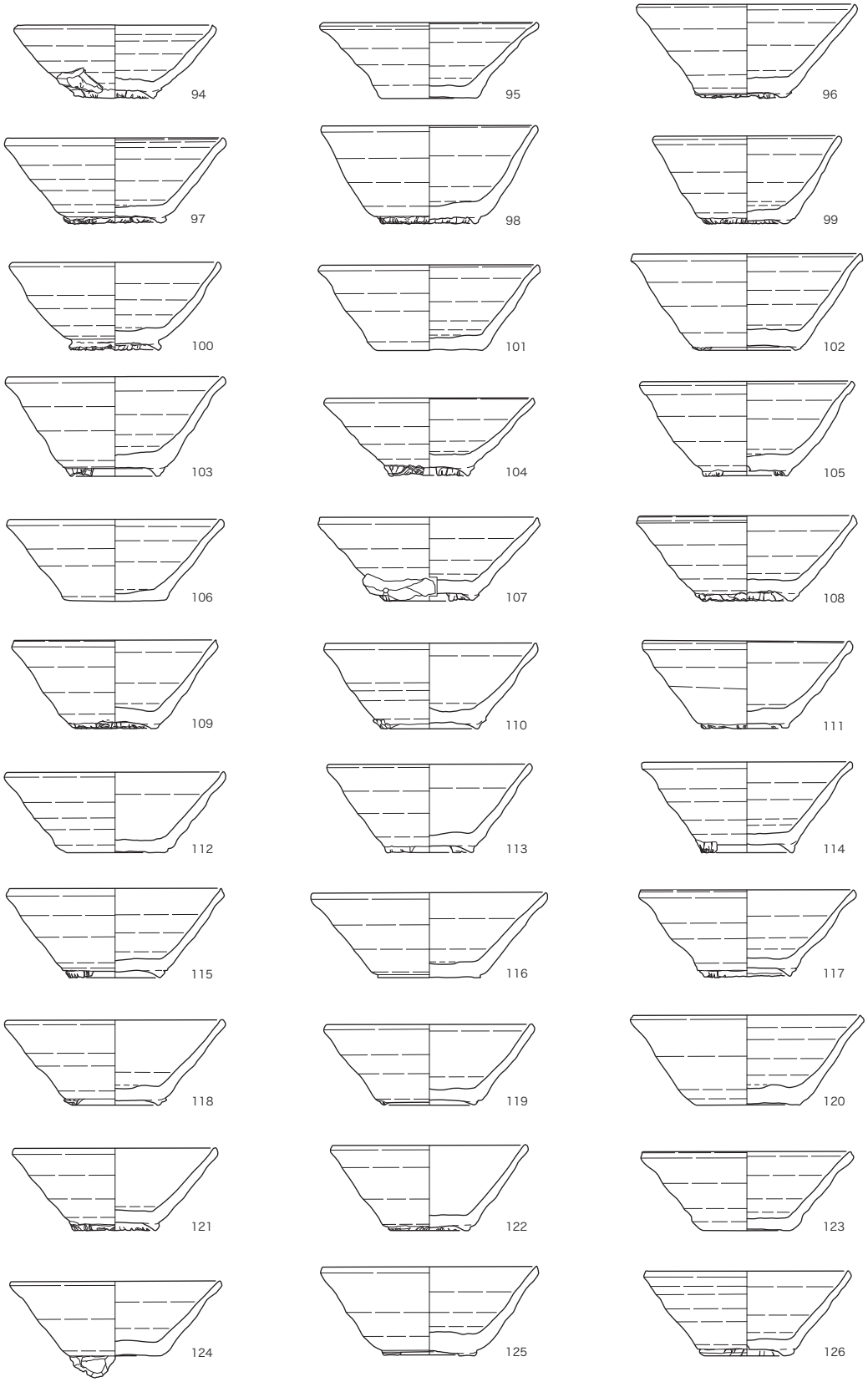


図２２　出土遺物実測図（山茶碗）（Ｓ＝１／４）

0　10cm

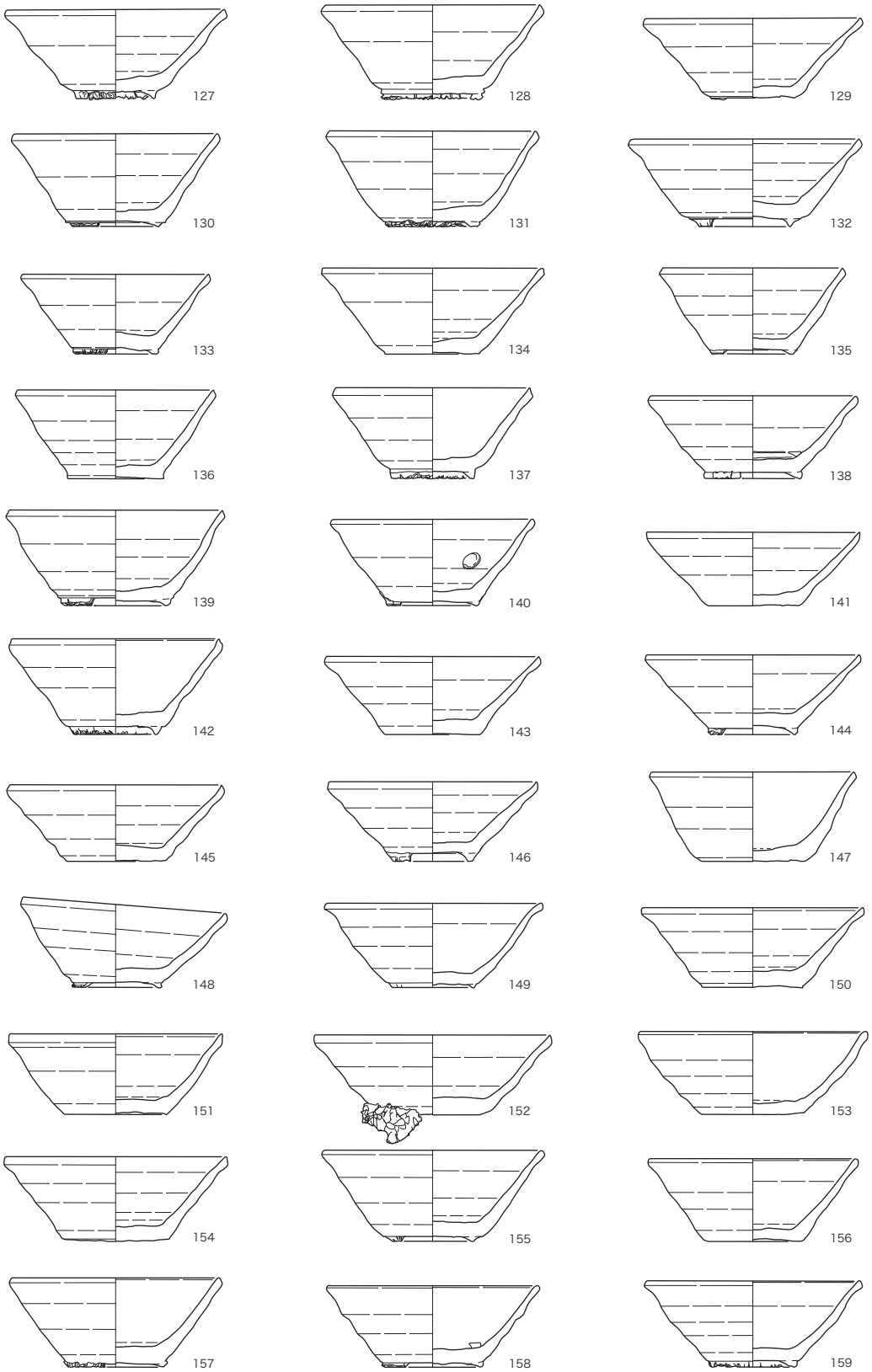


図２３　出土遺物実測図（山茶碗）（Ｓ＝１／４）

0　10cm

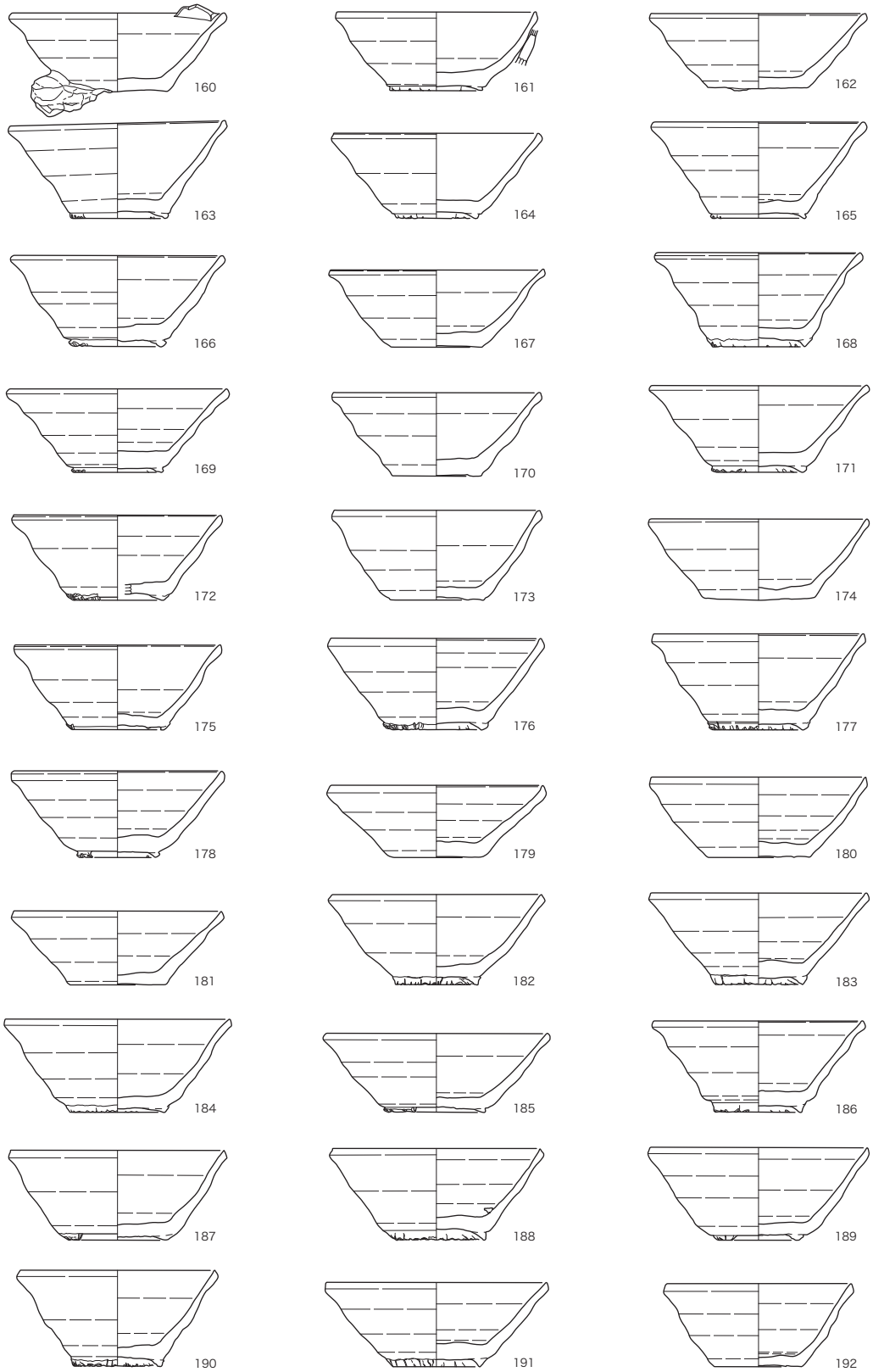


図２４　出土遺物実測図（山茶碗）（Ｓ＝１／４）

0　10cm

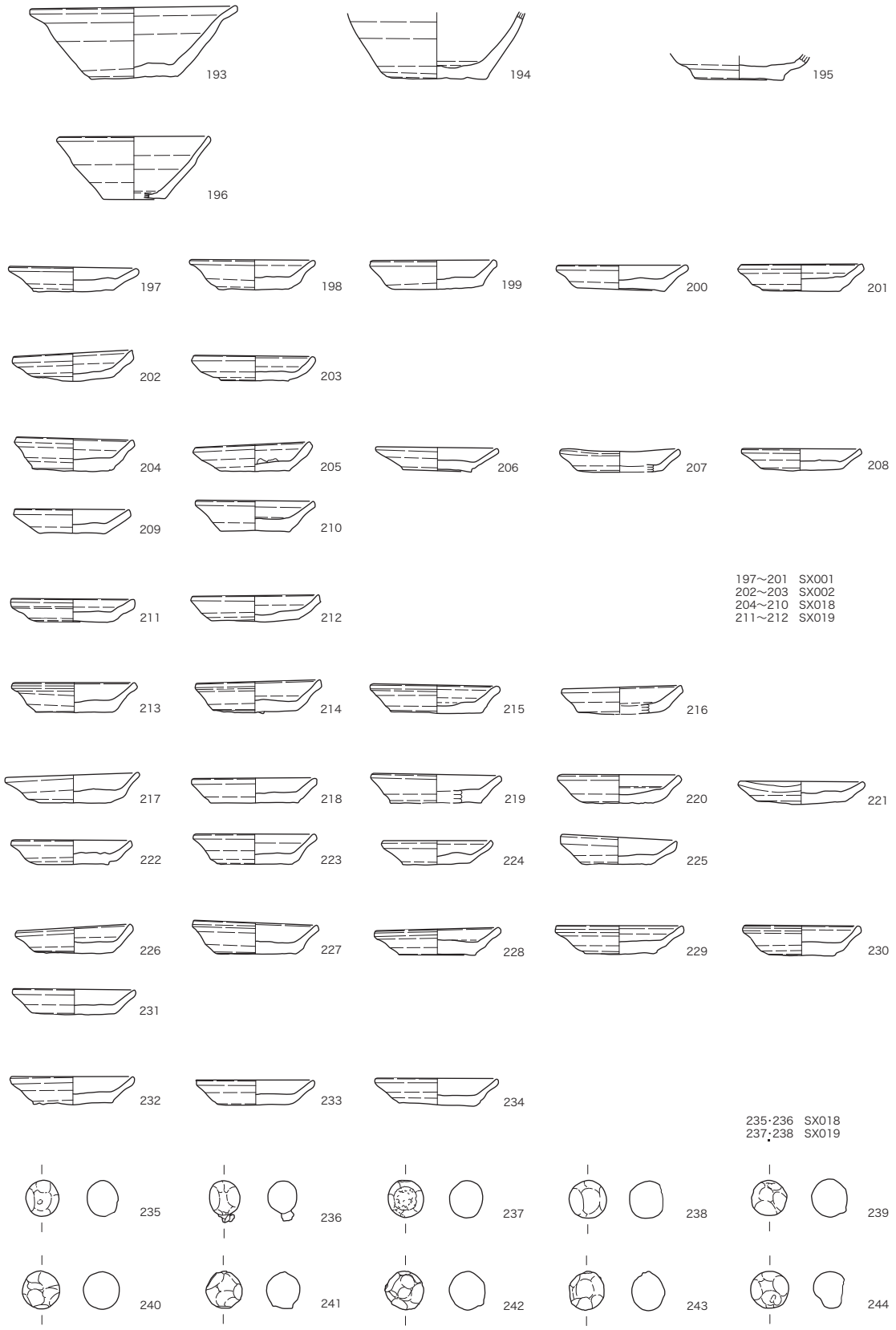


図２５　出土遺物実測図（山茶碗・小碗・小皿・陶丸）（Ｓ＝１／４）

0　10cm

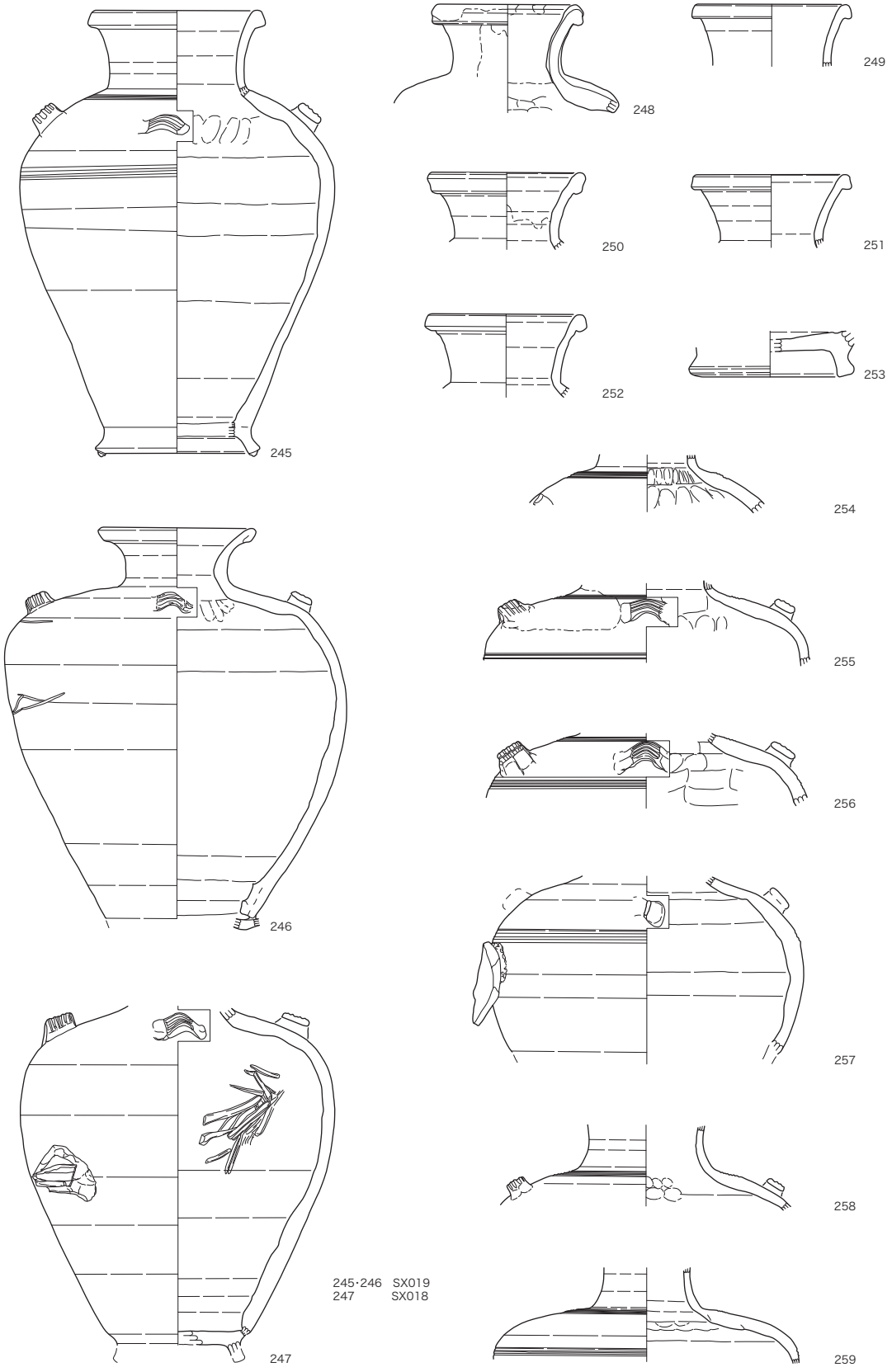


図26　出土遺物実測図(四耳壺・瓶子)(S＝1／4)

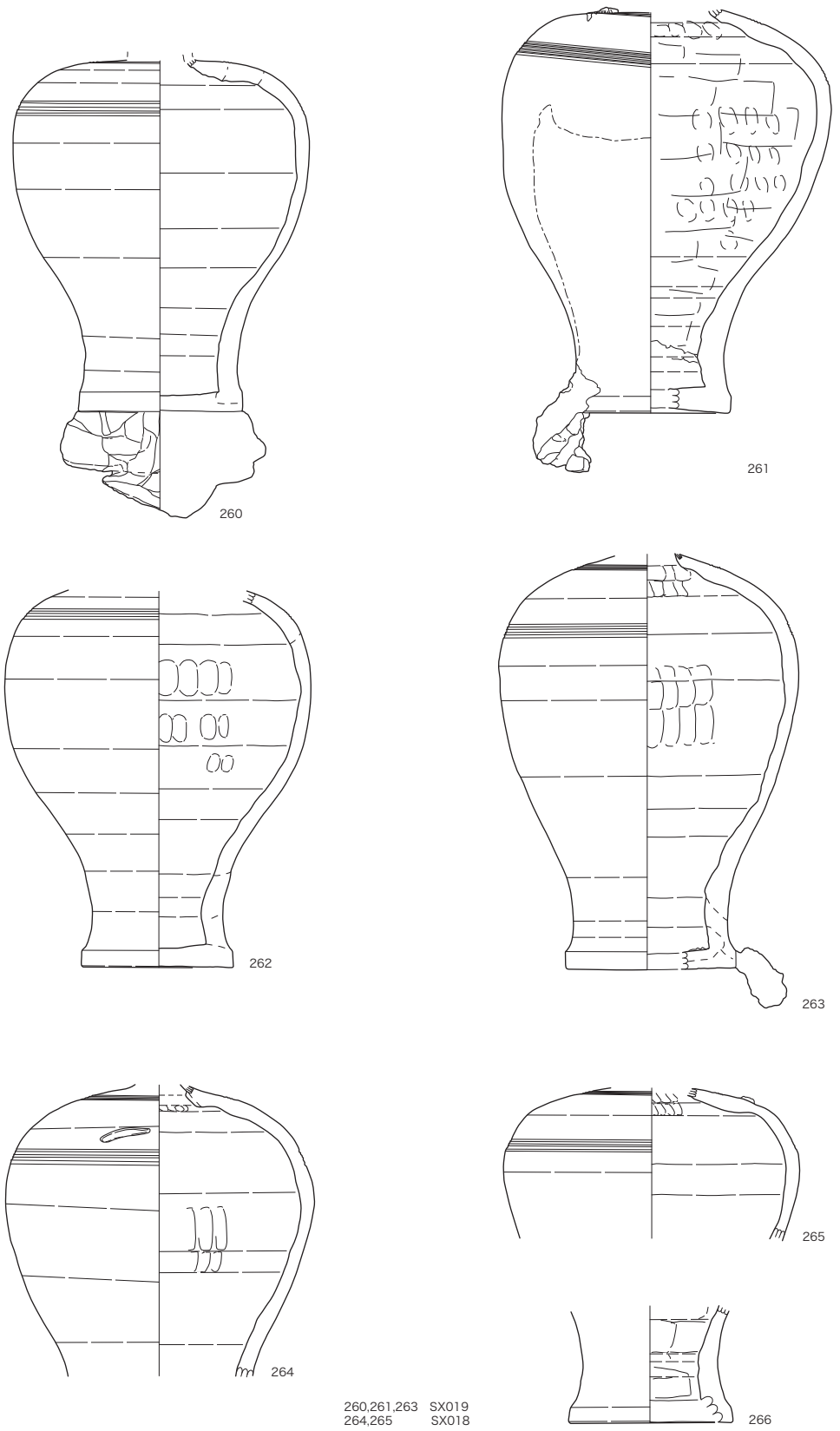


図27　出土遺物実測図(瓶子)(S＝1／4)

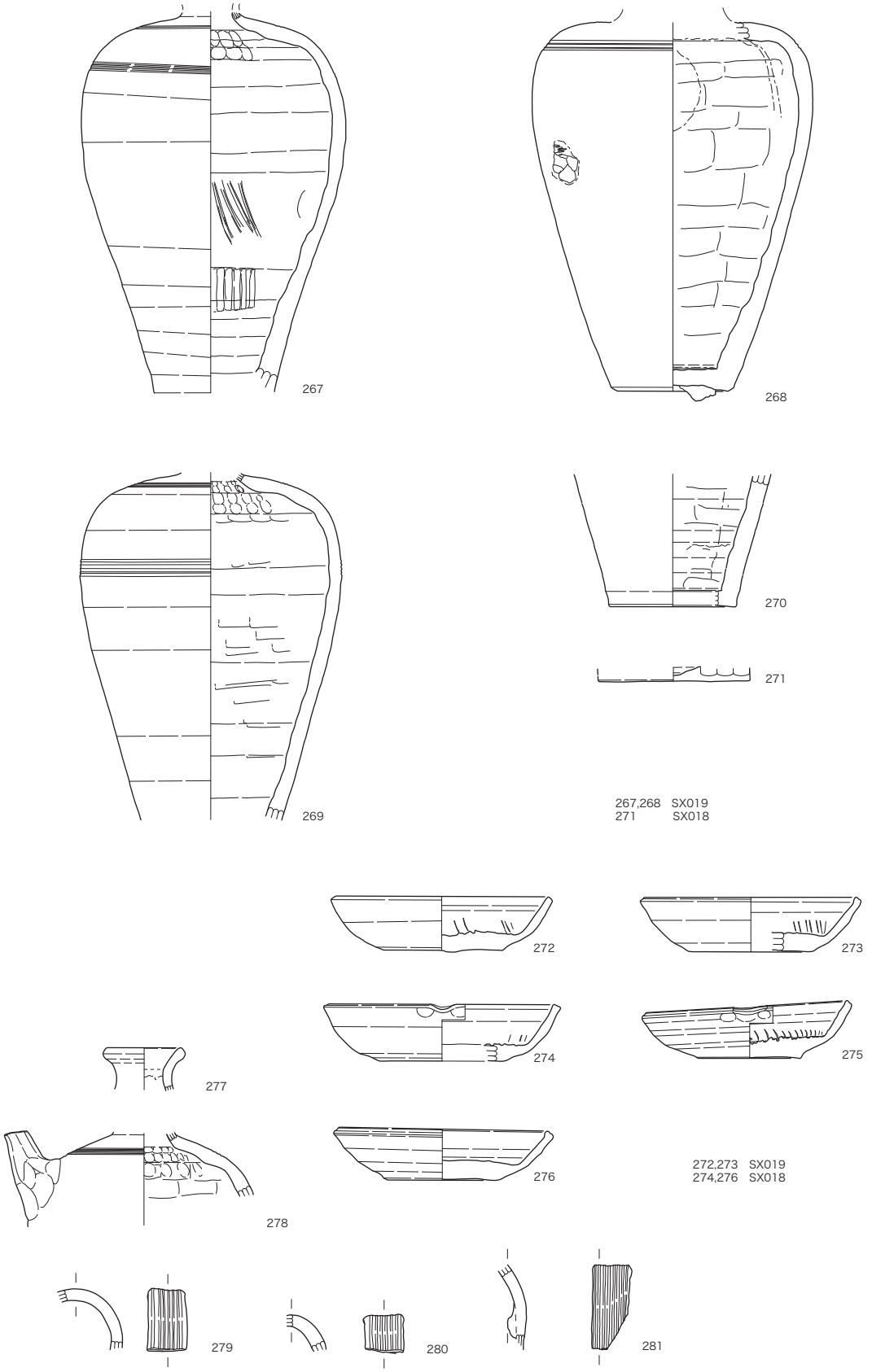


図28　出土遺物実測図（瓶子・卸皿・水注）（S＝1／4）

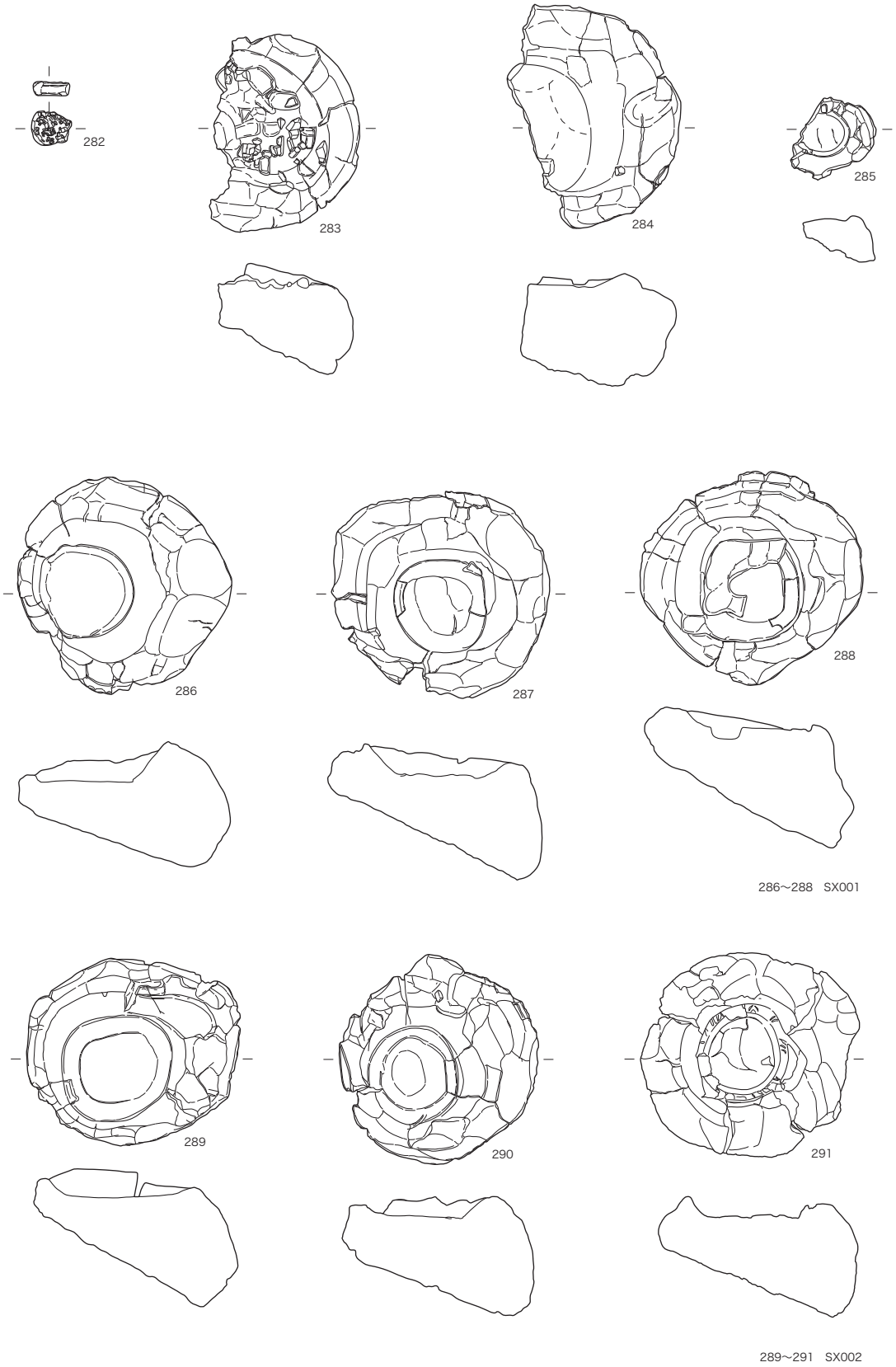


図29　出土遺物実測図（団子トチ・焼台）（S＝1／4）

0　10cm

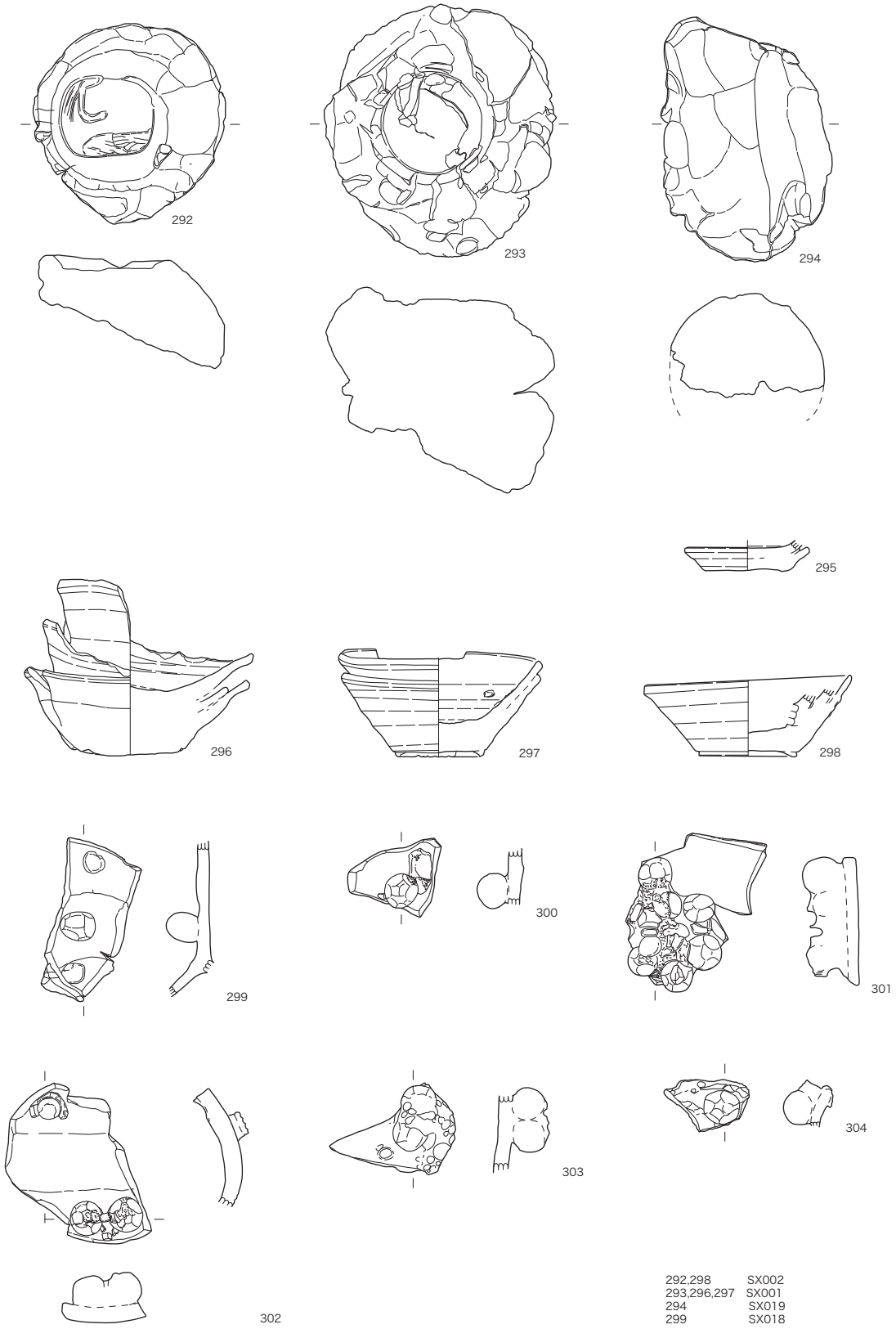


図30　出土遺物実測図(焼台・溶着)(S＝1／4)

表２３　遺物観察表

遺物	種類		出土地点		法量（cm）			口縁部残存	焼成	登録
番号	器種	分類	グリッド	遺構・層位	器高	口径	底径	率　／１２		番号
1	山茶碗		1D19q	SX001	5.1	12.7	6.2	6	A	E-1
2	山茶碗		1D19q	SX001	5.4	13.2	5.6	4	A	E-2
3	山茶碗		1D19q	SX001	5.9	13.1	5.6	6	A	E-3
4	山茶碗		1D19q	SX001	4.9	12.2	6	4	A	E-4
5	山茶碗		1D19q	SX001	4.8	13.6	6.9	3	A	E-5
6	山茶碗		1D19q	SX001	5	12.4	5.8	4	A	E-6
7	山茶碗		1D19q	SX001	5.6	13.6	6.6	5	A	E-7
8	山茶碗		1D19q	SX001	4.9	13.6	6.2	5	A	E-8
9	山茶碗		1D19q	SX001	5.8	14	5	3	A	E-9
10	山茶碗		1D19q	SX001	5.2	13.1	6	7	A	E-10
11	山茶碗		1D19q	SX001	5.4	13.5	6.5	3	B	E-11
12	山茶碗		1D19q	SX001	5.3	13	5.6	3	B	E-12
13	山茶碗		1D19q	SX001	6	13.6	6.6	4	A	E-13
14	山茶碗		1D19q	SX001	5.4	13.4	4.8	3	A	E-14
15	山茶碗		1D19q	SX001	5.2	13.6	6.9	3	B	E-15
16	山茶碗		1D19q	SX001	5.5	13	5.2	8	B	E-16
17	山茶碗		1D19q	SX001	5.9	13.5	7.1	7	B	E-17
18	山茶碗		1D19q	SX001	5.3	13.8	6.8	4	B	E-18
19	山茶碗		1D19q	SX001	5.4	13	6.5	5	B	E-19
20	山茶碗		1D19q	SX001	5.8	12.8	4.4	4	A	E-20
21	山茶碗		1D19q	SX001	5.5	13.2	6.4	2	B	E-21
22	山茶碗		1D19q	SX001	5.5	13.3	6.6	6	B	E-22
23	山茶碗		1D19q	SX001	5.6	13.4	5.7	1	B	E-23
24	山茶碗		1D19q	SX001	5.5	13.6	6.6	5	B	E-24
25	山茶碗		1D19q	SX001	5.4	13	5.8	2	B	E-25
26	山茶碗		1D19q	SX001	5.6	12.5	5.2	5	B	E-26
27	山茶碗		1D19q	SX001	5.5	12.9	6	4	B	E-27
28	山茶碗		1D19q	SX001	5.3	13.2	5.2	5	B	E-28
29	山茶碗		1D19q	SX001	5.6	12.8	4.8	5	B	E-29
30	山茶碗		1D19q	SX001	5.6	12.8	5.2	4	B	E-30
31	山茶碗		1D19q	SX001	5.2	13.2	6.4	4	C	E-31
32	山茶碗		1D19q	SX001	5.8	14.2	5.6	3	C	E-32
33	山茶碗		1D19q	SX001	4.7	12	5.6	1	C	E-33
34	山茶碗		1D19q	SX001	5.6	13.8	5.4	4	C	E-34
35	山茶碗		1D19q	SX001	6	13.2	5.2	4	C	E-35
36	山茶碗		1D19q	SX001	5.7	13.2	5.9	4	C	E-36
37	山茶碗		1D19q	SX001	5	14	6.2	2	C	E-37
38	山茶碗		1D19q	SX001	5.3	13.9	6.8	1	C	E-38
39	山茶碗		1D19q	SX001	5.7	13.2	5.2	3	C	E-39
40	山茶碗		1D19q	SX001	5.3	13.1	5.8	2	D	E-40
41	山茶碗		1D19q	SX001	5.4	13.6	5.8	1	D	E-41
42	山茶碗		1D19q	SX001	5.1	13.6	5.8	2	D	E-42
43	山茶碗		1D19q	SX002	5.1	12.9	5.5	11	A	E-43
44	山茶碗		1D19q	SX002	5.9	12.6	6.3	6	A	E-44
45	山茶碗		1D19q	SX002	4.1	11.9	5.3	5	A	E-45
46	山茶碗		1D19q	SX002	5.5	12.4	5.4	3	A	E-46
47	山茶碗		1D19q	SX002	5.9	13	6.2	1	A	E-47
48	山茶碗		1D19q	SX002	4.5	12.2	5.4	1	A	E-48
49	山茶碗		1D20q	SX002	5	12.4	5	3	A	E-49
50	山茶碗		1D19q	SX002	5.2	13.3	6.1	7	B	E-50
51	山茶碗		1D19q	SX002	5.6	12.8	5.8	5	B	E-51
52	山茶碗		1D19q	SX002	5.4	12	4.5	2	B	E-52
53	山茶碗		1D19q	SX002	4.8	12.6	5.8	5	B	E-53
54	山茶碗		1D19q	SX002	5.5	13.6	5	7	B	E-54
55	山茶碗		1D19q	SX002	5.6	13	4.8	6	B	E-55

遺物	種類		出土地点		法量（cm）			口縁部残存	焼成	登録
番号	器種	分類	グリッド	遺構・層位	器高	口径	底径	率　／１２		番号
56	山茶碗		1D20q	SX002	5.8	12.3	5.5	12	B	E-56
57	山茶碗		1D20q	SX002	5.5	12.8	5.4	1	B	E-57
58	山茶碗		1D20q	SX002	5.5	14.2	6.8	4	B	E-58
59	山茶碗		1D20q	SX002	5.6	13.1	6	5	C	E-59
60	山茶碗		1D20q	SX002	5.5	13	6.1	3	C	E-60
61	山茶碗		1D19r	SX018	5.4	12.1	5	3	A	E-61
62	山茶碗		1D19r	SX018	5.3	13.2	5.5	4	A	E-62
63	山茶碗		1D19r	SX018	5.4	12.6	6.8	7	A	E-63
64	山茶碗		1D19r	SX018	5.2	12.8	6.3	1	A	E-64
65	山茶碗		1D19r	SX018	5	12.2	5.7	4	A	E-65
66	山茶碗		1D20r	SX018	5.1	13	6.5	3	A	E-66
67	山茶碗		1D18r	SX018	5.3	12.2	5.4	1	B	E-67
68	山茶碗		1D18r	SX018	5.4	13.3	5.4	3	B	E-68
69	山茶碗		1D19r	SX018	5.2	13	5.4	2	B	E-69
70	山茶碗		1D19r	SX018	5.6	12.4	4.6	1	B	E-70
71	山茶碗		1D19r	SX018	5.3	12.8	5.5	3	B	E-71
72	山茶碗		1D19r	SX018	5	12.7	6	5	C	E-72
73	山茶碗		1D19r	SX018	5.6	13.8	5	1	C	E-73
74	山茶碗		1D19r	SX018	5.5	13.4	5.4	1	C	E-74
75	山茶碗		1D19r	SX018	5.4	13.5	5.6	3	C	E-75
76	山茶碗		1D19r	SX018	5.6	13.2	5.4	2	C	E-76
77	山茶碗		1D18r	SX018	5.5	12.7	5.4	4	D	E-77
78	山茶碗		1D18r	SX018	6	12.6	5.2	2	D	E-78
79	山茶碗		1D18r	SX018	5.4	13.2	5.5	1	D	E-79
80	山茶碗		1D16r	SX018	5.2	13.1	4.8	2	B	E-80
81	山茶碗		1D16r	SX018	5.5	12.5	5.5	7	B	E-81
82	山茶碗		1D16r	SX018	5.8	13.7	5.8	4	B	E-82
83	山茶碗		1D16r	SX018	5.7	13.3	6.8	1	C	E-83
84	山茶碗		1D16r	SX018	5.5	13.7	5.8	3	D	E-84
85	山茶碗		1D16r	SX018	5.4	12.4	5.8	3	D	E-85
86	山茶碗		1D19r	SX019	5.7	13.6	5	5	A	E-86
87	山茶碗		1D19r	SX019	4.9	13.1	5.4	2	A	E-87
88	山茶碗		1D19r	SX019	5.3	13	5.6	3	A	E-88
89	山茶碗		1D19r	SX019	4.8	12.8	6	6	A	E-89
90	山茶碗		1D19r	SX019	5.3	13.1	5	5	B	E-90
91	山茶碗		1D19r	SX019	4.9	12.3	5.8	2	B	E-91
92	山茶碗		1D19r	SX019	5.5	13.5	5.5	8	C	E-92
93	山茶碗		1D19r	SX019	5.8	12.8	5	1	C	E-93
94	山茶碗		2D1r	平場造成	4.7	12.3	4.8	3	B	E-94
95	山茶碗		1D20q	表土	4.8	13.6	6.2	2	A	E-95
96	山茶碗		1D20q	表土	6.4	14	5.6	3	C	E-96
97	山茶碗		1 D18q	西壁 21	5.4	13.8	6	5	C	E-97
98	山茶碗		1D19q	平場造成	6.2	13.2	5.8	2	A	E-98
99	山茶碗		1D19q	表土	5.6	11.6	5.2	1	A	E-99
100	山茶碗		1D19q	表土	5.6	13	5.5	2	B	E-100
101	山茶碗		1D19q	平場造成	5.4	13.6	6.6	3	C	E-101
102	山茶碗		1D19q	平場造成	6.1	14.4	6.2	3	C	E-102
103	山茶碗		1D19r	表土	6.3	13.6	5.8	2	A	E-103
104	山茶碗		1D19r	表土	4.9	13	5	2	B	E-104
105	山茶碗		1D20q	表土	6	13.4	5.2	2	A	E-105
106	山茶碗		1D20r	表土	5.2	13.4	6.4	3	B	E-106
107	山茶碗		平場 04 端部	褐色土	5.3	13.8	5.5	8	A	E-107
108	山茶碗		平場 04 端部		5.4	13.4	5.6	2	B	E-108
109	山茶碗		1D18q	表土	5.6	12.8	5	2	C	E-109
110	山茶碗		1D19r	平場造成	5.4	13.3	6	8	C	E-110

遺物番号	種類		出土地点		法量（cm）			口縁部残存率 ／１２	焼成	登録番号
	器種	分類	グリッド	遺構・層位	器高	口径	底径			
111	山茶碗		1D19r	表土	5.6	13	5.2	8	C	E-111
112	山茶碗		1D18q	検出	5.1	13.8	6.3	4	A	E-112
113	山茶碗		1D18q	表土	5.6	12.8	5.4	2	B	E-113
114	山茶碗		1D18q	表土	5.7	13	5.7	2	B	E-114
115	山茶碗		1D18q	表土	5.6	13.4	5.8	8	B	E-115
116	山茶碗		1D18q	表土	5.4	14.8	6.5	2	B	E-116
117	山茶碗		1D18q	検出	5.4	13.5	5.4	1	B	E-117
118	山茶碗		1D18q	表土	5.4	13.8	5.5	4	C	E-118
119	山茶碗		1D18q	表土	5.1	13	5.6	3	C	E-119
120	山茶碗		1D18q	表土	5.7	14.4	6.5	4	D	E-120
121	山茶碗		1D18r	平場造成	5.2	12.8	5.2	5	A	E-121
122	山茶碗		1D18r	平場造成	5.4	12.2	5	1	A	E-122
123	山茶碗		1D18r	平場造成	5	13.2	5.5	3	A	E-123
124	山茶碗		1D18r	平場造成	4.7	13.2	5.7	4	A	E-124
125	山茶碗		1D18r	検出	5.4	13.5	6	6	A	E-125
126	山茶碗		1D18r	平場造成	5.3	12.8	4.8	7	B	E-126
127	山茶碗		1D18r	平場造成	5.6	13.6	5	4	B	E-127
128	山茶碗		1D18r	検出	5.9	13.4	6.4	2	B	E-128
129	山茶碗		1D18r	検出	5	12.5	5.2	2	B	E-129
130	山茶碗		1D18r	平場造成	5.8	12.8	5.4	2	C	E-130
131	山茶碗		1D18r	平場造成	6	12.9	5.4	1	C	E-131
132	山茶碗		1D18r	平場造成	5.5	14.2	5.6	2	C	E-132
133	山茶碗		1D18r	検出	5	11.6	5.1	4	C	E-133
134	山茶碗		1D18r	表土	5.4	14.8	6	2	D	E-134
135	山茶碗		1D18r	平場造成	5.4	11.2	5	1	D	E-135
136	山茶碗		1D18r	検出	5.6	12.2	6	1	D	E-136
137	山茶碗		1D19r	検出	5.7	12.2	5.2	2	A	E-137
138	山茶碗		1D19r	検出	5.2	12.8	6	4	A	E-138
139	山茶碗		1D19r	表土	6	13.4	6.2	4	A	E-139
140	山茶碗		1D19r		5.4	12.6	5.6	3	A	E-140
141	山茶碗		1D19r		4.6	13.4	5.8	2	A	E-141
142	山茶碗		1D19r		6	13	5.2	1	A	E-142
143	山茶碗		1D19r		4.9	13.3	6	2	A	E-143
144	山茶碗		1D19r		5	13.2	5.3	1	A	E-144
145	山茶碗		1D19r	検出	4.8	13.3	6.2	4	B	E-145
146	山茶碗		1D19r		5	13	5	3	C	E-146
147	山茶碗		1D19r	検出	5.6	12.6	6.5	1	D	E-147
148	山茶碗		1D19s	平場造成	5.2	12.8	5.5	5	A	E-148
149	山茶碗		1D19s	平場造成	5.3	13.4	5	1	A	E-149
150	山茶碗		1D19s	平場造成	5	13.8	6.2	1	B	E-150
151	山茶碗		1D19s	平場造成	5.1	13.4	6.5	1	C	E-151
152	山茶碗		1D20r	表土	6.8	14.8	6	4	A	E-152
153	山茶碗		1D20s	表土	5.2	17.2	6.4	4	A	E-153
154	山茶碗		1D20s	平場造成	5.3	14.8	6.8	2	A	E-154
155	山茶碗		1D20s	検出	5.7	13.6	5	2	A	E-155
156	山茶碗		1D20s	平場造成	5.2	13	6.2	4	C	E-156
157	山茶碗		1D20s	平場造成	5.4	13	6.1	2	C	E-157
158	山茶碗		平場 06	表土	5.1	13	6.2	2	B	E-158
159	山茶碗		1D17r	表土	5.4	13.4	5.2	1	B	E-159
160	山茶碗		1D17q	褐色土	4.9	13.2	6.2	4	A	E-160
161	山茶碗		1D17q	褐色土	4.9	12.4	5.6	4	A	E-161
162	山茶碗		1D17q	褐色土	4.7	13.4	6.3	5	A	E-162
163	山茶碗		1D17q	褐色土	6.1	13.4	5.9	6	B	E-163
164	山茶碗		1D17q	褐色土	5.3	12.8	5	3	B	E-164
165	山茶碗		1D17q	褐色土	6	13.2	5.8	2	B	E-165

遺物番号	種類 器種	種類 分類	出土地点 グリッド	出土地点 遺構・層位	法量（cm） 器高	法量（cm） 口径	法量（cm） 底径	口縁部残存率 ／１２	焼成	登録番号
166	山茶碗		1D17q	褐色土	5.7	13	5.6	5	B	E-166
167	山茶碗		1D17q	褐色土	4.8	13.4	5.6	4	B	E-167
168	山茶碗		1D17q	褐色土	5.9	12.8	5.8	2	B	E-168
169	山茶碗		1D17q	表土	5.2	13.6	5.6	3	C	E-169
170	山茶碗		1D17r	検出	5.2	12.8	5.6	3	A	E-170
171	山茶碗		1D17r	検出	5.4	13.4	5.6	2	A	E-171
172	山茶碗		1D17r	検出	5.3	13	5.6	4	B	E-172
173	山茶碗		1D17r	検出	5.6	12.8	5.8	5	B	E-173
174	山茶碗		1D17r	検出	5.1	13.6	7	2	B	E-174
175	山茶碗		1D17r	検出	5.3	12.8	5.6	1	B	E-175
176	山茶碗		1D17r	検出	5.7	13.2	5.6	2	C	E-176
177	山茶碗		1D17r	検出	6	13.2	5.6	2	C	E-177
178	山茶碗		1D18r	検出	5.4	13	5	3	B	E-178
179	山茶碗		1D19t	灰黄色土	4.5	13.2	5.8	2	A	E-179
180	山茶碗		1D19t	灰黄色土	5	13.4	10.4	4	B	E-180
181	山茶碗		1D16r	表土	4.6	13	6	1	A	E-181
182	山茶碗		1D16r	表土	5.6	13.2	5.2	5	A	E-182
183	山茶碗		1D16r	表土	5.8	13.5	5.4	3	A	E-183
184	山茶碗		1D16r	表土	5.8	14	6	2	A	E-184
185	山茶碗		1D16r	表土	4.9	13.8	6	3	B	E-185
186	山茶碗		1D16r	表土	5.7	13	5.6	4	B	E-186
187	山茶碗		1D16r	表土	5.6	13.2	6.2	5	B	E-187
188	山茶碗		1D16r	表土	5.7	13	5.4	4	B	E-188
189	山茶碗		1D16r	表土	5.8	13.6	5	3	B	E-189
190	山茶碗		1D16r	表土	6	12.2	5.4	2	B	E-190
191	山茶碗		1D16r	表土	5.3	13.8	5.4	2	B	E-191
192	山茶碗		1D16r	表土	5.2	11.4	5.4	2	C	E-192
193	山茶碗		1D19r	表土	4.6	13.4	5.8	3	A	E-193
194	山茶碗		1D17q	表土	残 4.4		6.3	0	C	E-194
195	山茶碗		1D19q ～ 19t	表土	残 1.6		6	0	C	E-195
196	小碗		1D18r	平場造成	4.2	9.8	4.1	2	B	E-196
197	小皿	Ⅰ	1D19q	SX001	1.6	8.3	5.3	9	B	E-197
198	小皿	Ⅱ	1D19q	SX001	2	8	4.9	10	B	E-198
199	小皿	Ⅰ	1D19q	SX001	1.9	8	6.1	8	C	E-199
200	小皿	Ⅰ	1D19q	SX001	1.6	8.4	5.7	11	C	E-200
201	小皿	Ⅱ	1D19q	SX001	1.8	7.9	5	8	C	E-201
202	小皿	Ⅲ	1D19q	SX002	1.9	7.8	5.4	7	A	E-202
203	小皿	Ⅳ	1D19q	SX002	1.6	7.8	4.4	11	A	E-203
204	小皿	Ⅱ	1D18r	SX018	2.1	7.6	5.4	3	C	E-204
205	小皿	Ⅳ	1D19r	SX018	1.8	7.5	4.6	4	A	E-205
206	小皿	Ⅳ	1D19r	SX018	1.6	8	4.5	2	A	E-206
207	小皿	Ⅱ	1D19r	SX018	1.4	7.8	5.3	5	B	E-207
208	小皿	Ⅱ	1D19r	SX018	1.4	7.7	5.4	2	B	E-208
209	小皿	Ⅲ	1D19r	SX018	1.6	7.4	4.4	6	B	E-209
210	小皿	Ⅱ	1D20s	SX018	1.9	7.7	4.5	10	A	E-210
211	小皿	Ⅲ	1D19r	SX019	1.5	8	4.6	2	A	E-211
212	小皿	Ⅲ	1D19r	SX019	1.7	8.3	5.8	11	B	E-212
213	小皿	Ⅱ	1D19q	平場造成	2	7.9	5	6	A	E-213
214	小皿	Ⅲ	1D19q	表土	2.1	8.1	5.5	11	B	E-214
215	小皿	Ⅰ	1D19q	平場造成	1.9	8.2	5.9	9	C	E-215
216	小皿	Ⅱ	1D20q	表土	1.7	7.8	5.4	4	A	E-216
217	小皿	Ⅱ	1D18q	褐色土	1.8	8.4	4.5	5	B	E-217
218	小皿	Ⅱ	1D18q	表土	1.7	8	5.8	5	C	E-218
219	小皿	Ⅰ	1D18r	表土	1.9	8.3	6.1	6	A	E-219
220	小皿	Ⅱ	1D18r	平場造成	1.9	7.6	5	4	D	E-220

遺物番号	種類		出土地点		法量（cm）			口縁部残存率　／１２	焼成	登録番号
	器種	分類	グリッド	遺構・層位	器高	口径	底径			
221	小皿	Ⅰ	1D19r	検出	1.5	8	5.8	6	C	E-221
222	小皿	Ⅱ	1D19s	平場造成	1.6	7.6	4.8	4	A	E-222
223	小皿	Ⅱ	1D19s	平場造成	2	7.8	4.7	2	B	E-223
224	小皿	Ⅲ	1D19s	平場造成	1.6	7.2	4.5	2	B	E-224
225	小皿	Ⅲ	1D19s	平場造成	1.7	7.6	4.5	9	B	E-225
226	小皿	Ⅱ	1D17q	表土	1.7	7.5	5.1	8	C	E-226
227	小皿	Ⅱ	1D17r	検出	2.1	8.1	5.2	6	A	E-227
228	小皿	Ⅱ	1D17r	表土	1.9	8	5	5	B	E-228
229	小皿	Ⅲ	1D17r	検出	1.9	8.2	4.6	2	B	E-229
230	小皿	Ⅱ	1D17r	検出	2	7.4	4.2	4	C	E-230
231	小皿	Ⅱ	1D17r	検出	1.6	7.9	5.5	5	C	E-231
232	小皿	Ⅰ	1D16r	表土	1.8	7.8	5.5	10	A	E-232
233	小皿	Ⅱ	1D16r	表土	1.6	7.7	4.9	9	B	E-233
234	小皿	Ⅱ	1D16r	表土	1.7	7.9	4.9	6	B	E-234
					長径	短径	厚さ			
235	陶丸		1D18r	SX018	2.4	2.2	2		B	E-235
236	陶丸		1D20r	SX018	2.5	2.5	残 1.9		D	E-236
237	陶丸		1D19r	SX019	2.5	2.3	2.2		B	E-237
238	陶丸		1D19r	SX019	2.5	2.5	残 2.2		D	E-238
239	陶丸		1D19q	表土	2.4	2.3	2.4		B	E-239
240	陶丸		1D19r	平場造成	2.6	2.5	2.4		C	E-240
241	陶丸		1D18r	検出	2.4	2.4	2.2		A	E-241
242	陶丸		1D18r	平場造成	2.6	2.5	2.4		B	E-242
243	陶丸		1D19r	検出	2.6	2.3	2.2		B	E-243
244	陶丸		1D17q	表土	2.3	2	1.9		A	E-244
					器高	口径	底径			
245	四耳壺		1D19r	SX019	28.4	10.2	9.2	2	A	E-245
246	四耳壺		1D19r	SX019	25.1	9.4		6	A	E-246
247	四耳壺		1D19r	SX018	残 21.8			0	A	E-247
248	四耳壺		1D18r	平場造成	残 6.9	8.8		4	A	E-248
249	四耳壺		1D18s	表土	残 3.9	9.6		4	D	E-249
250	四耳壺		1D16q16r	表土	残 4.5	9.6		3	B	E-250
251	四耳壺		1D18s	表土	残 4.4	9.6		1	D	E-251
252	四耳壺		1D19s	平場造成	残 4.8	9.6		5	A	E-252
253	四耳壺		1D18q	表土	残 2.9		10.4	0	A	E-253
254	四耳壺		1D18r	褐色土	残 3.2			0	C	E-254
255	四耳壺		1D17q	表土	残 4.8			0	A	E-255
256	四耳壺		1D18r	平場造成	残 4.1			0	D	E-256
257	四耳壺		1D18r	平場造成	残 11.4			0	A	E-257
258	四耳壺		1D16r	表土	残 15.2			0	A	E-258
259	瓶子		1D17q	褐色土	残 6			0	A	E-259
260	瓶子	締腰	1D19r	SX019	残 21.4		10	0	A	E-260
261	瓶子	締腰	1D19r	SX019	残 24.6		9.6	0	A	E-261
262	瓶子	締腰	1D19s	平場造成	残 22.9		9.2	0	C	E-262
263	瓶子	締腰	1D19r	SX019	残 25.4		10.3	0	A	E-263
264	瓶子	締腰	1D19r	SX018	残 17.8			0	A	E-264
265	瓶子		1D19r	SX018	残 9.2			0	B	E-265
266	瓶子	締腰	1D17r	表土	残 6.8		9.6	0	B	E-266
267	瓶子	梅瓶	1D19r	SX019	残 24.8			0	B	E-267
268	瓶子	梅瓶	1D19r	SX019	残 24		7.2	0	A	E-268
269	瓶子	梅瓶	1D19t	平場造成	残 22.6			0	C	E-269
270	瓶子	梅瓶	1D16r	表土	残 8.6		8.2	0	C	E-270
271	瓶子		1D18r19r	SX018	残 0.9		9.9	0	C	E-271
272	卸皿		1D19r	SX019	3.5	13.8	7.6	7	C	E-272

遺物	種類		出土地点		法量（cm）			口縁部残存	焼成	登録
番号	器種	分類	グリッド	遺構・層位	器高	口径	底径	率　／１２		番号
273	卸皿		1D19r	SX019	3.6	13.7	8	5	C	E-273
274	卸皿		1D19r	SX018	3.7	14.6	8.1	3	B	E-274
275	卸皿		1D18r	平場造成	3.8	13.1	6.6	7	C	E-275
276	灰釉皿		1D18r	SX018	3.4	13.5	7.1	5	B	E-276
277	水注		1D17q	表土	残 2.7	4.8		2	B	E-277
278	水注		1D19t	表土	残 4			0	B	E-278
					縦	横	厚さ			
279	水注		1D17r	検出	残 4	2.5	0.8		A	E-279
280	水注		1D18q	表土	残 2.2	2.5	0.8		A	E-280
281	水注		1D18r	平場造成	残 5.5	2.4	0.7		A	E-281
					長径	短径	厚さ			
282	団子トチ		1D19s	表土	2.5	2.2	0.9			E-282
					長さ	幅	厚さ			
283	馬爪焼台	赤	1D19s	平場造成	12.4	残 9.3	5.1		硬	E-283
284	馬爪焼台	赤	1D18r	平場造成	14.3	残 10.5	7.2		硬	E-284
285	馬爪焼台	赤	1D18q	表土	5.3	4.7	3		硬	E-285
286	馬爪焼台	青	1D19q	SX001	13.8	13.5	7.8		軟	E-286
287	馬爪焼台	青	1D19q	SX001	13.8	12.9	7.7		硬	E-287
288	馬爪焼台	青	1D19q	SX001	14.3	13.6	7		硬	E-288
289	馬爪焼台	青	1D20q	SX002	13.3	12	7.6		硬	E-289
290	馬爪焼台	青	1D20q	SX002	12.3	13.3	7.4		硬	E-290
291	馬爪焼台	青	1D20q	SX002	13	13.3	7.2		硬	E-291
292	馬爪焼台	青	1D20q	SX002	12.9	12.1	5.9		硬	E-292
293	馬爪焼台	青	1D19q	SX001	16.3	14.6	12.1		非硬	E-293
294	分焔棒	赤	1D19r	SX019	残 15.8	残 10.4	残 5.4		非硬	E-294
					器高	口径	底径			
295	小皿	I	1D18r	検出	残 1.5	7.7	5		A	E-295
296	山茶碗		1D19q	SX001	残 11.3	13.4	6.2		A	E-296
297	山茶碗		1D19q	SX001	残 7	12.8	5.2		A	E-297
298	山茶碗		1D19q	SX002	残 4.7	13.3	6.1		B	E-298
		付着			長さ	幅	厚さ			
299	四耳壺	陶丸	1D18r	SX018	残 10.4	残 4.9	残 2.9		A	E-299
300	壷瓶類	陶丸	1D17r	表土	残 5.1	残 5.6	残 2.8		A	E-300
301	壷瓶類	陶丸	1D18r	平場造成	残 10.3	残 8	残 3.5		A	E-301
302	四耳壺	陶丸	1D18r	平場造成	残 10.1	残 9.4	残 3.1		A	E-302
303	壷瓶類	陶丸	1D18r	平場造成	残 5.8	残 7.8	残 3.3		A	E-303
304	山茶碗	陶丸	1D19r	平場造成	残 3.3	残 5.5	残 3.2		A	E-304
305	山茶碗	山茶碗	1D18r	平場造成					A	E-305
306	山茶碗	山茶碗	1D19q	西壁 53					A	E-306
307	山茶碗	山茶碗	1D18r	平場造成					A	E-307
308	山茶碗	山茶碗	1D19r	検出					A	E-308
309	山茶碗	山茶碗	1D18q	検出					A	E-309
310	山茶碗	山茶碗	1D16r	表土					A	E-310
311	窯壁		1D19r	表土						E-311
312	窯壁		1D19q	SX001						E-312
313	山茶碗		1D19q	SX002					C	E-313

第４章　理化学的分析

第１節　西松山峠窯跡出土炭化材の樹種同定　　野村敏江（パレオ・ラボ）

（１）はじめに

ここでは、愛知県瀬戸市北松山町に位置する西松山峠窯跡から出土した炭化材５試料の樹種同定結果について報告する。本窯跡の時期は 13 世紀頃にあたるとされる。今回同定した炭化材のうち、No.2 ～ 5 は灰原の SX001 出土であり、窯操業時の燃料材だと考えられる。No.1 は SK010 から出土し、窯の操業と同時代のものかは分からないとされている。なお、樹種同定を行った５試料は、放射性炭素年代測定も行った。

（２）炭化材樹種同定の方法

同定にあたって材の３断面（横断面・接線断面・放射断面）作成が可能な大きさの炭化材を選び出した。次に、実体顕微鏡下で材の３断面を作成し、材組織を観察した。走査電子顕微鏡用の試料は、３断面を 5mm 角程度の大きさに整形した後、直径 1cm の真鍮製試料台に両面テープで固定し試料台を作成した。この後試料台を乾燥させ、金蒸着を施し走査電子顕微鏡（日本電子㈱製　JSM-T100 型）で撮影を行った。同定した試料のうち、各分類群を代表する試料については写真図版（図 31）を添付し、同定結果を記載した。

（３）結果

各試料の樹種同定結果の一覧を表 24 に示した。同定の結果、針葉樹であるアカマツが４試料認められた。なお、No.3 は保存状態が悪く、放射仮道管の肥厚状態を確認でなかったためにマツ属までの同定に留めた。

次に同定された樹種の材組織について記載を行なう。

ａ　アカマツ　Pinus densiflora Sieb. Zucc.　マツ科　図３１（1a-1c）No.1

仮道管および垂直、水平樹脂道を取り囲むエピセリウム細胞、放射柔細胞および放射仮道管によって構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行は急であり晩材部の幅も広い。放射組織は放射柔細胞と放射仮道管によって構成される。放射仮道管の内壁の肥厚は重鋸歯状を呈す。放射柔細胞の分野壁孔は窓状となる。アカマツは高さ 30m に達する常緑高木である。北海道南部・本州・四国・九州に分布する。乱伐された地域にもよく生育する。

（４）考察

放射性炭素年代測定結果を参照すると、SK010 出土の炭化材は、1660calAD から 1960calAD の暦年代範囲を示し、窯操業時より後世のものであると考えられる。したがって、本窯跡の操業に伴い利用された材は、灰原の SX001 から出土した No.2 ～ 5 であり、樹種はアカマツ３点とマツ属１点である。山口・千野（1990）による瀬戸・美濃窯跡群の炭化材樹種構成の集計をみると、13 世紀前半から 13 世紀後半にあたる広久手、南山、穴田南の窯跡では、二葉松類やマツ類、クヌギ類が同定されている。山口・千野（1990）はこれらの窯跡から共通して二葉松類やマツ類が産出することから、周辺植生の二次林化が進んでいたことを指摘している。今回の同定結果はこうした当地域における窯業の樹種利用とほぼ一致しており、窯跡周辺の二次林化が推察された。

参考文献
山口慶一・千野裕道（1990）マツ林の形成および窯業へのマツ材の導入について.「東京都埋蔵文化財センター　研究論集Ⅷ」：85-114，東京都埋蔵文化財センター.

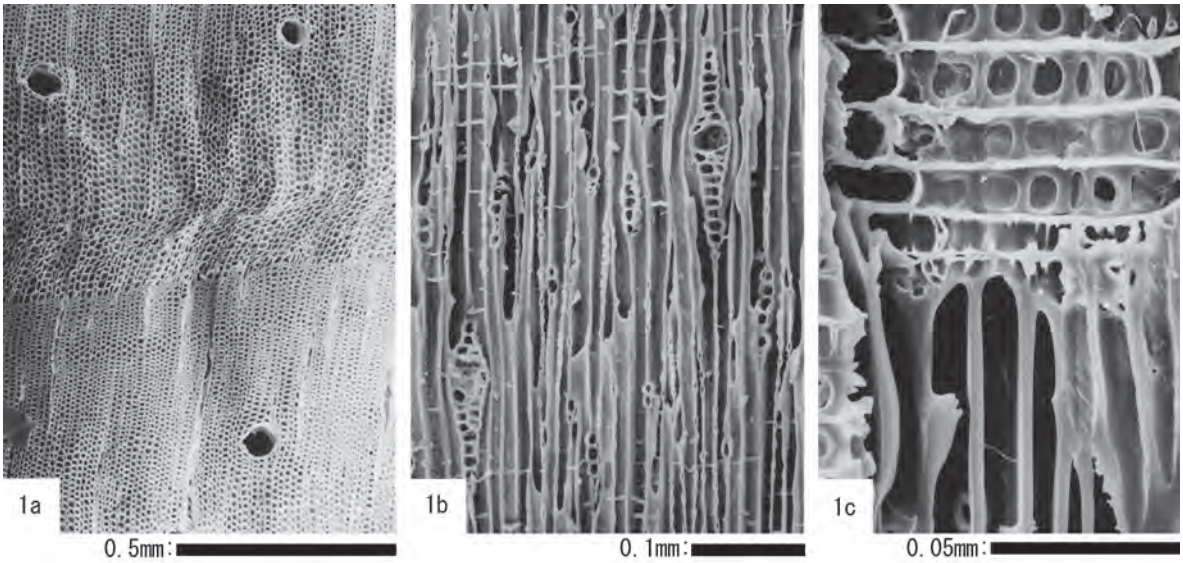


図３１　西松山峠窯跡出土炭化材の材組織の走査電子顕微鏡写真
1a-1c: アカマツ（No.1）　a: 横断面 _b: 接線断面 _c: 放射断面

表２４　西松山峠窯跡の樹種同定結果

No.	グリッド・遺構名	層位	樹種	PLD 番号
1	2D1q・SK010	東半（平場 04）	アカマツ	PLD-7680
2	1D19q・SX001	下層（黒色土）	アカマツ	PLD-7681
3		３層	マツ属	PLD-7682
4		２層	アカマツ	PLD-7683
5		下層（黒色土）	アカマツ	PLD-7684

第２節　放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ
小林紘一・丹生越子・伊藤茂・廣田正史・瀬谷薫
Zaur Lomtatidze・Ineza Jorjoliani
藤根久・野村敏江・中村賢太郎

（１）はじめに

愛知県瀬戸市・西松山峠窯跡より検出された試料について、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。試料の調製は廣田、瀬谷、Lomtatidze、Jorjoliani が、測定は小林、丹生、伊藤が行い、本文は伊藤、中村が作成した。

（２）試料と方法

測定試料の情報、調製データは表 25 のとおりである。試料は、SK010 から出土した炭化材 1 点、SX001 から出土した炭化材 4 点、計 5 点の炭化材である。なお、試料とした炭化材は樹種同定も行っており、表 25 での樹種の記述は野村敏江の報告を参照した。

試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクト AMS：NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた 14C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、14C 年代、暦年代を算出した。

表２５　測定試料及び処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-7680	位置：2D1q 遺構：SK010 層位：東半（平場 04） その他：060704	試料の種類：炭化材（アカマツ） 試料の性状：最外年輪以外部位不明 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸 1.2N)
PLD-7681	位置：1D19q 遺構：SX001 層位：下層（黒色土） その他：060801	試料の種類：炭化材（アカマツ） 試料の性状：最外年輪以外部位不明 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸 1.2N)
PLD-7682	位置：1D19q 遺構：SX001 層位：3 層 その他：060802	試料の種類：炭化材（マツ属） 試料の性状：最外年輪以外部位不明 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸 1.2N)
PLD-7683	位置：1D19q 遺構：SX001 層位：2 層 その他：060802	試料の種類：炭化材（アカマツ） 試料の性状：最外年輪以外部位不明 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸 1.2N)
PLD-7684	位置：1D19q 遺構：SX001 層位：下層（黒色土） その他：060801	試料の種類：炭化材（アカマツ） 試料の性状：最外年輪以外部位不明 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸 1.2N)

（3）結果

表 26 に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（δ 13C）、同位体分別効果の補正を行い、慣用に従って年代値、誤差を丸めて表示した 14C 年代、14C 年代を暦年代に較正した年代範囲、暦年較正に用いた年代値を、図 32 に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は年代値、誤差を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。14C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。14C 年代（yrBP）の算出には、14C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した 14C 年代誤差（± 1 σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の 14C 年代がその 14C 年代誤差内に入る確率が 68.2％であることを示すものである。なお、暦年較正の詳細は以下の通りである。

暦年較正

暦年較正とは、大気中の 14C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された 14C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の 14C 濃度の変動、及び半減期の違い（14C の半減期 5730 ± 40 年）を較正することで、より実際の年代値に近いものを算出することである。14C 年代の暦年較正には OxCal3.10（較正曲線データ：INTCAL04）を使用した。なお、1 σ暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された 14C 年代誤差に相当する 68.2％信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2 σ暦年代範囲は 95.4％信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は 14C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。それぞれの暦年代範囲のうち、その確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示してある。

表２６　放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果

測定番号	δ ^{13}C (‰)	暦年較正用年代 (yrBP ± 1 σ)	^{14}C 年代 (yrBP ± 1 σ)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ暦年代範囲	2 σ暦年代範囲
PLD-7680	-29.6 ± 10.19	164 ± 18	165 ± 20	1670AD(7.0%)1690AD 1730AD(44.1%)1780AD 1790AD(6.0%)1810AD 1920AD(11.2%)1950AD	1660AD(17.0%)1700AD 1720AD(59.3%)1820AD 1910AD(19.1%)1960AD
PLD-7681	-26.53 ± 0.21	688 ± 19	690 ± 20	1275AD(68.2%)1300AD	1270AD(77.5%)1310AD 1360AD(17.9%)1390AD
PLD-7682	-26.81 ± 0.22	656 ± 20	655 ± 20	1285AD(30.0%)1305AD 1360AD(38.2%)1385AD	1280AD(44.6%)1320AD 1350AD(50.8%)1390AD
PLD-7683	-25.80 ± 0.18	743 ± 20	745 ± 20	1260AD(68.2%)1280AD	1225AD(95.4%)1290AD
PLD-7684	-26.60 ± 0.19	705 ± 19	705 ± 20	1275AD(68.2%)1290AD	1260AD(92.2%)1300AD 1370AD(3.2%)1380AD

（4）考察

試料について、同位体分別効果の補正及び暦年較正を行った。得られた暦年代範囲のうち、その確率の最も高い年代範囲に着目すると、それぞれより確かな年代値の範囲が示された。

参考文献

Ramsey,C.B.(1995)Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy:The OxCal Program. Radiocarbon,37,425-430.

Ramsey,C.B.(2001)Development of the Radiocarbon Program OxCal.Radiocarbon,43,355-363.

中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎．日本先史時代の 14C 年代 ,3-20.

Reimer,P.J.,Baillie,M.G.L.,Bard,E.,Bayliss,A.,Beck,J.W.,Bertrand,C.J.H., Blackwell,P.G.,Buck,C.E., Burr,G.S,Cutler,K.B.,Damon,P.E.,Edwards,R.L.,Fairbanks,R.G.,Friedrich,M.,Guilderson,T.P., Hoog, A.G.,Hughen,K.A.,Kromer,B.,McCormac,G.,Manning,S.Ramsey,C.B.,Reimer,R.W.,Remmele,S., Southon,JR.,Stuiver,M.,Talamo,S.,Taylor,F.W., J.van der Plicht and Weyhenmeyer.C.E. (2004) IntCa104 terrestrial radiocarbon age calibration,0-26 cal kyr BP.Radiocarbon, 46, 1029-1058.

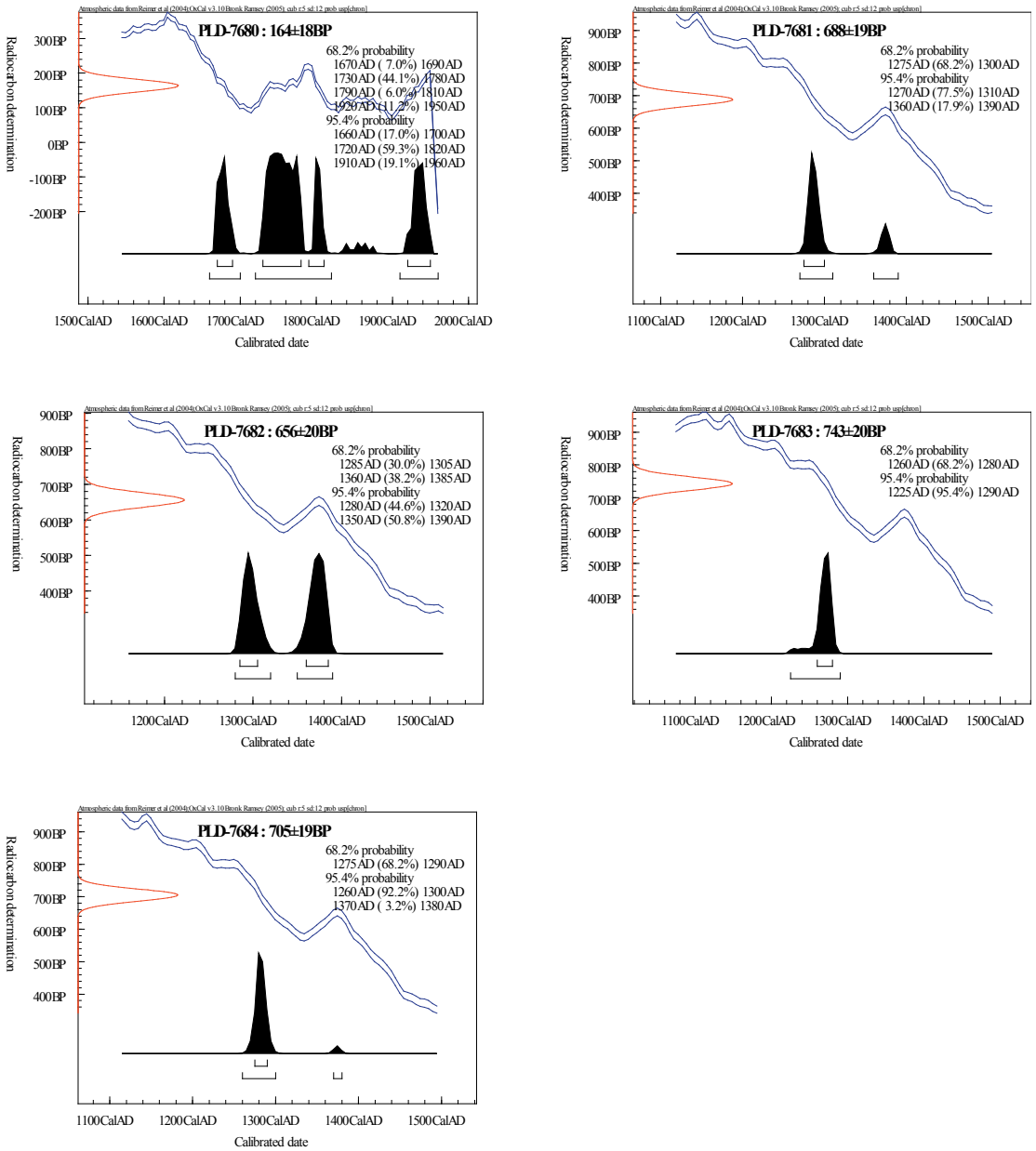


図３２　暦年較正結果

第５章　総括

第１節　調査成果のまとめ

（1）旧地形の復元

調査開始以前は、平場造成による地形の改変はあるものの、南西から北東方向に下る斜面は操業当時の地形を残していると考えていた。しかし調査の結果、調査区南部は窯業生産終了から平場造成までの間に大量の土砂の流出入があり、操業当時の地形を残していないことが判明した。一方、調査区北部は平場造成時に削平された部分を除き操業当時の地形を残していた。特に西端で検出した灰原（SX001）の下面は確実に操業当時の地山といえる。

（2）窯体の位置

調査区内で窯体は検出されなかった。しかし､調査区北西端で灰原（SX001）を検出したことから、窯体は SX001 の西方に所在すると考えられる。ただし、窯体想定地点も平場造成による地形の改変を受けているため、肉眼による地表観察では窯体残存の有無を確認することはできなかった。

（3）生産規模

出土遺物は、山茶碗・小皿・陶丸などの無釉陶器と四耳壺・瓶子・水注・卸皿などの施釉陶器（古瀬戸）に分けられる。出土の割合は山茶碗が全出土数の 93％と大多数を占める。ただし山茶碗出土数 1047 点は、灰原の流失や平場造成に伴う土砂の移動を考慮しても少ない。古瀬戸の出土量はさらに少なく焼成は 1 回のみの可能性が高い。窯体が確認されていないので、山茶碗と古瀬戸を別々の窯体で焼成した可能性も考慮する必要があるが、この時期に古瀬戸専焼窯が存在した確証はなく、出土した山茶碗と古瀬戸は同じ窯体で焼成されたと思われる。還元炎焼成の尾張型山茶碗と酸化炎焼成の古瀬戸との同時焼成は考えられないので、山茶碗と古瀬戸を焼成した順番と回数が問題になる。出土した古瀬戸の中には、陶丸が付着した四耳壺や底部外面に青灰色焼台が溶着した瓶子がみられ、山茶碗焼成時に古瀬戸を窯道具として二次利用している。このことから古瀬戸焼成後に山茶碗が焼成されていることは確実である。また、器の内面と外面の両方に自然釉がかかる山茶碗が出土しており、山茶碗は 2 回以上焼成されたことがわかる。また調査された近隣の窯跡では、すべて山茶碗生産の合間に古瀬戸を焼成していることから、山茶碗→古瀬戸→山茶碗の順番で焼成された可能性が高い。

（4）編年的位置付け

出土遺物がすべて同一窯体で焼成されたものとして、山茶碗と古瀬戸の編年的位置付けを試みる。

ａ　無釉陶器（山茶碗・小皿）

山茶碗は、高台の有無と口縁部の断面が三角形か四角形かの違いから 4 つに分類が可能である。高台は完存するものはわずかで、付着状況をみると高台内面の指ナデは全周するものの、外面はわずかな指押さえがみられる程度である。これは高台が本来の機能を失い輪ドチ化する直前の様相を示している。また無高台のものの多くに高台の剥離痕がみられ､焼成段階には高台はあったことがわかる。つまり高台の有無で時期差を判断することはできない。さらに焼成不良のため胎土が黄白色したやや軟質な山茶碗の存在に注目すると、これらは特に SX001、002 での出土の割合が高く同時焼成されたと思われる。これらの口縁部の断面は三角形のものも四角形のものもあり、口縁部の仕上げの違いも時期差をあらわしていない。以上のことから山茶碗は時期差のない短期間に 2 回以上の焼成が行

われたことがわかる。これらの山茶碗は高台が輪ドチ化する直前という特徴から、藤澤編年尾張型山茶碗第７型式の最終段階、13 世紀後半に位置付けることができよう。これは SX001 出土の炭化材による放射性炭素年代測定結果ともほぼ一致している。

小皿も口縁部や体部外面の形状の違いから４つに分類できるが、山茶碗同様型式が変わるほどの時期差はない。ただしＩとしたグループは､口縁部が厚手で器高が低く底径が広いという特徴を持ち、他のグループより新しい可能性がある。

ｂ　施釉陶器（古瀬戸）

古瀬戸としては四耳壷、瓶子、水注、卸皿がある。すべて灰釉が刷毛塗りされており鉄釉のものはない。四耳壷、瓶子、水注の共通する特徴としては、肩部から胴部上方にかけて櫛描きによる平行沈線が１ないし２ヶ所施されていることである。ただし四耳壷の中には沈線がみられないものも存在する。さらに四耳壷は口縁部の形状の違いから２つに、瓶子は締腰形と梅瓶形の２つに分けることができる。水注は把手が付き、口縁部が受口状にならないものが出土している。四耳壷と瓶子はともに肩の張りが少し緩みつつあるが、沈線は胴部最大径より上に施されている。卸皿は底径が狭く底部外面に糸切り痕を残す。団子トチによる重ね焼きが行われており、口縁部の形状で２つに分けることができる。以上の特徴から、古瀬戸は藤澤編年古瀬戸前Ⅲ期から前Ⅳ期にかけて、山茶碗と同様の 13 世紀後半に位置付けることができよう。

第２節　中世瀬戸窯における西松山峠窯跡の位置付け

本窯跡は瀬戸窯水野区に所在する。水野区には灰釉陶器窯はなく、初期山茶碗窯の段階に名古屋市守山区や尾張旭市から工人が移動してきて生産を開始したと考えられている。第５型式段階になると幡山区を中心に東濃型山茶碗と前Ｉ期の古瀬戸の併焼が開始される。この段階の水野区は東濃型山茶碗専焼窯が主流であるが、水野区西部の小田妻窯跡から第５型式の東濃型山茶碗とともに前Ｉ期の古瀬戸が出土しており、初期の段階から古瀬戸を生産している。

第６型式段階になると、瀬戸窯では東濃型山茶碗に代わり尾張型山茶碗が生産されるようになる。尾張型山茶碗の生産は猿投窯から移動してきた工人によるもので、従来からいる工人は古瀬戸のみを生産するようになったと考えられている。ただし、古瀬戸の生産は尾張型山茶碗と同じ窯体で山茶碗生産の合間に行われていた。以前は水野区で東濃型山茶碗を生産していた工人は品野区へ移動して生産を続けたと考えられていたが、現在品野区の東濃型山茶碗窯は東濃窯の影響で生産が開始されたと考えられており、水野区の工人の移動先は不明とされている。その一方で、水野区での東濃型から尾張型への変化を工人の移動と考えず、同一工人集団内での技術転換とする考えもある。

第７型式段階になると、瀬戸窯では尾張型山茶碗窯の数が爆発的に増加するが、第９型式段階になると赤津区を除きその数は急減する。これに対して水野区の窯跡数は第６型式から第９型式にかけて各型式１０基程度と多くはないが安定した生産が続けられている。古瀬戸は前Ⅱ期になると生産の中心が幡山区から分散し、その後は前Ⅲ期から前Ⅳ期にかけては瀬戸区に、中期以降は赤津区に集中する。水野区は分散期の前Ⅱ期に４基を数えるものの、その後はわずかな生産が行われているにすぎない。

以上のことから、水野区は瀬戸窯の中でも比較的早い段階から生産が始まったにもかかわらず、その後は爆発的に窯数を増減させることなく、山茶碗を中心とした小規模な生産を続けていた地域であることがわかる。

本窯跡は水野区の南部に位置し、周辺には第６型式から第９型式にかけての山茶碗を焼成した窯跡がいくつか見られる。その中には前Ⅱ期の古瀬戸を併焼した窯跡が４基（西松山１号窯跡､苗場窯跡、

水南中窯跡、水南小前窯跡）あり、前Ⅱ期の窯跡が集中する地域である。ただし生産の中心はあくまで山茶碗であり、古瀬戸生産は山茶碗生産の合間に行われたにすぎない。この時期の古瀬戸焼成窯の増加は幡山区からの工人の移動によるものと考えられているが、前述したように水野区には前Ⅰ期の窯跡が確実に存在することから、単純に他地区からの移動だけでは説明できない。続く前Ⅲ期から前Ⅳ期にかけての古瀬戸併焼窯は従来実態不明の１基（南地蔵窯跡）が知られているのみであり、工人は窯跡が集中する瀬戸区へ移動したと考えられてきた。しかし今回第７型式の山茶碗専焼窯と考えられていた本窯が、前Ⅲ期から前Ⅳ期にかけての古瀬戸併焼窯であることが明らかになったことで、水野区南部では前Ⅱ期からこの時期まで連続して古瀬戸を生産していることが明確となった。今後はこの時期の生産の中心である瀬戸区との関係がどのようであったかが課題となろう。

表２７　山茶碗・小皿グリッド別出土個体数表

		山茶碗			小皿		
グリッド	平場	破片数	重量ｇ	底部 1/2 数	破片数	重量ｇ	底部 1/2 数
1D16q	7	32	314	0	1	4	0
1D16r	7,10	1098	19496	110	10	218	3
1D16s	10,12	8	148	2	0	0	0
1D16t	12	1	50	1	0	0	0
1D17q	7	703	9847	49	5	84	1
1D17r	7	1831	23020	103	11	294	5
1D17s	10	32	428	1	1	2	0
1D17t	10,12	1	30	0	0	0	0
1D18q	4,6	1048	14829	72	3	94	2
1D18r	6	2852	38032	193	19	244	5
1D18s	6,9	89	1409	11	0	0	0
1D18t	6,12	87	2952	29	0	0	0
1D19q	4	3598	34733	127	24	711	10
1D19r	4,6	2539	36068	168	31	382	8
1D19s	6,9	596	10312	65	4	154	4
1D19t	9,12	59	1750	14	0	0	0
1D20q	4	504	5799	26	2	20	1
1D20r	5,6	420	5730	20	0	0	0
1D20s	5,6,8,9	161	3524	26	2	66	1
1D20t	9,12	8	50	0	0	0	0
2D1q	3	3	126	1	0	0	0
2D1r	3,5	11	172	1	0	0	0
2D1s	5,8	29	352	4	2	12	0
2D1t	5,11,12	2	10	0	0	0	0
2D2q	3	1	2	0	0	0	0
2D2r	5	1	10	0	0	0	0
2D2s	5,8	1	4	0	0	0	0
2D2t	8,11	2	40	1	0	0	0
2D3q	3,5	3	30	0	0	0	0
2D3r	5	2	46	1	0	0	0
2D3s	5,8	18	142	1	0	0	0
調査区外		391	5050	21	2	12	0
合計		16131	214505	1047	117	2297	40

表２８　古瀬戸グリッド別出土個体数表

グリッド	壷瓶類		皿類	
	破片数	重量 g	破片数	重量 g
1D16r	5	370	0	0
1D17q	20	1006	0	0
1D17r	41	1884	2	68
1D17s	6	147	0	0
1D18q	12	395	0	0
1D18r	66	2393	13	234
1D18s	19	622	6	52
1D18t	24	1199	0	0
1D19q	0	0	1	8
1D19r	97	5282	23	423
1D19s	53	2433	6	107
1D19t	32	1528	0	0
1D20q	3	216	0	0
1D20r	7	294	0	0
1D20s	24	1092	3	76
1D20t	12	637	0	0
2D1s	5	297	0	0
不明	3	94	8	50
合計	429	19889	62	1018

溶着資料の重量は含まず

表２９　陶丸グリッド別出土個体数表

グリッド	破片数	重量 g	1/2 残存数
1D17q	1	10	1
1D17r	1		1
1D18r	15	42	15
1D19q	1	14	1
1D19r	9	74	8
1D20r	1	10	1
合計	28	150	27

溶着資料の重量は含まず

表３０　焼台グリッド別出土個体数表

グリッド	平場	青灰色	赤褐色		
		1/2 以上残存数	破片数	重量 g	1/2 以上残存数
1D16r	7,10	3	0	0	0
1D17r	7	5	4	875	1
1D18q	4	4	1	50	1
1D18r	6,7	15	53	10170	4
1D18s	6,9	0	6	1170	0
1D18t	9	0	4	790	0
1D19q	4	166	0	0	0
1D19r	4,6	24	19	3375	1
1D19s	6	10	5	1530	1
1D19t	9	1	1	105	0
1D20q	4	7	0	0	0
1D20r	4,5,6	5	0	0	0
1D20s	6	20	0	0	0
1D18t19t	9		1	340	0
合計		260	94	18405	8

SX001,002 はすべて 1D19q に含む　　破片数、重量に分焔棒を含む

参考文献

愛知県史編さん委員会　２００７　『愛知県史別編窯業２中世・近世瀬戸系』　愛知県

太田正弘　１９８１　「瀬戸市」『日本歴史地名大系第２３巻愛知県の地名』平凡社

岡本直久ほか　２００２　『内田町遺跡』（財）瀬戸市埋蔵文化財センター

小澤一弘　２００３　「焼台からみた鶯窯跡」『研究紀要第４号』（財)愛知県教育サービスセンター　愛知県埋蔵文化財センター

尾野善裕　２００５　「中世瀬戸・常滑の窯と窯道具」『窯構造・窯道具からみた窯業ー関西窯場の技術的系譜をさぐるー研究集会資料集』　関西陶磁史研究会

金子健一ほか　１９９６　『東拝戸Ａ窯跡』（財）瀬戸市埋蔵文化財センター

河合君近　２００６　「瀬戸窯の成立」『鎌倉時代の考古学』　高志書院

佐野元　１９９２　「水南小前窯の出土遺物ー南部系山茶碗第６・７型式と古瀬戸前期の一様相ー」『平成２年度瀬戸市埋蔵文化財年報』　瀬戸市教育委員会

城ヶ谷和広ほか　１９９２　『小田妻古窯跡群』（財）愛知県埋蔵文化財センター

瀬戸市教育委員会　１９９７　『瀬戸市詳細遺跡地図』

瀬戸市教育委員会　１９９７　『瀬戸市内遺跡詳細分布調査報告書』

瀬戸市史編纂委員会　２００７　『瀬戸市史通史編上』　瀬戸市

永井邦仁　２００７　「西松山峠窯跡」『年報平成１８年度』（財）愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター

永井宏幸ほか　２００５　『凧山Ｃ窯跡・惣作・鐘場遺跡Ｉ』（財）愛知県教育サービスセンター　愛知県埋蔵文化財センター

藤澤良祐ほか　１９８５　『瀬戸暁地区内陸用地造成事業に伴う埋蔵文化財（緊急）発掘調査報告書』　瀬戸市教育委員会

藤澤良祐　１９９４　「山茶碗研究の現状と課題」『三重県埋蔵文化財センター研究紀要第３号』　三重県埋蔵文化財センター

藤澤良祐　１９９５　「土に生きる「職人」ー東海の山茶碗生産者について」『中世の風景を読む３　境界と鄙に生きる人々』　新人物往来社

藤澤良祐　２００５　『日本の遺跡５瀬戸窯跡群』　同成社

藤澤良祐　２００８　『中世瀬戸窯の研究』　高志書院

松澤和人ほか　１９９５　『水南中窯跡』（財）瀬戸市埋蔵文化財センター

水野収ほか　１９８６　『瀬戸市史資料編二自然』　瀬戸市

水野時二ほか　１９９１　『角川日本地名大辞典２３愛知県』　角川書店

調査区遠景（北東より）

調査区周辺は開発が進み現況から旧地形をうかがい知ることは難しい。調査区東側の道路は国道 155 号。

調査区遠景（南より）

調査区遠景（東より）

写真図版2

調査区近景（東より）

東向きの丘陵斜面を段々畑に開墾した様子がよくわかる。遺物の出土は調査区の北部に集中した。

調査区北部（南東より）

出土遺物は灰色土から多く出土したが、ほとんどは開墾にともなう二次堆積であった。

平場 03 南部（東より）　左：SD101　右：SD102

平場 03 北部（南より）　SX003

平場 04（南西より）

平場 05（南より）

平場 03・05（西より）　手前：平場 03　奥：平場 05

平場 06（北より）　中央白線より左側が SX018

平場 09（南より）

平場 07・10（西より）　手前：平場 07　奥：平場 10

トレンチ 01 断面（西より）

トレンチ 01 深堀断面（北より）

底から山茶碗が出土し、中世以降の堆積と判明した。

トレンチ 02 断面（北西より）

手前左：SX001　手前右：SX002

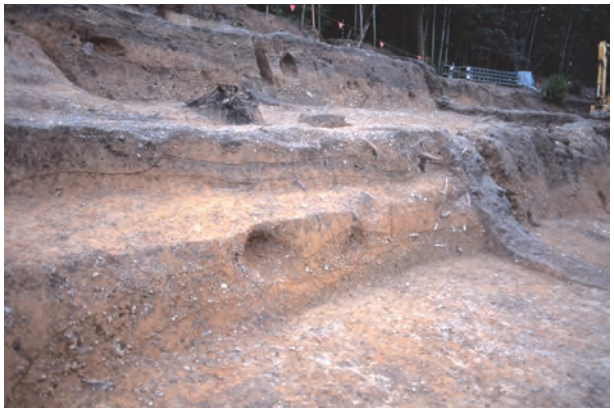
ベルト 01 断面（北西より）　手前中央：畑にともなう埋甕

調査区西壁（東より）　中央：SK111　左の灰層：SX001

ベルト 02 断面（南東より）

褐色土は地山層。平場造成時に削平された様子がよくわかる。

ベルト 03 断面（南東より）



ベルト 04 断面（南東より）

SX001 遺物出土状態（南西より）　灰原。多数の焼台に混じり山茶碗・小皿が出土した。

SX001 南北断面（北東より）

SX001 東西断面（北東より）　間に灰層がみられる。

SX001 完掘状況（北東より）

SX002 遺物出土状態（北西より）　山茶碗の高台が剥離した状態で大量に出土した。

SX019 遺物出土状態（北西より）

SX019 遺物出土状態（北より）

山茶碗・小皿に混じり古瀬戸製品が出土した。

SX019 断面（北東より）

浅い凹地に遺物が堆積している様子がわかる。

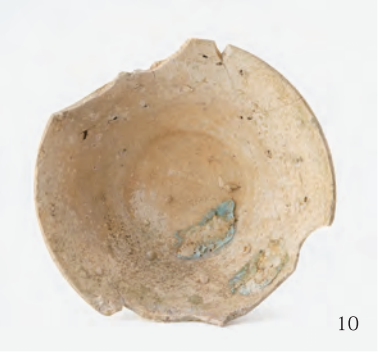
SX019 完掘状況（北西より）


1


1


1


10


10


10


43


43


43


56


56


56


92


92


92

写真図版8


203


203


203


212


212


212


214


214


214


225


225


225


232


232


232


194


195


193


193


301


302

写真図版10


267


263


261


261


261


247


278


278


278


281 279 277

写真図版12


272


272


272


275


275


275


276


276


276


282


282


272

団子トチ使用痕


291


286


293


291


286


293


283


284


283


284


285


285


284

写真図版14


294


260


305


306


307


308


309


310


312


311


311

報告書抄録

ふりがな	にしまつやまとうげかまあと
書名	西松山峠窯跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第 160 集
編著者名	宇佐見守・野村敏江・小林紘一・丹生越子・伊藤茂・廣田正史・瀬谷薫・Zaur Lomtatidze・Ineza Jorjoliani・藤根久・中村賢太郎
編集機関	財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒 498-0017　愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦２００９年３月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °　′　″	東経 °　′　″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
にしまつやまとうげかまあと 西松山峠窯跡	あいちけんせとし 愛知県瀬戸市 きたまつやまちょう 北松山町	23204	03183	35° 14’ 13”	137° 4’ 47”	20060620 ～ 20060803	750	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西松山峠窯跡	古窯跡	鎌倉	灰原・土坑	山茶碗・古瀬戸	古瀬戸の出土

文書番号	発掘届出（18 埋セ第 7 号・18.5.16） 通知（18 教生第 426 号・18.5.30） 終了届・保管証・発見届（18 埋セ第 39 号・18.8.22） 鑑査結果通知（18 教生第 1306 号・18.9.25）

要約	調査区は中世以降の土砂流出入や近現代の平場造成により地形が大きく改変されており、良好な遺構としては、北西部で灰原の一部である焼台集積遺構を検出したのみである。出土遺物としては、第７型式の尾張型山茶碗と前Ⅲ～Ⅳ期の古瀬戸が出土し、従来山茶碗専焼窯と考えられていたが本窯が、鎌倉時代（13 世紀後半）の古瀬戸焼成窯（山茶碗併焼窯）であることがわかった。

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第１６０集

西松山峠窯跡

２００９年3月３１日

編集・発行　財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

印　　刷　新日本法規出版株式会社